

建築構造図 図面リスト

図 番	図面名称	縮尺 (A3版)	図 番	図面名称	縮尺 (A3版)
S-00	建築構造図 図面リスト	N.S.	S-34	基礎フーチング断面図	1:60
S-01	構造特記仕様書 (1)	N.S.	S-35	地中大梁断面リスト	1:60
S-02	構造特記仕様書 (2)	N.S.	S-36	地中小梁断面リスト	1:60
S-03	構造特記仕様書 (3)	N.S.	S-37	柱芯案内図	1:60,1:180
S-04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)	N.S.	S-38	鉄骨柱リスト	1:60
S-05	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)	N.S.	S-39	鉄骨大梁リスト	1:60
S-06	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)	N.S.	S-40	鉄骨小梁・その他鉄骨部材リスト	1:20
S-07	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (4)	N.S.	S-41	床版スラブリスト	1:60
S-08	鉄骨標準図 (1)	N.S.	S-42	鉄骨軸組詳細図	1:80
S-09	鉄骨標準図 (2)	N.S.	S-43	階段詳細図 (1)	1:60
S-10	鉄骨標準図 (3)	N.S.	S-44	階段詳細図 (2)	1:60
S-11	フラットデッキ標準図	N.S.	S-45	雑詳細図 (1)	1:60
S-12	鉄骨柱脚標準図 (1)	N.S.	S-46	雑詳細図 (2)	1:60
S-12a	鉄骨柱脚標準図 (2)	N.S.			
S-13	F.T.Pile構法 (標準タイプ)	N.S.			
S-14	F.T.Pile構法 (引抜き対応, 非SC杭タイプ)	N.S.			
S-15	地質調査位置・断面図	1:400	S-51	【渡り廊下】杭伏図	1:200
S-16	計画地ボーリング柱状図	1:250	S-52	【渡り廊下】基礎伏図	1:200
S-17	既往土質ボーリング柱状図 (1)	1:250	S-53	【渡り廊下】2 階伏図	1:200
S-18	既往土質ボーリング柱状図 (2)	1:250	S-54	【渡り廊下】R 階伏図	1:200
S-19	既往土質ボーリング柱状図 (3)	1:250	S-55	【渡り廊下】軸組図	1:200
S-20	既往土質ボーリング柱状図 (4)	1:250	S-56	【渡り廊下】杭リスト・基礎フーチング・地中梁断面図	1:60
S-21	杭伏図	1:200	S-57	【渡り廊下】柱芯案内図	1:60,1:150
S-22	基礎伏図	1:200	S-58	【渡り廊下】鉄骨部材リスト	1:60
S-23	1 階伏図	1:200	S-59	【渡り廊下】床スラブリスト・その他詳細図	1:30
S-24	2 階伏図	1:200	S-60	【渡り廊下】鉄骨軸組詳細図	1:60
S-25	3 階伏図	1:200	S-61	【バルクタンク置場】伏図・軸組図・部材リスト	1:60,1:20
S-26	R 階伏図	1:200	S-62	【貯雪スペース】断面配筋詳細図	1:60
S-27	塔屋伏図	1:200			
S-28	軸組図 (1)	1:200	S-71	(参考図) 山留計画 (1)	1:200
S-29	軸組図 (2)	1:200	S-72	(参考図) 山留計画 (2)	1:200
S-30	軸組図 (3)	1:200	S-73	(参考図) 1 階梁貫通スリーブ伏図	1:200
S-31	軸組図 (4)	1:200	S-74	(参考図) 2 階梁貫通スリーブ伏図	1:200
S-32	軸組図 (5)	1:200	S-75	(参考図) 3 階梁貫通スリーブ伏図	1:200
S-33	軸組図 (6)	1:200	S-76	(参考図) R 階梁貫通スリーブ伏図	1:200

6章

コンクリート工事

本章はJASS5（2009年版）に準拠する。< >内にJASS5における項目番号を示す。

①. コンクリートの計画調合

<3.1>~<3.10>
<4.1>~<4.5>
<5.1>~<5.11>

コンクリートの種類、品質基準強度、セメントの種類、スランブ、単位水量、混和剤等は下表による。（品質基準強度Fqは、FdとFcの大きい方とする。）

指定	使用箇所	使用骨材による コンクリートの 種類	セメントの種類	計画供用期間の級 (耐久設計基準 強度Fd(N/mm ²))	設計基準 強度 Fc(N/mm ²))	品質基準 強度 Fq(N/mm ²))	スランブ (cm)	単位水量 の最大値 (kg/m ³))	特殊なコンクリートの 適用	強度管理 の材齢	混和剤・混和材
.	場所打コン クリート杭	普通	高炉セメントB種 ・普通ポルトランドセメント	/			18	185	・水中コンクリート	28日 ・日	AE減水剤 ・
○	健診施設棟	普通	高炉セメントB種 ・中熟熱ポルトランドセメント ○普通ポルトランドセメント	・超長期 (Fd36) ・長期 (Fd30) ○標準 (Fd24) ・短期 (Fd18)	24	24	18	185	・	28日 ・日	高性能AE水剤 ・AE減水剤
○	渡り廊下	普通	高炉セメントB種 ・中熟熱ポルトランドセメント ○普通ポルトランドセメント		24	24	18	185	・	28日 ・日	高性能AE水剤 ・AE減水剤
○	ガスパルク置場 貯雪スペース	普通	高炉セメントB種 ・中熟熱ポルトランドセメント ○普通ポルトランドセメント		24	24	18	185	・	28日 ・日	高性能AE減水剤 ・AE減水剤
.		普通	高炉セメントB種 ・中熟熱ポルトランドセメント ・普通ポルトランドセメント						・	28日 ・日	高性能AE減水剤 ・AE減水剤
○	土間コンクリート	普通	普通ポルトランドセメント	/		21	21	15	185	28日 ・日	AE減水剤 ・
○	無筋コンクリート (押入コンクリート 等)	普通	普通ポルトランドセメント	/	21	21	15	185	・	28日 ・日	AE減水剤 ・
○	捨コンクリート	普通	高炉セメントB種	/	18	18	15	185	・	28日 ・日	AE減水剤 ・
○	外構 簡易コンクリート	普通 ・軽量 種	普通ポルトランドセメント	/	21	21	15	185	・	28日 ・日	AE減水剤 ・

調査管理強度 (Fm) は、品質基準強度 (Fq) に構造体の強度補正值 (28S₉₁) を加えた値以上とする。【Fm = Fq + 28S₉₁】

セメントの種類	予想平均気温 の範囲()	暑中コンクリート
普通ポルトランドセメント	8 0	<8
中熟熱ポルトランドセメント	11 0	<11
高炉セメントB	13 0	<13

構造体の強度補正值 (28S₉₁)

	3N/mm ²	6N/mm ²	6N/mm ²

使用するコンクリートは、JIS A 5308に適合するコンクリートまたは
建基準法第37条認定品を原則とする。

所定空気量の目標値は普通コンクリートで4.5%、軽量コンクリートで5%とする。
コンクリートに含まれる塩化物量は塩化物イオン (Cl⁻) 量で0.30kg/m³
以下とする。(計画供用期間の級が長期・超長期の場合は0.20kg/m³以下とする。)

・品確法に基づくスランブ規定の適用

・コンクリート強度が33N/mm²未満の場合は18cm以下、33N/mm²以上の場合は21cmとする (劣化等級3,2)
(同等の材料分離抵抗が認められないものにあっては、この限りではない)

・品確法に基づく水セメント比規定の適用 (主要構造部への適用)

・50% (45%) 以下 (劣化等級3)
・55% (50%) 以下 (劣化等級2)
() 内の数値は軽量コンクリートの場合を示す。

骨材はアルカリ骨材反応を生じる恐れのないものとする。
(計画供用期間の級が超長期の場合は化学法で判定すること。)

使用箇所の階表示は右図による。

1階

B1階

地中梁

計画供用期間の級の水準は下表による。

級	大規模補修不要期間	供用限界期間	耐久設計基準強度 Fd
超長期	約200年	—	36N/mm ² 以上
長期	約100年	—	30N/mm ² 以上
標準	約65年	約100年	24N/mm ² 以上
短期	約30年	約65年	18N/mm ² 以上

かぶり及び鉄筋の定着長に関して、必ず施工前に係員の承諾を得ること。

計画供用期間の級が (長期・超長期・標準以上・短期以上) の場合は以下を
堅守すること。

・コンクリートの乾燥収縮率 (8.0×10⁻⁴・) 以下とする。

・コンクリートのひび割れ幅 (0.3mm・) 以下とする。

・コンクリートの打重ね時間 (60分・) 以内とする。

・せき板存置期間に必要な圧縮強度 (10N/mm²・) 以上とする。

管理値が、重複して存在する場合は、もっとも厳しい管理値を採用する。

・圧縮強度に対して算定されるヤング係数の80%以上であることを確認すること。
ただし、使用するコンクリートまたは類似の材料・調合のコンクリートのヤング
係数の試験結果がある場合は、試験を省略することができる。試験練りの供試体
の応力-ひずみ曲線から算出する。

②. コンクリートのひび割れ

竣工後コンクリートに著しいひび割れが生じた場合は、施工業者により調査し、
必要に応じて補修を行うこと。その場合、外壁等で雨水の浸透の恐れが有る部分
には、伸縮性がある水性ポリマー樹脂を使用する。
コンクリートのひび割れ対策は日本建築学会「鉄筋コンクリート造のひび割れ
対策(設計・施工)指針・同解説」による他、下記による。
地上部分のコンクリートの単位水量を (170・185) kg/m³以下とする。
(構造関係特記仕様書6章1項の表参照)
その他のひび割れ対策は、ひび割れ対策要領図による。

③. コンクリートの打継ぎ <7.8>

④. コンクリートの打込み <7.5>

⑤. 型枠 <8節>
(標準仕様書6.8.1
~6.8.6)

地下室で土に接する部分の打継ぎ部分に止水板を用いる。
止水板の仕様 (選定の上、承諾を得ること)
水平打ち継部は高圧洗浄等によりレイタンスを除去する。

柱、壁のコンクリート打設は縦形フレキシブルシュート等を使用する。

本項に限り、JASS59節の他、共通仕様書6.8.1~6.8.6を適用する。
コンクリートの型枠等は下表による。
型枠の存置期間は、建設省告示110号によること。

仕上面	適用	適用箇所	型枠の種類	板厚 (mm)	図示のない場合 の打増し厚さ)
A種	・	一般部化粧放し (打放し補修仕上剤 併用)	型枠用合板表面加工品 ・型枠用合板 A-B、A-C ・図示による	12 ・15	外壁・内壁のか ぶり厚さは、鉄 筋標準図「11・ ひび割れ誘発目 地」による。
		・部化粧放し (打放し補修仕上剤 併用)	型枠用合板 A-B、A-C ・図示による	12 ・15	
	○	上記を除く、下記 注1)のA種仕上箇所	型枠用合板表面加工品 ・図示による	12 ・15	
B種	○	下記注1)のB種 仕上箇所	型枠用合板 B-C ・図示による	12 ・15	
C種	○	下記注1)のC種 仕上箇所	型枠用合板 B-C ・図示による	12 ・15	
特殊	・	・	・	・	外部__内部__
	・	・	・	・	外部__内部__

注1)コンクリート仕上り面の種別は下記による。
A種：目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とし、化粧放し、クロス張り、
粘着剤付ビニルシート張り又は塗装仕上程度を施すコンクリート表面に
適用する。
B種：目違い、不陸等の少ない良好な面で、グラインダー掛け等により平滑に
調整されたものとし、仕上塗剤又は防水仕上程度を施すコンクリート表
面に適用する。
C種：打放しのままで、目違い払いを行ったものとし、上記A種・B種以外の
仕上箇所に適用する。タイル仕上の場合は躯体処理の有無に拘らずC種
とする。
注2)断熱材兼用型枠の適用は19章内装工事による。

⑥. 受入時の試験・検査
(標準仕様書6.9.1
~6.9.6)

受入時の試験・検査は表6.9.1及び表6.9.2により行う。
試験機関は「建築物の工事における試験及び検査」に関する (表6.9.1)
東京都取扱い要綱」の第4条の条件を備えた機関とする。 (表6.9.2)
・単位水量を管理する。
管理目標値と設計値の関係および運用方法はJASS5解説表11.10による。

⑦. 寒中コンクリート
暑中コンクリート
<12節>
<13節>

寒中コンクリート及び暑中コンクリートの適用期間等は下表による。

指定	コンクリートの種類	適用事項	混和剤
○	寒中コンクリート	12月21日~3月10日	本章1項による ¹⁾
○	暑中コンクリート	7月20日~9月2日	本章1項による ¹⁾

備考 原則は、「建築工事標準仕様書・同解説」JASS5より参照する。

注1)気温の状態により、寒中時の混和剤は促進形、暑中時の混和剤は遅延形
を用いる。
・暑中コンクリートにおいて以下を満足する場合、係員の承諾を得て
28S₉₁=3N/mm²とすることができる。
イ.打込み時のコンクリート温度を35以下とする。(全量管理を行うこと。)
ロ.コンクリートの圧縮強度管理は、本コンクリートを打設した構造躯体から
採取した91日材齢コア強度、又はこれに準ずる方法で管理を行うこと。
ハ.上記イ、ロを含む暑中コンクリート施工計画書を提出し、係員の承諾を得る
こと。
軽量コンクリートの使用箇所及び種別は本章1項による。
単位容積重量 () kN/m³
その他調査に関する特記 (本章1項による・下記による・図示による)

8. 軽量コンクリート
<14節>

9. 流動化コンクリート
<15節>

流動化コンクリートの使用箇所 (本章1項による・)
スランブの指定 (・本章1項による ベース cm、流動化後 cm)
流動化剤の投入場所 (工事現場・レディミクストコンクリート工場)
その他調査に関する特記 (本章1項による・下記による・図示による)

10. 高流動コンクリート
<16節>

本項で記載された内容は、本章1項に優先する。
高流動コンクリートの使用箇所 (本章1項による・)
調査等は、各レディミクストコンクリート工場で取得した大臣認定仕様による
が、原則として下記条件を満足すること。
スランブフロー値 (60cm・ cm)
セメントの種類 (中熟熱ポルトランドセメント・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種・)
強度管理の材齢 (28日・日)
水結合材比 (混和材が無い場合は水セメント比)の最大値 (50%・ %))
単位水量の最大値 (・本章1項による 170kg/m³・ kg/m³)
試験練りにおけるコンクリートのヤング係数の測定 (行う・行わない)
その他特記事項 (・下記による・図示による)

11. 高強度コンクリート
<17節>

本項で記載された内容は、本章1項に優先する。
高強度コンクリートは、設計基準強度36N/mm²を超えるコンクリートに適用する。
調査等は、各レディミクストコンクリート工場で取得したJIS又は大臣認定
仕様によるが、原則として下記条件を満足すること。
セメントの種類 (中熟熱ポルトランドセメント・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種・普通ポルトランドセメント)
スランブまたはスランブフロー値の指定
36<Fc<45N/mm²の場合 (スランブ21cm以下またはスランブフロー50cm以下
・スランブ cm・スランブフロー cm)
45<Fc<60N/mm²の場合 (スランブ23cm以下またはスランブフロー60cm以下
・スランブ cm・スランブフロー cm)
強度管理の材齢 (28日・日)
水結合材比 (混和材が無い場合は水セメント比)の最大値 (50%・ %))
単位水量の最大値 (・本章1項による 170kg/m³・ kg/m³)
試験練りにおけるコンクリートのヤング係数の測定 (行う・行わない)
試験練りにおけるコンクリートの単位容積重量の測定 (行う・行わない)
その他特記事項 (・下記による・図示による)

12. 鋼管充填
コンクリート
<18節>

コンクリートの施工は (圧入工法・落とし込み工法・)とする。
コンクリートのブリージング量は (0.1cm³/m³・)以下とする。
コンクリートの沈降量は (2.0mm・)以下とする。
スランブフロー値 (60cm・)とする。

13. マスコンクリート
<21節>

本項で記載された内容は、本章1項に優先する。
マスコンクリートの使用箇所 (本章1項による・)
スランブは15cm以下を標準とする。ただし、高性能AE減水剤または、流動化剤
を用いる場合は18cm以下とすることができる。
セメントの種類 (中熟熱ポルトランドセメント・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種・)
強度管理の材齢 (56日・日)
本章1項で規定した混和剤の種類 (遅延形・標準形)
荷卸し時のコンクリートの温度 (35以下・以下)
打込後のコンクリートの表面温度、内部温度、外気温の測定 (行わない
・行う)
その他特記事項 (・下記による・図示による)

14. 水中コンクリート
<24節>

水セメント比の最大値 (55%・ %))
単位セメント量の最小値は下記による。
場所打コンクリート杭 (340kg/m³・ kg/m³)
・地中連続壁 (360kg/m³・ kg/m³)
その他特記事項 (本章1項による・下記による・図示による)

15. その他の
コンクリート
<19節>~<20節>
<23節>~<24節>
<25節>~<26節>
<27節>~<28節>

適用するコンクリート

適用	特殊なコンクリート	適用箇所	備考
・	プレストレスト コンクリート	本章1項による ・図示による	詳細は図示による。
・	プレキャスト複合 コンクリート	本章1項による ・図示による	詳細は図示による。
・	水密コンクリート	・本章1項による 水槽・プール・地下室等 圧力水が作用するコンク リート	スランブ 18cm以下 空気量 4.5%以下 水セメント比 50%以下
・	海水の作用を受ける コンクリート	・本章1項による 海水に接するコンクリー ト及び海岸から (100m・m) 以内にある建物のコンク リート	水セメント比の最大値は、 表24.2による かぶり厚さの最小値は、 表24.3による 特殊な鉄筋の使用は特記 による。
・	凍結融解作用を 受けるコンクリート	・本章1項による 凍結融解作用に対する耐 久性を特に必要とするコ ンクリート	性能区分(A~C)に応じた 骨材の品質及び調査は、 表26.2による。
・	遮蔽用コンクリート	・本章1項による ガンマ線や中性子線等の 放射線を遮蔽するコンク リート	スランブ 18cm以下 水セメント比 55%以下 品質管理の検査項目 放射線漏洩検査 ・行う・行わない
・	エコセメントを使用 するコンクリート	本章1項による ・図示による	詳細は図示による。
・	再生骨材 コンクリート	本章1項による ・図示による	詳細は図示による。

その他特記事項 (本章1項による・下記による・図示による)

16. 構造スリット

構造スリットの位置は、伏図・軸組図による。
構造スリットの仕様は、詳細図示による。
○かぶり厚検査は以下による。
○JASS511.10節による。
・ (10%・)の部材に対し、非破壊検査を行う。
抜き取り方法、検査方法、合否判定等はJASS5による。

17. 品質管理
<11節>

18. 品確法に基づく
施工計画の指定

劣化対策等級に応じた各施工条件を満足すること。
・打込み締め固め方法
コンクリートが均質かつ密実充填され、所要の強度と耐久性を有し、有害な
打込み欠陥部の無い構造体コンクリートが得られるように行う。(JASS5-7節)
・打ち継ぎ部の処理
レイタンスや脆弱なコンクリートを取り除き新たに打込むコンクリートと一体
となるように処置する。(JASS5-7節)
・養生方法
急激な乾燥、過度の高温または低温の影響、急激な温度変化、振動及び外力
の悪影響を受けないようにする。(JASS5-8節)

株式会社 山下テクノス

TECHNOS YAMASHITA TECHNOS CO., LTD.

代表設計者
一級建築士 第147732号 松崎 正志

設計者
一級建築士 第280115号 李 康仙
構造設計一級建築士 第3442号

提出・訂正

件名

健診施設等建設事業 建築工事

図面内容

構造特記仕様書 (2)

図面番号

S-02

縮尺

N.S.

区分

建築構造図

7章		鉄骨工事		施工者による品質管理		諸試験・諸検査		施行令第129条の2の4の事項										
①. 鉄骨製作工場 (7.1.3)	鉄骨製作工場の指定 (鉄骨規準図による ・下記による) H グレード			1. ISO品質管理 責任者	施工者は自社のISO 9000システム等を活用し、品質管理責任者の指導により、一度指摘された事項が発生しないようにすること。		①. 試験検査に要する費用	工事現場外で行う諸試験・諸検査に要する費用 (監理者の東京からの交通費・宿泊費を含む) は全て施工業者の負担とする。										
	②. 施工管理技術者 (7.1.4)	施工管理技術者を置く ・施工管理技術者を置く必要はない			②. 専門技術者による 作業所への支援	以下の項目について、作業所スタッフ以外の専門技術者が、施工計画の立案を作業所と協力して行い、施工計画書に確認印を押印する。 ○杭工事施工計画 () ○コンクリート打設計画、ジャンカ・コールドジョイント・ひび割れ等の補修要領 (基礎梁及び柱壁立上りの打設第一回目に立会いする) ・マスコンクリート温度ひび割れ解析、施工計画、温度測定計画 ○鉄骨溶接部 (工場・現場共) の品質管理 (工場中間検査、製品検査及び現場溶接開始時に立会う) ○特殊工法の施工計画・品質管理 ()		②. 第三者試験・検査 機関	ガス圧接部の検査・コンクリート受入時の検査等、第三者による検査は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条 (試験機関) 条件を備えた機関とする。 1 試験機関は、正確かつ公正な試験を実施するために必要な次に掲げる条件を備えるものとする。 (1) 試験の対象となる工事に關して公正な立場にあること。 (2) 試験の業務に関する専任の管理者を置いていること。 (3) 試験の業務に関する資格等を有する専任の試験技術者及び試験実務担当者を用意していること。 (4) 試験を実施するために必要な人員、機器及び設備を備えていること。 (5) 試験を正確かつ公正に実施するため、適切に定められた試験業務管理基準によって試験業務を運営していること。 2 普通コンクリートの場合で、設計基準強度 (Fc) が36N/mm ² を超える高強度コンクリート (以下「高強度コンクリート」という。) の試験を実施する試験機関に必要な条件は、前項によるほか次に掲げる条件を備えるものとする。ただし、知事がこれと同等と認める試験機関についてはこの限りでない。 (1) 試験する高強度コンクリートに必要な試験の業務に関する資格を有する専任の技術者を置いていること。 (2) 高強度コンクリートに対して充分な性能をもつ試験機及び必要な設備機器を備えていること。 (3) 試験の信頼性を確保するため、試験に係わる供試体の作成、養生及び運搬等の業務を行う代行業者に対する審査基準を定めており、試験を受託する場合は、その審査基準に適合する代行業者の供試体以外は受託しないこと。 鉄骨工事における第三者試験・検査機関は上記条件を満足する他、鉄骨規準図による条件を満足すること。									
		③. 鋼材 (7.2.1)	鋼材の種類は鉄骨規準図、その他図示による。			③. 現場キックオフ ミーティング			躯体の品質管理の関わるキックオフミーティングを (行う ・行わない) 出席者は、構造設計者、監理者、現場品質管理責任者、作業所スタッフ、上記専門技術支援者とする。 監理者もしくは構造設計者より、品質管理上の注意事項の伝達、提出書類リスト・立会い検査項目リストの運用方法の説明を行う。 施工者より、自社ISOシステムによる品質管理方法及び不具合再発防止策の説明を行う。施工者各技術支援者より、今回物件に対応した重点品質管理項目及びその方法について説明を行う。		3. その他特記事項	建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。 建築設備 (昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れのないものとする。 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、構造耐力上主要な部分に、緊結すること。 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 建築物の部分を通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。 建築物に設ける電気温水器その他の給湯設備にあっては、建設省告示第1388号第5により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造上安全なものとする。 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上からの突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。 設備機器の固定等は、「国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修 (建築設備耐震設計・施工指針 2005年版) 」により行う。ただし、設計用地震力 (水平及び鉛直) は次の設計用水平震度KH及び設計用鉛直震度KV (KH/2) を用いて計算する。設計用水平地震力と設計用鉛直地震力は同時に作用するものとする。						
			④. 高力ボルト (7.2.2)						高力ボルトの種類は鉄骨規準図、その他図示による。			4. その他特記事項						
			⑤. アンカーボルトの種類及び設置 (7.2.4) (7.10.3)						アンカーボルトの種類・保持及び埋込工法は下表による。 (表7.10.1)							⑥. デッキプレート (7.2.7)		
適用	種 別	適用箇所		材 質	アンカーボルトの保持及び埋込工法													
⑥. デッキプレート (7.2.7)	⑦. 各種検査・試験 (7.2.10) (7.4.8) (7.6.3) (7.6.10) (7.6.11) (7.7.5)	⑧. 錆止め塗装 (7.8.3) (7.8.4)	⑨. 溶融亜鉛めっき (7.12.3) (7.12.4)	注1) 構造用アンカーボルトの場合、台直しは不可とする (鉄骨製品の方で寸法調整すること)。 柱底均しモルタルの工法 (A種 ・B種 ・図示による) (表7.10.2)		設備関連		⑦. その他特記事項										
				デッキプレートの材質は (下表による ・図示による)		①. 機械基礎		③. その他特記事項										
				指定	使用法	形 状	厚 さ	亜鉛めっき	種 類	②. 設備貫通孔								
				・	合成 スラブ用	図示 ・h=75mm ・h=50mm	図示 ・t=1.2mm ・t= mm	有	SDP2GA (Z12) ・SDP2GB (Z27)	建築工事施工者は、設備工事業者と打合せの上、機械基礎の位置・寸法・機器運転重量・設計水平震度等を施工図に反映して監理者の承認を得ること。								
									・無	・SDP1T ・SDP2	建築工事施工者は、設備工事業者と打合せの上、梁・壁・スラブの貫通孔の位置・径・レベル等を施工図に反映して監理者の承認を得ること。 伏図・軸組図・平面図・立面図等の図示に無い設備による大開口 (ガラリ・ダクト等) や、多数の開口が並ぶ箇所が発生した場合は、監理者と協議の上、補強等対策を行うこと。							
⑦. 各種検査・試験 (7.2.10) (7.4.8) (7.6.3) (7.6.10) (7.6.11) (7.7.5)	⑧. 錆止め塗装 (7.8.3) (7.8.4)	⑨. 溶融亜鉛めっき (7.12.3) (7.12.4)	⑩. 溶融亜鉛めっき (7.12.3) (7.12.4)	・有	SDP1GA (Z12) ・SDP1GB (Z27) ・SDP2GA (Z12) ・SDP2GB (Z27)	伏図・軸組図・平面図・立面図等の図示に無い設備による大開口 (ガラリ・ダクト等) や、多数の開口が並ぶ箇所が発生した場合は、監理者と協議の上、補強等対策を行うこと。												
					・無	・SDP1 ・SDP1T ・SDP2	スラブ内に埋込む配管・ケーブル類の径はスラブ厚の1/4以下とし、間隔は径の3倍以上のピッチかつ、5cm以上のあきを確保すること。特に、EPS廻り等で、埋込む配管・ケーブル類が集中する箇所は、監理者と協議の上、スラブを下げて増打しコンクリート内に埋込む等の処置を行うこと。											
					注) h：デッキプレートの山高		④. 設備業者による工事 に関する注意事項											
					鉄骨に関する検査・試験は鉄骨規準図による。 ・その他検査・試験に関する特記 (・図示による ・下記による)		⑤. その他特記事項											
					鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		①. 諸官庁への届出 2. その他特記事項											
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁との対応																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 C種) (表18.2.2) 錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。 (表18.3.1) 錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 A種 (JIS K 5674 1種 ・5625 ・) B種 (JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) 耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 錆止め塗装を必要とする箇所に耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) 防錆措置の仕様は、 図示 による 防錆措置が求められない部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。		諸官庁への届出 2. その他特記事項																
鉄鋼面の素地ご																		

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項


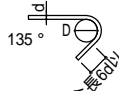
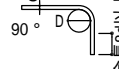
（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

d：異形棒鋼の呼び名に用いた数値(径) D：部材の成、又は鉄筋内法直径
@：間隔 r：半径 CL：中心線 do：部材間の内法距離 ho：部材間の内法高さ
St.：あばら筋 HOOP：帯筋 S.HOOP：補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

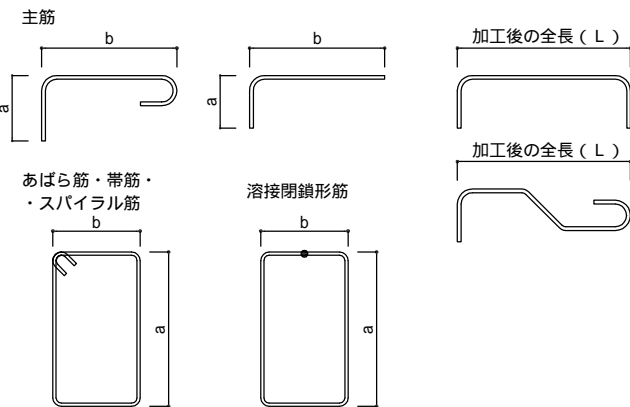
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295A	D16以下	3d以上
	135°	SD295B	D19～D41	4d以上
	90°	SD345		
	90°	SD390	D41以下	5d以上
		SD490	D25以下	
	90°	SD490	D29～D41	6d以上

- [注]（１）dは呼び名に用いた数値とする。
（２）スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
（３）片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
（４）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
（５）折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
（６）SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差

項目			符号	許容差
各加工寸法 ⁽¹⁾	主筋	D25以下	a、 b	± 15
		D25以上D41以下	a、 b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a、 b	± 5
加工後の全長			L	± 20

[注]（１）各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



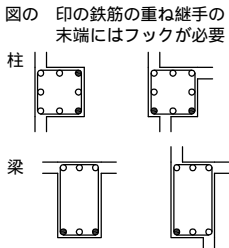
（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

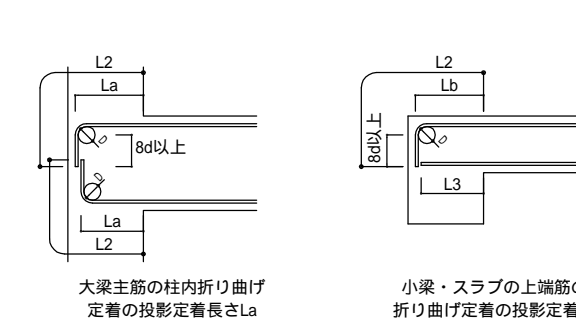
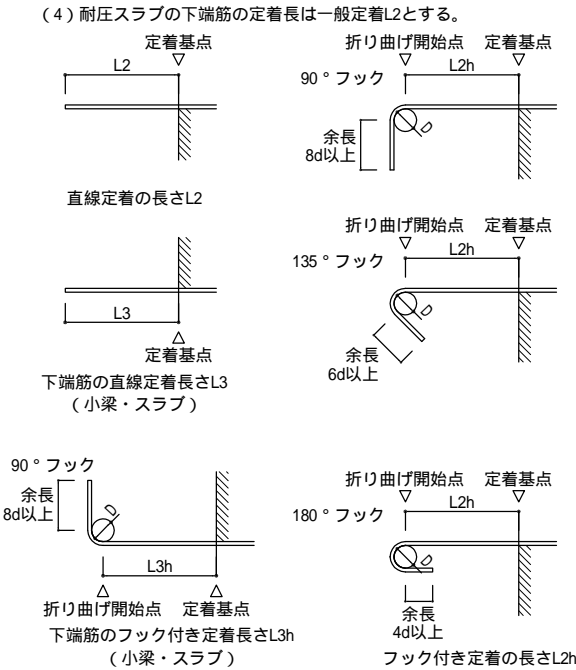
- a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。
a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
c. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分
および下端の両端にある場合の鉄筋（右図参照）
d. 単純梁の下端筋
e. その他、本配筋標準に記載する箇所



（５）定着長さ

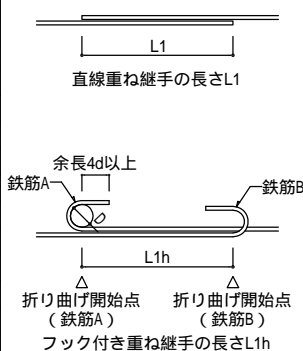
鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	定着の長さ						L3 (フックなし)	L3h (フックあり)	L3 (フックなし)
		L2 (フックなし)	L2h (フックあり)	La	Lb ⁽³⁾	L3 (フックなし)	L3h (フックあり)			
SD295A SD295B	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上		
	21	35d	25d	15d	15d					
	24～27	30d	20d	15d	15d					
	30～36	30d	20d	15d	15d					
	39～45	25d	15d	15d	15d					
	48～60	25d	15d	15d	15d					
SD345	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d	10d かつ 150以上		
	21	35d	25d	20d	20d					
	24～27	35d	25d	20d	15d					
	30～36	30d	20d	15d	15d					
	39～45	30d	20d	15d	15d					
	48～60	25d	15d	15d	15d					
SD390	21	40d	30d	20d	20d					
	24～27	40d	30d	20d	20d					
	30～36	35d	25d	20d	15d					
	39～45	35d	25d	15d	15d					
	48～60	30d	20d	15d	15d					
	24～27	45d	35d	25d	—					
SD490	30～36	40d	30d	25d	—					
	39～45	40d	30d	20d	—					
	48～60	35d	25d	20d	—					
	—	—	—	—	—					

- [注]（１）フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
（２）フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
（３）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
（４）耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



（６）継手
重ね継手

鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d
	—	—	—

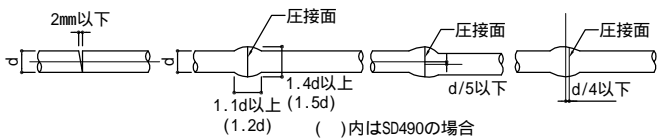


- [注]（１）表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
（２）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
（３）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

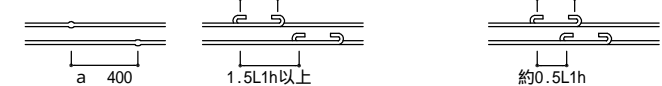
継手に関する注意点

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）



圧接継手 重ね継手(下図のいずれかとする。) フックなしの場合はL1hはL1

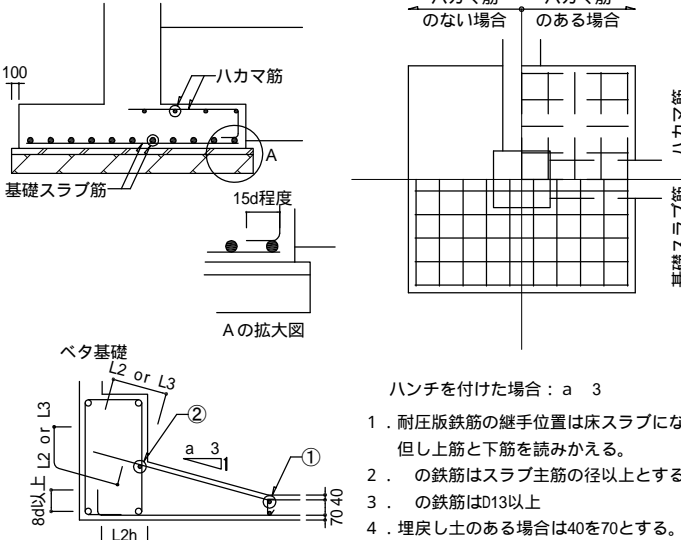


- 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。
- 非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

３．杭・基礎

（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること。）

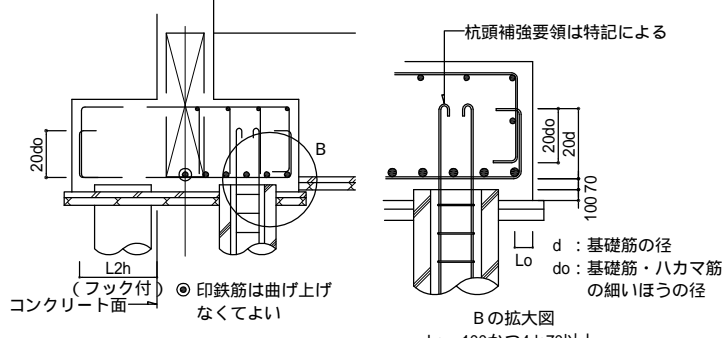
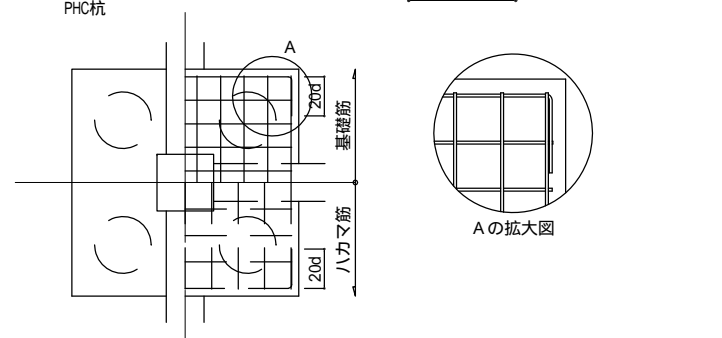
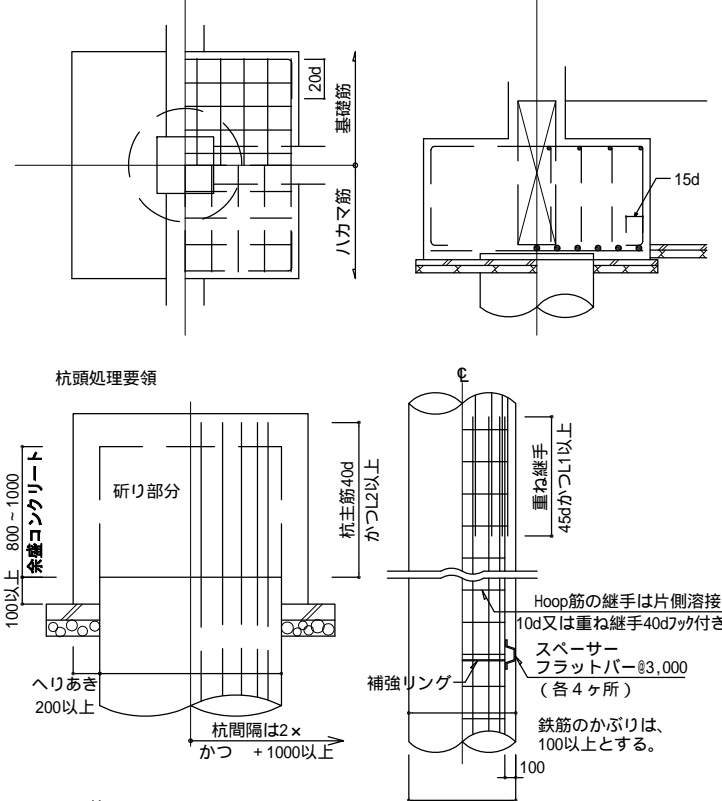
（１）直接基礎
独立基礎



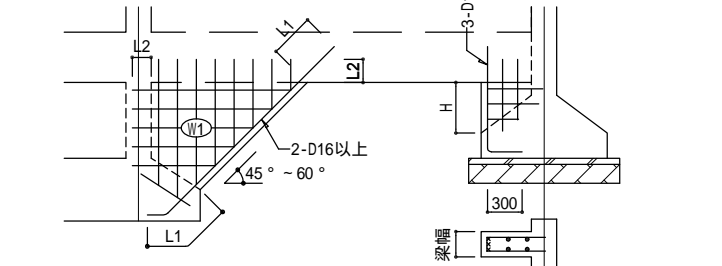
ハンチを付けた場合：a 3

- 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう。但し上筋と下筋を読みかえる。
- 鉄筋はスラブ主筋の径以上とする。
- 鉄筋はD13以上
- 埋戻し土のある場合は40を70とする。

（２）杭基礎
場所打ち杭



（３）基礎接合部の補強



特記：

- W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう。
- 印鉄筋はD10-@200とする。
- 300-H 1,000とする。H 300は 印筋は不用とする。

提出・訂正

件名

健診施設等建設事業 建築工事

図面内容
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

縮尺
N.S.

図面番号
S-04

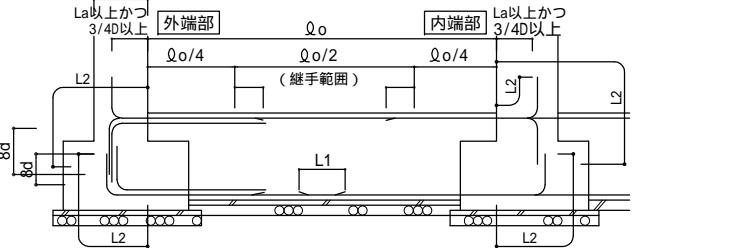
区分
建築構造図

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

修正箇所は下線を引くこと

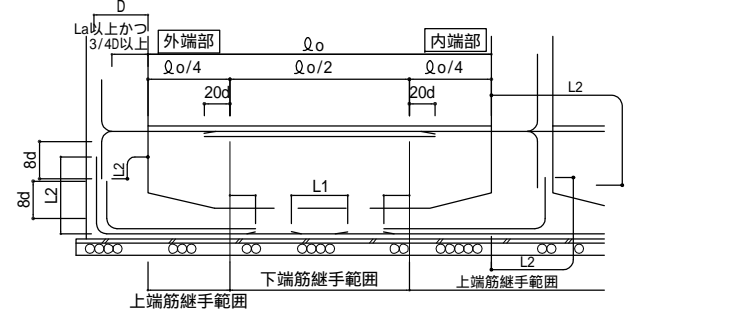
４．地中梁

（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）
（長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。） 上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる。



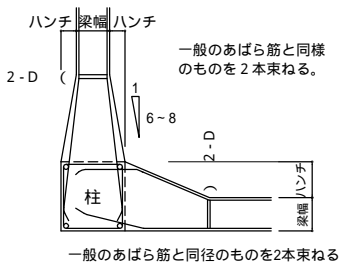
主筋のカットオフ長さは $L_o/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

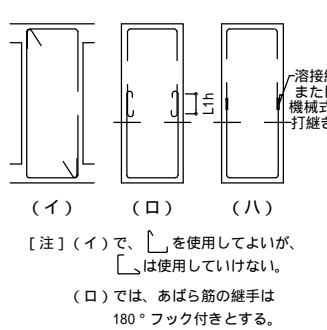


主筋のカットオフ長さは $L_o/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

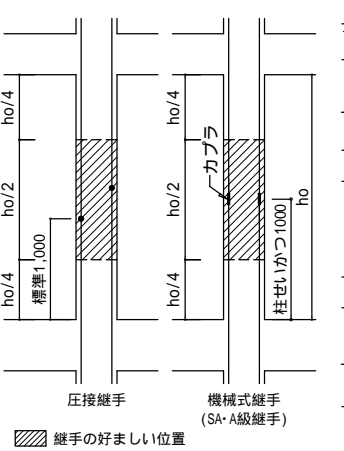


（４）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

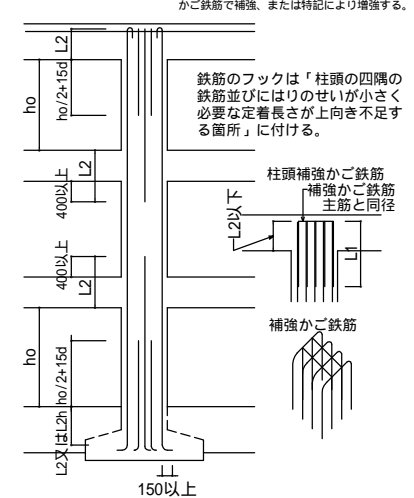


５．柱

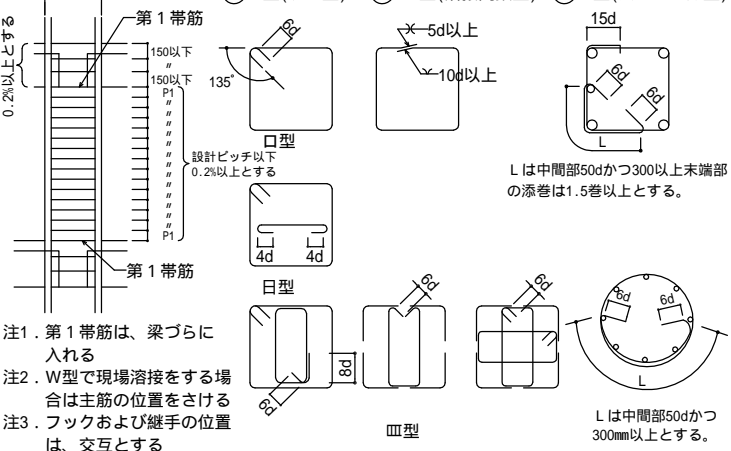
（１）柱主筋の継手位置



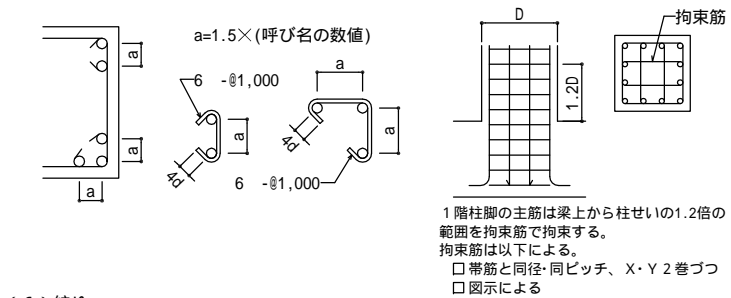
（２）柱主筋の定着



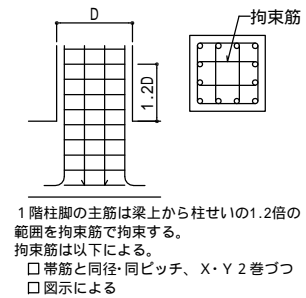
（３）帯筋



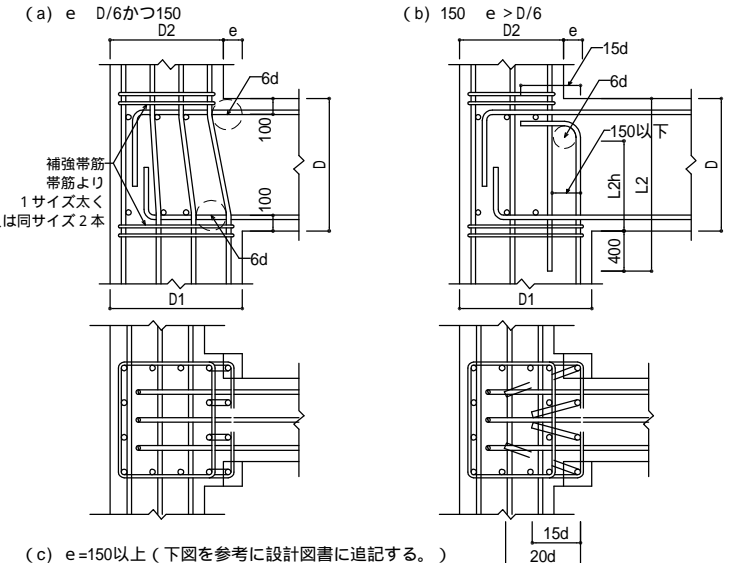
（４）寄せ筋の保持



（５）柱脚部の補強



（６）絞り



６．大梁

（１）定着

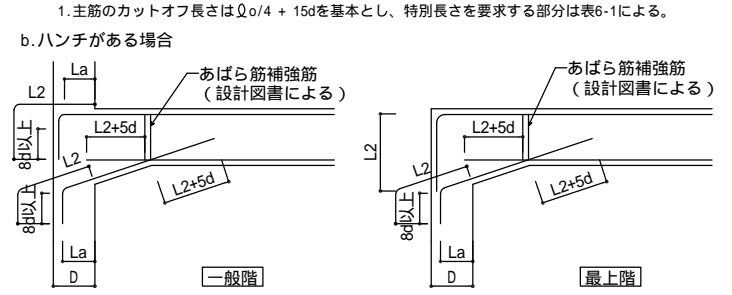
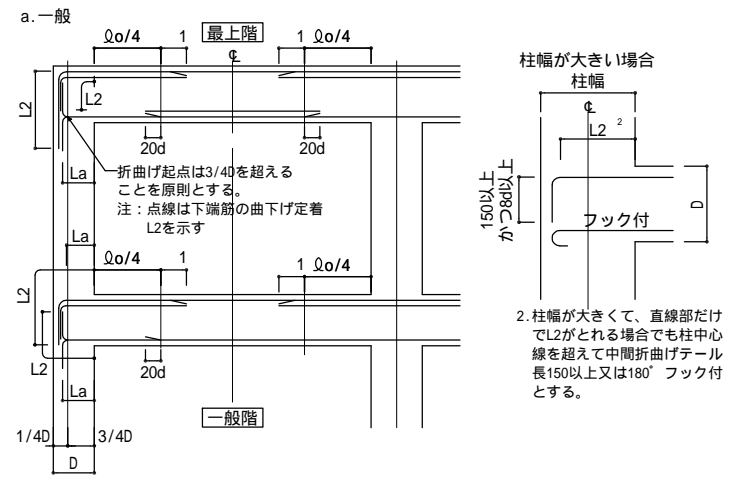
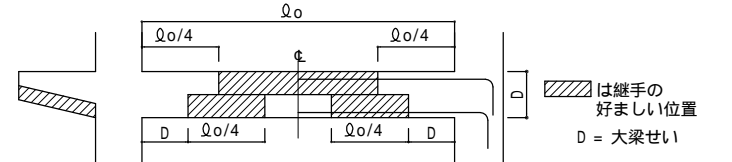
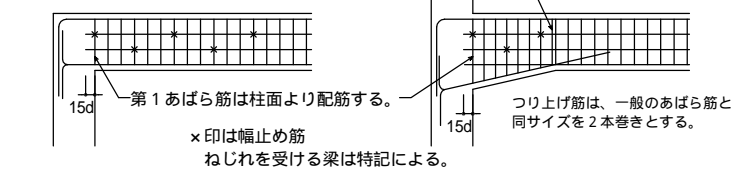


表6-1 特別なカットオフ長さを要する部材（mm）			
部材名	$L_o/4$ に加える長さ	部材名	$L_o/4$ に加える長さ

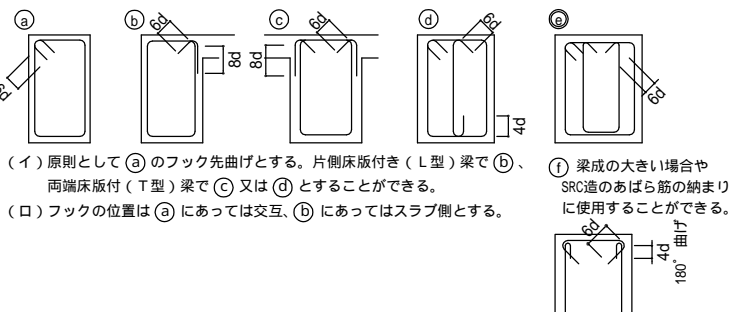
（２）大梁主筋の継手（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による）



（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置



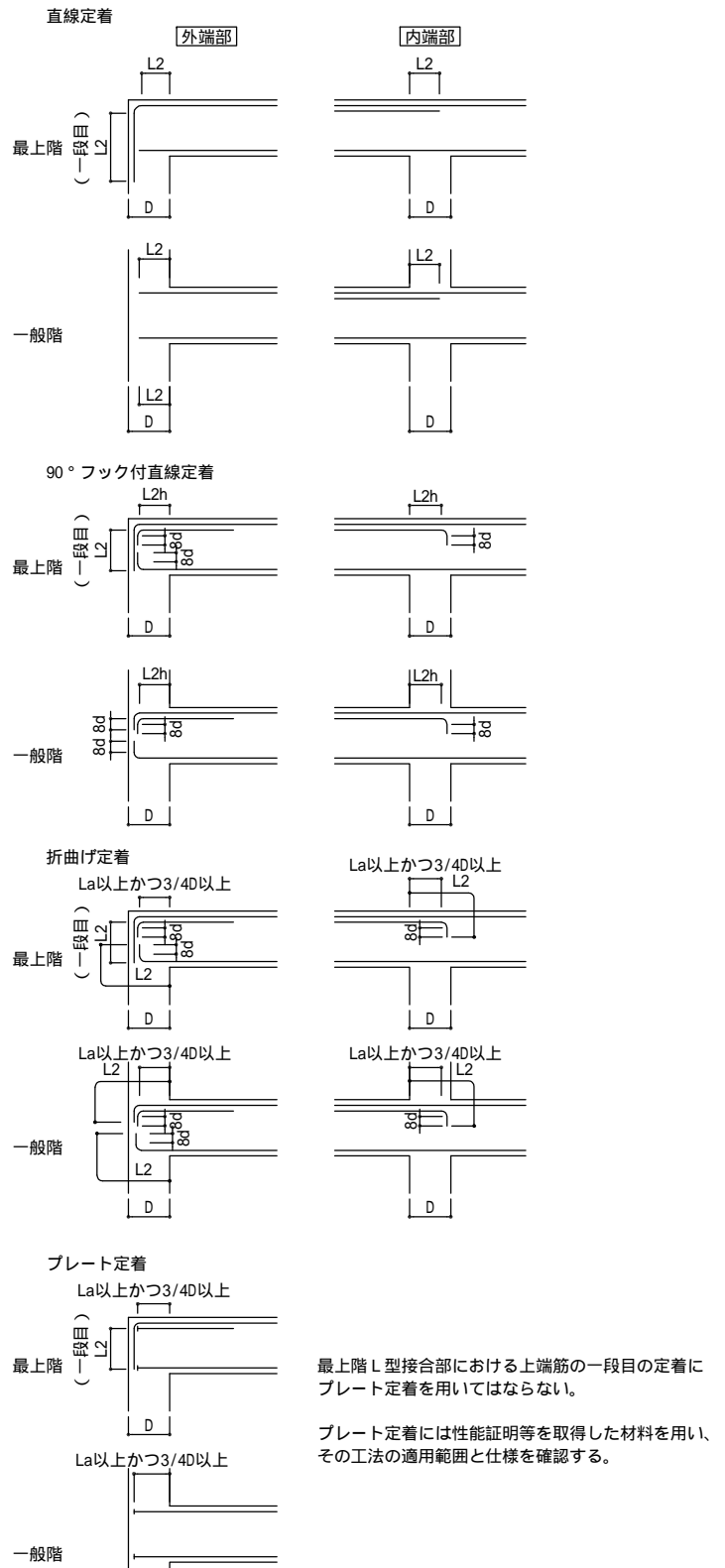
（４）あばら筋の型（注、床版がない場合は135°以上のフックとする。）



（５）幅止め筋の本数、加工

腹筋	幅止め筋	
	必要	不要
600	D < 900	2-D10 1段
900	D < 1,200	4-D10 2段
1,200	D	D13-@300 以内
幅止め筋 D10-@1,000以内で割り付ける。		

（６）梁主筋の定着



修正箇所は下線を引くこと

区分 建築構造図

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（４）

修正箇所は下線を引くこと

11．梁貫通補強

- （１）一般事項
- （a）梁貫通孔の補強は構造図の表記による。構造図の表記がなければ下記による。
梁貫通孔補強筋の名称などは、図11-1による。
- （b）孔の径は、梁成の1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
貫通孔径は配管等の呼び径ではなく躯体に設ける孔径(外径)を示す。
- （c）孔の上下方向の位置は、図11-2に示すd値を確保する。
- （d）孔の中心位置の限度(図11-3,a値)は、部材に応じて下記の寸法以上離すものとする。
・大梁は、柱面から1.5D(Dは梁せい)及び直交する梁(小梁)から1.5 かつ300mm以上とする。
・基礎大梁に人通孔を設ける場合は、柱面からD+1/2 及び直交する梁(小梁、基礎小梁)から1.5 以上。
・基礎大梁に人通孔以外を設ける場合は、柱面から1,000mm及び直交する梁(小梁、基礎小梁)から1.5 かつ300mm以上とする。
・小梁・基礎小梁は、端部から1.0D又は1,000mmのうち小さいほうの値とする。
- （e）孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする(図11-3)。
- （f）孔の径が梁成の1/10以下かつ150mm以下のものは、補強を省略することができる。
(孔両側のあばら筋が設計ピッチを越える場合は孔両側にあばら筋を2巻き配筋する)
- （g）スリーブを上下に設ける場合について、原則不可とする。
ただし、連通管(半割)と通気管は除く。

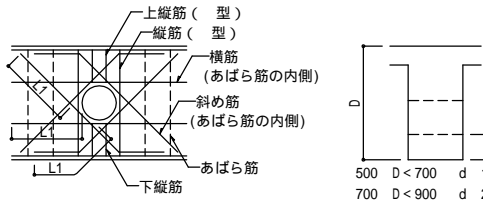


図11-1

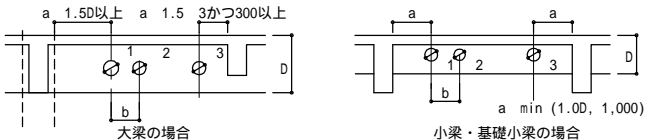


図11-2

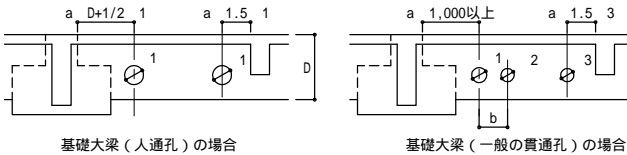


図11-3

- （２）一般の梁貫通孔（400 以下）の補強要領
- 400 以下の梁貫通孔の補強要領は、表11-1による。

表11-1 補強要領

補強種別	斜め筋	縦筋	横筋	上・下縦筋	配筋図
1	2-2-D13	なし	なし	なし	
2		2-2-D13			
3	4-2-D13	A～D：□-2-D13	A～D：2-D13	A～D：□-2-D13	
4		E：□-2-D13	E：3-D13	E：□-2-D13	
5	4-2-D16	F：□-2-D13	F：4-D13	F：□-2-D13	
6	4-2-D19	E：□-2-D13	E：3-D13	E：□-2-D13	
7	4-2-D22	F：□-2-D13	F：4-D13	F：□-2-D13	

- 注1) .補強種別は表11-4による。
2) .A～Fは表11-3の梁のあばら筋を示す。

表11-2 配筋の表示

凡例	配筋
斜め筋 4-2-D22	4本のD22が2面入ることを示す
縦筋 □-2-D13	4本のD13があばら筋状に孔の両側に2本ずつ入ることを示す
横筋 2-D16	孔の上下の部分にそれぞれD16が2本(両面)ずつ入ることを示す
上下縦筋 □-3-D13	孔の上下の部分にそれぞれD13のあばら筋が3本入ることを示す

表11-3 梁のあばら筋

A	□-D10-@150,200
B	□-D10-@125
	□-D13-@200
C	□-D10-@100
	□-D13-@150
D	□-D13-@100,125
	□-D16-@150
E	□-D13-@100
	□-D16-@100
F	□-D13-@100
	□-D16-@100

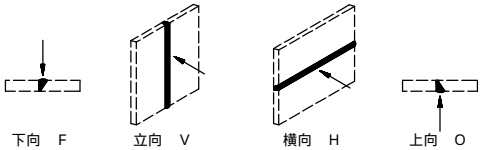
表11-4 補強種別

梁成 cm	梁幅 cm	30				40				50				60				70				80							
		A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F				
50	10	1	1	2	2	3	1	2	2	3	3	1	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3			
55	15	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3			
60	10	1	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3				
65	15	2	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3	3			
70	20	2	2	2	3	3	3	2	2	3	3	4	4	3	3	3	5	4	3	3	3	5	4	3	3	4			
75	10	2	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	3	4	4	2	2	3	4	4	4	2	2	3	4		
	15	2	2	3	3	4	4	2	3	3	4	4	2	3	4	3	3	5	4	3	3	5	4	3	3	5	5		
	20	2	2	3	3	4	4	3	3	3	5	4	4	6	3	3	4	6	5	3	4	6	5	3	4	6	5		
80	25	3	3	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	5	6	5	3	4	5	6	6	3	4	5	6	7		
	10	2	2	3	3	4	4	2	2	3	3	4	4	2	3	3	5	4	2	3	5	4	5	2	3	5	5		
	15	2	2	3	3	4	4	2	2	3	3	4	4	2	3	3	5	4	2	3	5	4	5	2	3	5	5		
90	20	2	2	3	3	5	5	3	3	3	5	5	3	3	4	5	6	3	4	5	6	6	3	3	5	6	6		
	25	3	3	3	3	5	5	3	3	4	6	6	3	4	5	6	6	3	4	5	7	6	4	4	6	7	6		
	30	3	3	4	4	6	6	3	4	5	6	6	4	5	7	6	4	6	3	4	5	7	6	4	4	6	7		
100	35	3	3	4	4	6	6	3	4	5	6	6	4	5	7	6	4	6	3	4	5	7	6	4	4	6	7		
	40	3	3	4	4	6	6	3	4	5	6	6	4	5	7	6	4	6	3	4	5	7	6	4	4	6	7		
	45	3	3	4	4	6	6	3	4	5	6	6	4	5	7	6	4	6	3	4	5	7	6	4	4	6	7		
105	50	3	3	4	5	6	6	3	3	5	6	6	3	3	5	6	3	4	6	6	3	3	4	6	3	4	6	6	
	55	3	3	4	5	6	6	3	3	5	6	6	3	3	5	6	3	4	6	6	3	3	4	6	3	4	6	6	
	60	3	3	4	5	6	6	3	3	4	6	6	3	3	4	6	6	3	3	5	7	6	3	4	5	6	7	6	
110	65	3	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	6	3	4	5	7	6	3	4	5	6	7	6	
	70	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
	75	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
120	80	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
	85	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
	90	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
125	95	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
	100	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
	105	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
130	110	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
	115	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
	120	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
135	125	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
	130	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
	135	3	4	5	7	6	3	4	5	7	6	3	3	5	7	7	4	5	6	8	8	4	5	6	7	6	7	8	
140	140	4	4	5	8	8	4	5	6	8	8	4	5	6	7	8	8	6	7	8	8	6	7	8	8	6	7	8	8
	145	4	4	5	8	8	4	5	6	8	8	4	5	6	7	8	8	6	7	8	8	6	7	8	8	6	7	8	8
	150	4	4	5	8	8	4	5	6	8	8	4	5	6	7	8	8	6	7	8	8	6	7	8	8	6	7	8	8

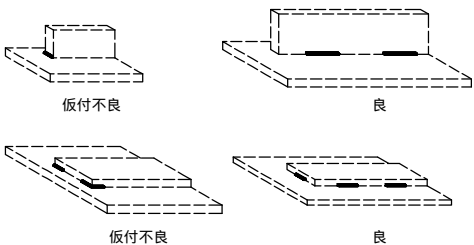
構造関係共通図(鉄骨標準図)

1 一般事項

- (1) 材料及び検査
特記仕様書による。
適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが50mm以下のものとする。
社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する。
- (2) 工作一般
鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする。
- (3) 高力ボルト接合
本総めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
- (4) 溶接接合
溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術
検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする。
溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアークウジング機(直流) (ホ) 溶接直流を判定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機1式 (ヘ) 溶接棒乾燥機
溶接方法
アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) アークエアークウジング(AAG)
溶接姿勢



- (5) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
仮付位置
組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所はさける。



完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



2 溶接記号

設計図中で使用する記号は、表2.1、表2.2、図2.1を標準とする。

表2.1 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類		記号
溶 接 方 法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接	H
	サブマージアーク自動溶接	A
	エレクトロスラグ溶接	E
	完全溶込み溶接	B
	突合わせ継手	B
	T型継手	T
	かど継手	L
	隅肉溶接	F
溶 接 面	部分溶込み溶接	P
	フレア溶接	F L
	片面溶接	1
	両面溶接	2

表2.2 溶接の補助記号

区 分	補 助 記 号
現 場 溶 接	▲
全 周 溶 接	○
全 周 現 場 溶 接	⦿
断続溶接の長さ及び間隔	L・P

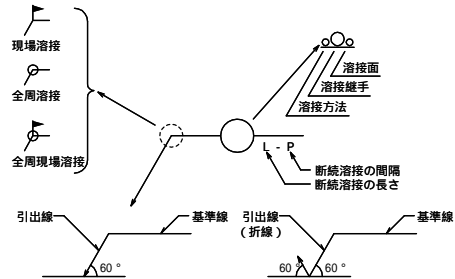


図2.1 溶接記号の記載例

3 溶接継手の種類別開先標準

(1) 突合わせ継手の開先標準 (単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t 6		t 12	
6 < t 19		12 < t 22	
19 < t 40		22 < t 40	

(2) T型継手の開先標準 (単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t 6		t 12	
6 < t 19		12 < t 22	
19 < t 40		22 < t 40	

(3) 部材が直交しない場合の開先標準 (単位: mm)		
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	
6 < t 40		
1/4 t S 10		

(4) かど継手の開先標準 (単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t 6		t 12	
6 < t 19		12 < t 19	
19 < t 40		19 < t 40	

(5) 隅肉溶接の開先標準 (単位: mm)		
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	
t 16		
16 < t 40		

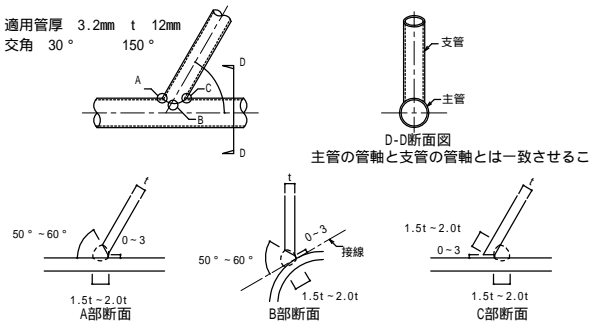
(6) 隅肉溶接のサイズ (単位: mm)	
t	4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 19 22 25 28 32 36 40
S	3 4 5 5 6 7 8 8 9 10 11 12 11 13 15 17 19 21 24

(7) 部分溶込み溶接の開先標準 (単位: mm)	
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t 16	
16 < t 40	
D1= (t-2)/2 D2= (t-2)/2 1/4 t S 10	

(8) 部材が直交しない場合の開先標準 (単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼L形溶接)
t 3のときS=t t < 3のときS=3			

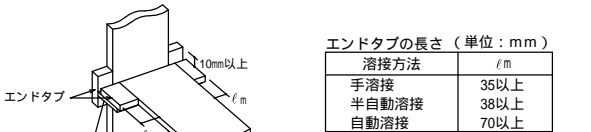
4 鋼管分岐継手

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。(単位: mm)



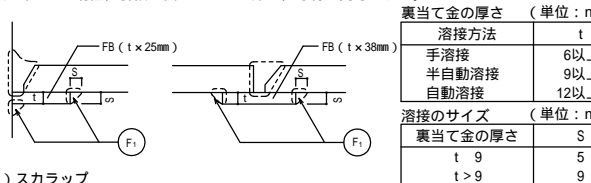
5 鉄骨溶接施工

- (1) エンドタブ等
エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。

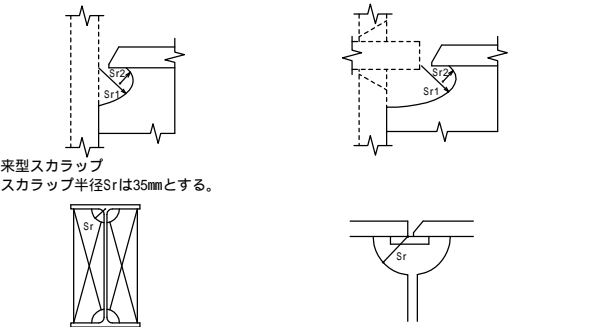


エンドタブの鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
スプラインプレートの材質、鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
フィラープレートの材質は、SS400とする。

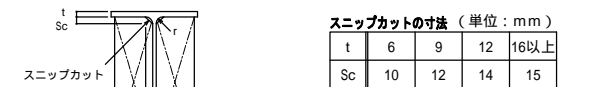
- (2) 裏当て金
裏当て金の溶接
裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。
完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内部に設置する。
裏当て金の鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。



- (3) スカラップ
改良型スカラップ
スカラップ半径Sr1は35mmとする。Sr2は10mmとする。
スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。

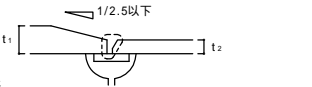


- (4) スニップカット
スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r+2により求めるものとする。

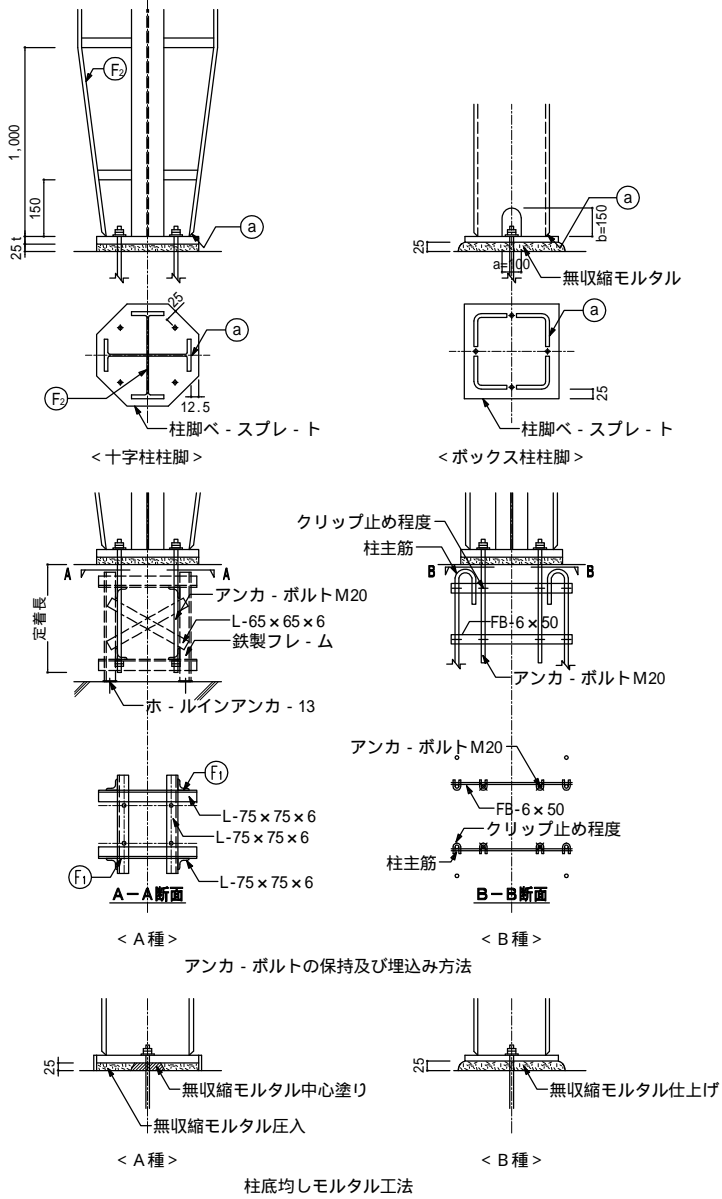
- (5) 溶接部分の段差
完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合



- (6) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス間温度 ()
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	JIS Z 3214		
490N級鋼	YGW-50W, 50P	40以下	350以下
	JIS Z 3212		
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
520N級鋼	JIS Z 3214	40以下	350以下
	YGW-50W, 50P		
	YGW-18, 19		
	YGW-11, 15		
400N級, STKR, BCR及びBCP	YGW-18, 19	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
490N級, STKR, 及びBCP	YGW-18, 19	30以下	250以下

8 柱脚部標準詳細図



イ・十字柱柱脚部のしほりは 1/5 以下とする。

ロ・㊦部の溶接は、(F_1)、 \cdot (HT) とする。

ハ・ベ・スプレ-トは、部材リストによる。

ニ・ベ・スプレ-トのアンカ-ボルト穴径は、 $d+5\text{mm}$ を標準とする。

 d: アンカ-ボルト径

ホ・アンカ-ボルトは、二重ナット締めとする。座金の全周溶接を(行なわない、 \cdot 行う)

ト・アンカ-ボルト定着長さは($40d$ 、 \cdot $25d$) とする。

チ・柱底均しモルタル工法は A 種とする。なお係員と打ち合せの上 B 種でも可とする。

リ・アンカ-ボルト設置に際しては天プレ-トを使用すること。

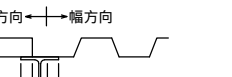

ヌ・アンカーボルトの保持方法は、本体鉄骨に A 種、その他雑鉄骨 B 種とする。

9 頭付きスタッド (JIS B 1198)


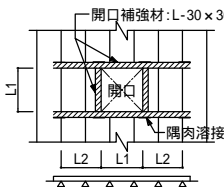
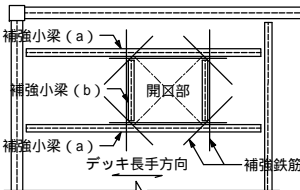
スタッド材の標準形状・寸法

形状D 	呼び名	軸径 d (mm)	頭径 D (mm)	頭高さ T (mm)	溶接後の長さ L (mm)
	13	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50, 80, 100, 130
	16	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80, 100, 130
	19	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80, 100, 130, 150
	22	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100, 130, 150

10 デッキプレート

- (1) 特記事項
適用範囲：J I S 系デッキ、フラットデッキ
特記なき限り、鉄骨工事技術指針・工事現場施工編（日本建築学会）による。
- (2) デッキプレ・ト標準納まり（フラットデッキも同様とする）
敷込み
a) デッキプレ・トの梁へのかかり代
- 
- 1：焼抜き溶接の場合は、50mm以上とする。
- b) デッキ外端（長手、幅両方向とも）
- 
- コンクリ・ト流れ止め PL-1.6
コロボリ止め \ D10-@1,000
ℓ
- デッキプレ・トの小口は小口ふさぎ又は
エンドクロ・ズ製品を使用すること。
ℓ コンクリ・ト打設厚さ

- c) デッキプレ - ト山部が大梁をまたぐ場合
-
- デッキプレ - トの山部が大梁をまたぐ場合
- 調整板を用いる
- 切断する
- 150以下
- 役物を用いる
- ・ 幅方向の寸法調整
下図の様なデッキプレ - ト相互の接合部で寸法調整は行わず、必ず梁端部で調整プレ - ト（役物）を用いる。
-
- 柱及び梁継手部
-
- デッキ受材：PL-6
- デッキ受材：PL-6
- 50以上 50以上
- デッキ受材（t=6mm以上）

- 開口補強
- a) 補強がない場合
デッキプレート・トのウェブ又はリブにかからない場合
- 
- 100以上
補強なし
- b) 開口部の大きさが 300mm×300mm 以下の場合（ただし、床版が一方向版の場合は不可）
- 
- 開口補強材:L-30×30×3
開口
隅肉滑接
L2 L1 L2
- ・ L1 300
 - ・ 補強材の長さは L2 300 とし、始・終端をかならずデッキプレート・トの山部（フラットデッキはリブ）にかかる様に長さを決めること。
- c) 上記以外（下図の様に補強小梁を用い、開口部周辺は鉄筋で補強する。）
- 
- 補強小梁 (a)
補強小梁 (b)
開口部
補強鉄筋
デッキ長手方向
- 補強小梁の断面
長手方向 (a) H-200×100×5.5×8
GPL-6 H.T.B.2-M16
幅方向 (b) [-100×50×5×7.5
GPL-6 H.T.B.2-M16

- (3) 梁との接合
梁の溶接面：赤錆、油脂、土砂等を十分に除去し、乾燥させること。
溶接位置
- a) デッキプレート幅方向（大梁・小梁）
- 各谷 1 か所（焼抜き栓溶接）
- デッキプレートと梁を連続で敷込む場合、スタッドジベルはデッキプレートを通通させ打設する。
- b) デッキプレート長手方向
- 隅肉溶接
- 焼抜き栓溶接

1 1 梁貫通補強

-
- (1) 標準詳細図
- H : 鉄骨成
 Ho : フランジ内法
 D : 梁成
 tw : ウェブ厚
- 板厚が
 A部は
 良い
- (鋼管スリ・ブがある場合) (鋼管スリ・ブがない場合)

ℓ1、ℓ2は、3 またはHo-100のうち小さい方とする。
補強プレートは丸形としてもよい。
上下フランジと補強プレートとのあきは、施工性を考慮した上で小さくすることができる。
梁貫通を設けることができる範囲及び最大径は下記による。

- a) S R C 梁の場合
 最大径は以下による。但し、表 A または表 B の範囲内とする。
 ①: $D/3$ か $H/2$
- b) S 梁の場合
 最大径は以下による。但し、表 A または表 B の範囲内とする。
 ①: $H/2$
 ②: 150 以下 $H/4$

貫通孔が2個以上並列する場合は、2個毎に1枚のプレートで補強する。

- 1 貫通孔の間隔
- a) S R C 梁の場合径の平均の 3 倍以上
- b) S 梁の場合
- 原則として径の平均の 3 倍以上
但し係員の指示により 2 倍以上
とすることができ。

貫通孔が上下に偏っている場合（但し $H/4$ とする）

JOINT付近に貫通孔を設ける場合

フランジのボルト位置と鋼管スリーブが干渉しないように注意する。

2) 補強プレート(以下記による)・構造図による)
補強プレート(材質はウェブと同等とする。
貫通径の適用範囲を超える場合は別途指示による。
鋼管スリ・ブの材質はS T K 4 0 0 とする。
鉄骨造の場合は、鋼管スリ・ブを(不要 ・ 要) とする。
表Bに特記がある場合は表Bを優先する。

表 A

スリーブ 径	鋼管スリーブ (内法径)		tw≤6	6<tw≤9	9<tw≤12	12<tw≤16	16<tw≤19	19<tw≤22
100	-	350 H<400	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-19	2PL-19
		400 H<500	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-19	2PL-16
		500 H	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-12	PL-16
125	139.8φ×4.5 (130.8)	400≤HK600	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL-12	2PL-12	2PL-16
		500≤HK600	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-16	2PL- 9
		600≤H	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-12	PL-16
150	165.2φ×4.5 (156.2)	400≤HK450	PL- 9	2PL- 9	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19
		450≤HK600	PL- 9	2PL- 9	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19
		500≤HK600	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL-12	2PL-12	2PL-16
		600≤HK700	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-16
		600≤H	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-12	PL-16
175	190.7φ×5.3 (180.1)	450≤HK600	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19	2PL-22
		500≤HK600	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-16	2PL-19
		600≤HK700	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL- 9	2PL-12
		700≤HK800	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-12	PL-16
		800≤H	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-16
200	216.3φ×5.8 (204.7)	500≤HK550	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19	2PL-22
		550≤HK600	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-16	2PL-19
		600≤HK700	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL- 9	2PL-12	2PL-16
		700≤HK800	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-16
		800≤H	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-16
250	267.4φ×6.0 (255.4)	550≤HK600	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	-	-	-
		600≤HK700	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19	2PL-22
		700≤HK800	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL- 9	2PL-12	2PL-12
		800≤HK900	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-16	2PL- 9
		900≤HK1000	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-12	PL-16
		1000≤H	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12
300	318.5φ×6.0 (306.5)	650≤HK700	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19	2PL-22	-
		700≤HK800	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-16	2PL-19
		800≤HK900	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL- 9	2PL-12	2PL-12
		900≤HK1000	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-16	2PL- 9
		1000≤HK1100	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-12	PL-16
		1100≤H	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12
350	355.6φ×6.4 (342.8)	700≤HK750	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	-	-	-
		750≤HK800	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19	2PL-22
		800≤HK900	PL- 9	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-16	2PL-19
		900≤HK1000	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL- 9	2PL-12	2PL-12
		1000≤HK1100	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-16	2PL- 9
1100≤H	PL- 6	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-16		
400	406.4φ×6.4 (393.6)	800≤HK900	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19	2PL-22	2PL-25
		900≤HK1000	PL- 9	PL-12	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-16
		1000≤HK1100	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL- 9	2PL-12	2PL-12
		1100≤H	PL- 6	PL- 9	PL-12	PL-16	PL-16	2PL-12
450	457.2φ×6.4 (444.4)	900≤HK1000	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19	2PL-22
		1000≤HK1100	PL- 9	PL-12	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-16
		1100≤H	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL- 9	2PL-12	2PL-12
500	508.0φ×6.4 (495.2)	1000≤HK1100	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-19	2PL-22
		1100≤H	PL- 9	PL-12	PL-16	2PL-12	2PL-16	2PL-16
550	558.8φ×6.4 (546.0)	1100≤H	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-16	2PL-19
600	609.6φ×6.4 (596.8)	1200≤H	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-16	2PL-16	2PL-19

表 B (鋼管スリ - プがある場合、鋼管スリ - プは表 A による。)

[illegible]

フラットデッキ標準図

フラットデッキプレートの設計・施工は、(社)公共建築協会「平成18年版 床型枠用鋼製デッキプレート(フラットデッキ)設計施工指針・同解説」による。
フラットデッキ評価番号 [評価 第911-00100503号] (同等品の使用可)

1. 型式・質量および断面性能

採用	型 式	板厚 (mm)	製品質量		断面性能	
			亜鉛めっき (Z12) (kg/枚/m)	(kg/m ²)	I (×10 ⁴ mm ⁴ /m)	Z (×10 ³ mm ³ /m)
・	DP-N-08	0.8	7.95	12.6	120	18.7
・	DP-N-10	1.0	9.88	15.7	150	24.4
・	DP-N-12	1.2	11.8	18.7	180	29.4
・	DP-N-14	1.4	13.7	21.8	206	34.4
・	DP-N-16	1.6	15.7	24.9	232	39.3

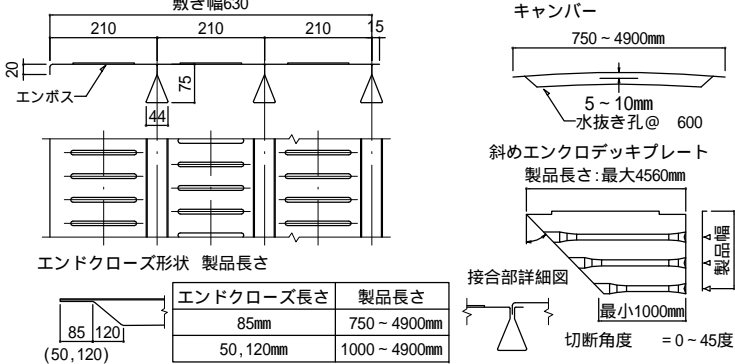
種類の記号および材料

種類記号	付着量記号	最小付着量 (両面) (g/m ²)	使用材料
SGCC SGHC	・ Z12 ・ Z27	120 275	JIS G 3302「溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」 降伏点205N/mm ² 、引張強さ295N/mm ² 以上
SGLCC SGLHC	・ AZ150	150	JIS G 3321「溶融55%亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」 降伏点205N/mm ² 、引張強さ295N/mm ² 以上

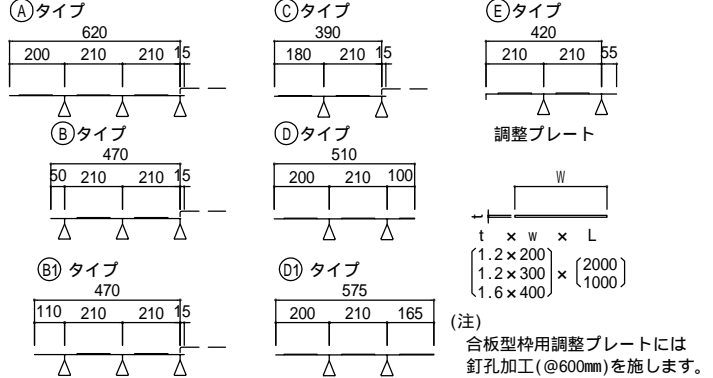
(注) 断面性能は I = 断面2次モーメント(全断面有効)、Z = 断面係数(有効幅考慮50t)を示します。
Z27及びAZ150製品については、事前に問合せのこと。

2. 製品仕様

製品形状



役物デッキプレート



3. 断面応力・たわみの計算

断面応力・たわみの計算は、一般に単純支持梁モデルを用いて計算する。
算定式および許容値は、下表とする。

項目	算定式
曲げ応力 (N/mm ²)	[S造] $\sigma = \frac{M}{Z} \times 10^3 \times f_b$ [RC・SRC造] $\sigma = \frac{M}{Z} \times 10^3 \times \frac{f_b}{E}$
たわみ (mm)	$\delta = \frac{C5WL^4}{384EI} \times 10^3 \times \frac{L \times 10^3}{180} + 5$
支圧耐力 (N/m)	$P = W L \quad \text{Pa}$

デッキリブの許容支圧荷重 (幅1m当たり)

デッキ板厚 (mm)	0.8	1.0	1.2
許容支圧荷重 (N/m)	9,800	14,700	19,600

スラブ厚さ別許容スパン早見表 [施工時作業荷重1,470N/m、施工割増係数考慮]

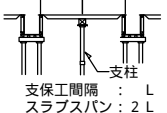
建物の構造 RC・SRC造 施工状況の種類	S造、RC・SRC造				RC・SRC造		
	類 [施工割増係数: =1.0]				類 [=1.25]		Ⅲ類 [α=1.5]
スラブ厚 (mm)	0.8mm	1.0mm	1.2mm	1.4mm	1.0mm	1.2mm	0.8mm
普通 コンクリート	120	2,610	2,870	3,040	3,160	2,660	2,910
	125	2,580	2,850	3,010	3,130	2,630	2,870
	130	2,540	2,830	2,990	3,110	2,590	2,840
	135	2,510	2,810	2,960	3,090	2,560	2,800
	140	2,480	2,790	2,940	3,060	2,530	2,770
	145	2,450	2,770	2,920	3,040	2,500	2,740
	150	2,420	2,750	2,900	3,020	2,470	2,700
	155	2,400	2,730	2,880	3,000	2,440	2,670
	160	2,370	2,700	2,860	2,980	2,410	2,640
	170	2,320	2,640	2,820	2,940	2,360	2,590
	180	2,270	2,590	2,790	2,900	2,320	2,540
	190	2,230	2,540	2,750	2,870	2,270	2,490
軽量 コンクリート	200	2,180	2,490	2,720	2,830	2,230	2,440
	250	2,000	2,290	2,500	2,690	2,040	2,240
	300	1,860	2,120	2,330	2,510	1,900	2,080
	120	2,760	2,980	3,140	3,270	2,810	3,080
	125	2,730	2,950	3,120	3,250	2,780	3,040
	130	2,700	2,930	3,100	3,220	2,750	3,010
	135	2,670	2,910	3,070	3,200	2,710	2,970
	140	2,640	2,890	3,050	3,180	2,680	2,940
	145	2,610	2,870	3,030	3,150	2,650	2,900
	150	2,580	2,850	3,010	3,130	2,630	2,870
	155	2,550	2,830	2,990	3,110	2,600	2,840
	160	2,520	2,810	2,970	3,090	2,570	2,810
	170	2,470	2,780	2,940	3,060	2,520	2,760
	180	2,420	2,750	2,900	3,020	2,470	2,700
	190	2,380	2,710	2,870	2,980	2,420	2,650
	200	2,340	2,660	2,840	2,950	2,380	2,610
	250	2,150	2,450	2,690	2,810	2,190	2,400
	300	2,000	2,290	2,500	2,690	2,040	2,240

1 [] は、たわみで決定する範囲を示す。

中間支保工を設ける場合の許容スパン早見表 [施工時作業荷重1,470N/m]

施工状況の種類		類			類		類
施工割増係数		=1.0			=1.25		=1.5
スラブ厚(mm)	板厚t	0.8mm	1.0mm	1.2mm	1.0mm	1.2mm	0.8mm
普通 コンクリート	120	4,370	4,900	4,900	4,900	4,900	4,270
	130	4,150	4,900	4,900	4,900	4,900	4,150
	140	3,950	4,900	4,900	4,900	4,900	3,950
	150	3,770	4,900	4,900	4,900	4,900	3,770
	160	3,600	4,900	4,900	4,830	4,900	3,600
	170	3,450	4,900	4,900	4,730	4,900	3,450
	180	3,310	4,900	4,900	4,640	4,900	3,310
	190	3,180	4,750	4,900	4,540	4,900	3,180
	200	3,060	4,570	4,900	4,460	4,880	3,060
	250	2,570	3,850	4,900	3,850	4,480	2,570
	300	2,220	3,330	4,420	3,330	4,170	2,220
	120	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,520
軽量 コンクリート	130	4,670	4,900	4,900	4,900	4,900	4,410
	140	4,450	4,900	4,900	4,900	4,900	4,310
	150	4,260	4,900	4,900	4,900	4,900	4,210
	160	4,080	4,900	4,900	4,900	4,900	4,080
	170	3,920	4,900	4,900	4,900	4,900	3,920
	180	3,770	4,900	4,900	4,900	4,900	3,770
	190	3,630	4,900	4,900	4,850	4,900	3,630
	200	3,500	4,900	4,900	4,770	4,900	3,500
	250	2,970	4,430	4,900	4,390	4,810	2,970
	300	2,570	3,850	4,900	3,850	4,480	2,570

- 上表の数値は、中間支保工を設ける場合のデッキリブの許容支圧荷重によって決まる許容スパン2 Lを示す。
- R C造またはR C造において側板型枠にデッキをのせかけて使用する場合、スパンが3.0mを超えるときには中間支保工を設けることを原則とする。
- 斜字部は、デッキ型枠の使用スパンの長さ(1.0~4.9m)により決まる。

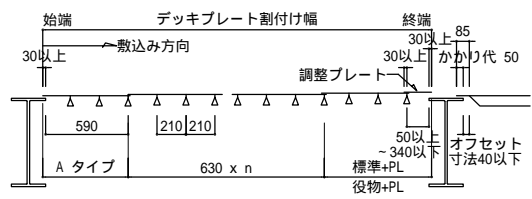


4. 納まり例

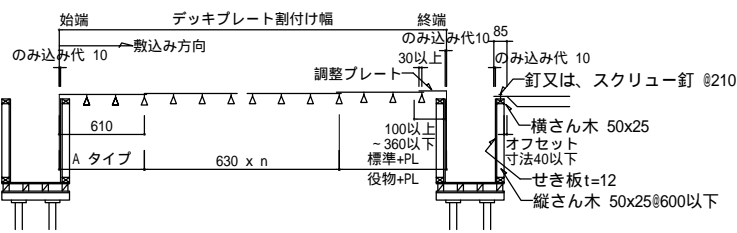
4-1. 割付け

幅方向の割付けは、標準品 (630幅) をベースに割付ける。
始端・終端調整には役物、終端には調整プレートを使用する。

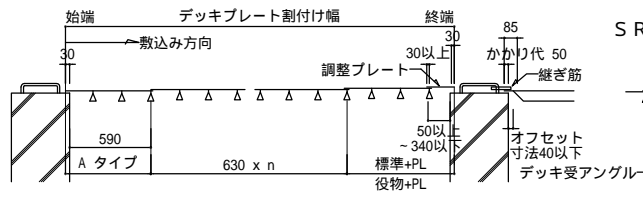
(1). 鉄骨造 (S造)



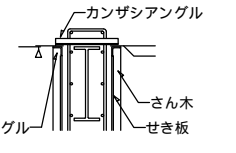
(2). 鉄筋コンクリート造 (R C造) 鉄骨鉄筋コンクリート造 (S R C造)



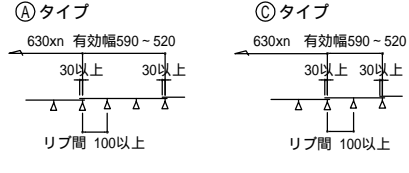
(3). R C置きスラブ (地中梁)



S R C造 先行敷きの場合



(4). 終端役物の有効幅

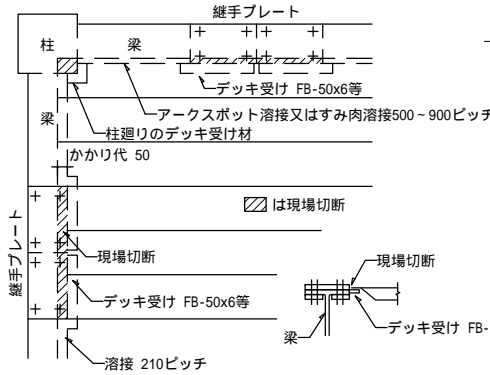


4-2. 各所の納まり

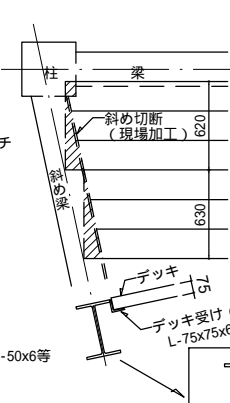
デッキ受けは、設計荷重を十分支持可能な部材及び取付方法とする。
デッキ受けのサイズは 設計者が決定すること。

(1). S造継手プレート部の納まり

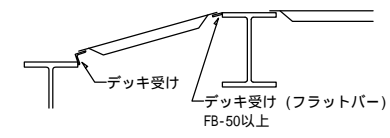
柱コーナーおよび継手プレート部の切断は現場加工



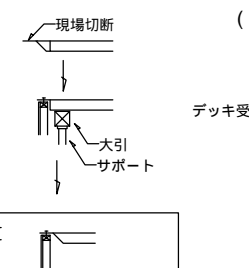
(2). S造斜め梁の納まり



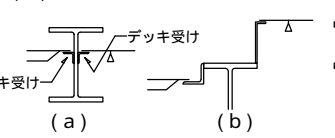
(6). S造梁の段差 (レベル差) がある場合



(3). R C、S R C造斜め梁

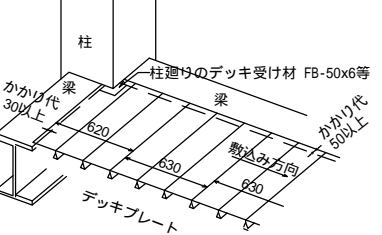


(7). S造床板と梁に段差のある場合

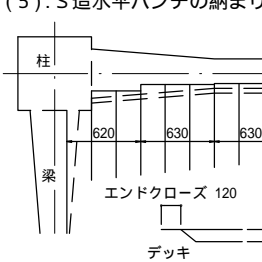


(4). S造柱廻りの納まり

柱コーナー切断は現場加工



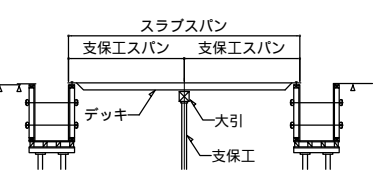
(5). S造水平ハンチの納まり



(注) 斜めエンクロデッキを使用すると、

角度45°迄は対応可能

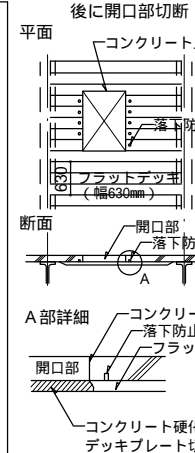
4-3. 中間支保工設置



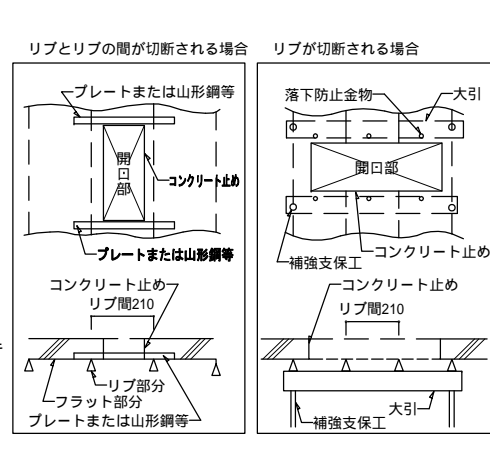
4-4. 開口部納まり例

配線・配管・空調ダクト等の開口部の施工は、原則として予め型枠で囲い、コンクリート打設硬化後デッキを切断する。
開口部の大きさにより、デッキとコンクリートが剥離する恐れがある場合、切断部周辺に「落下防止金物」を取り付ける。

(1) コンクリート硬化後に開口部切断



(2) コンクリート打設前に開口部切断

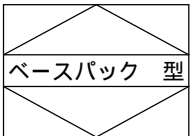


5. 施工の要点

施工の要点は、下表のとおりとする。

特殊なケースの場合は、その都度施工法を十分に検討し施工すること。

項 目	内 容
1. 保管	(1) 敷込みとの関連を考慮して保管場所を決める。 (2) 薄板製品であることを充分認識し変形に注意する。
2. 吊り込み	(1) 骨組の組立順序との関連をよく考える。 (2) 壁、パネル等の取り付け作業との関連をよく考える。 (3) クレーンの能力揚重の検討、パレットを用いる等安全対策を考える。 (4) 揚重枚数と敷込み順序の関連等の検討をする。
3. 敷込み	(1) 始端かかり位置、中間位置(デッキ5枚目の位置)、終端位置をマーキングする。 (2) 割付方向を図面に従い間違いない行う。 (3) 最初のデッキに置くので最初的位置決めを確実に行う。 (4) 最初のデッキは4カ所を確実に梁に固定する(落下防止等安全対策)。かかり寸法は厳守する。 (5) 敷込んだら速やかに溶接等で固定する。
4. 作業床	(1) 一時的な作業床に転用することも考えられるが、板厚が0.8~1.0mmのデッキプレートの場合は、接合部分の変形、破損しやすいのでなるべく避ける。 (2) 受圧面積が極端に小さい集中荷重は避ける。集中荷重のかかる場合は、厚板等を敷くにより受圧面積を大きくしておく。 (3) 油等コンクリートに有害なものは、コンクリート打設前迄にとり除く。 (4) 資材等を置き場合は、デッキプレートに負担のかからぬよう充分配慮して置く。特に0.8~1.0mmは注意する。
5. コンクリート打設	(1) 打設では、打設荷重、人荷重、打設用配管等の施工荷重を極力低減するようにし、過荷重には充分注意する。 (2) 打設は、コンクリートの山(集中荷重)をつくらないようにする。



角形鋼管

F 値 295 N/mm² 以下
-350×350 ～ -550×550 用

(財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

ベースバック柱脚工法 設計 標準図

ベースバック柱脚工法の設計は「ベースバック柱脚工法設計ハンドブック」による。

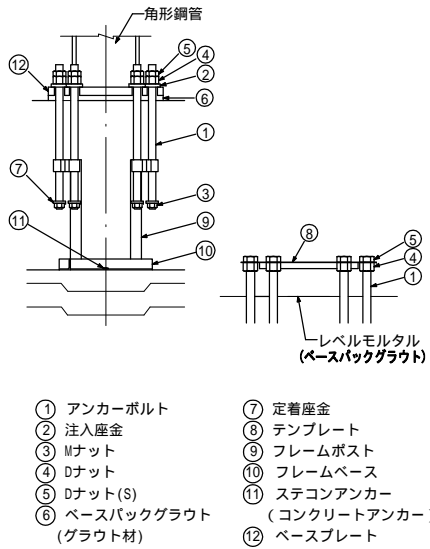
岡部株式会社
TEL03 (3624) 5336

旭化成建材株式会社
TEL03 (3296) 3515

2021年4月版

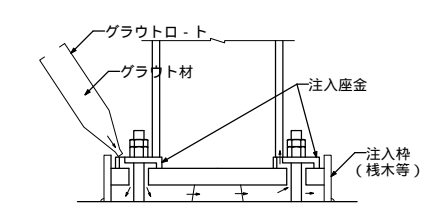
1. 工法概要

1.1 構成部材



(注)上記①～⑫の構成部材はベースバック構成部品として供給される。
(注)上記⑧～⑪は現場状況により仕様が異なる場合がある。
(注)アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付けく。

1.2 柱脚の定着方法概要

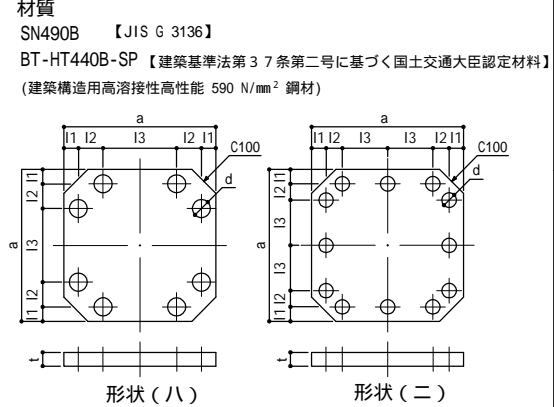


2. 柱

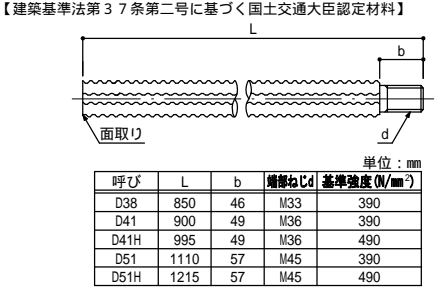
F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	
	JBCR295	
	TSC295	

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

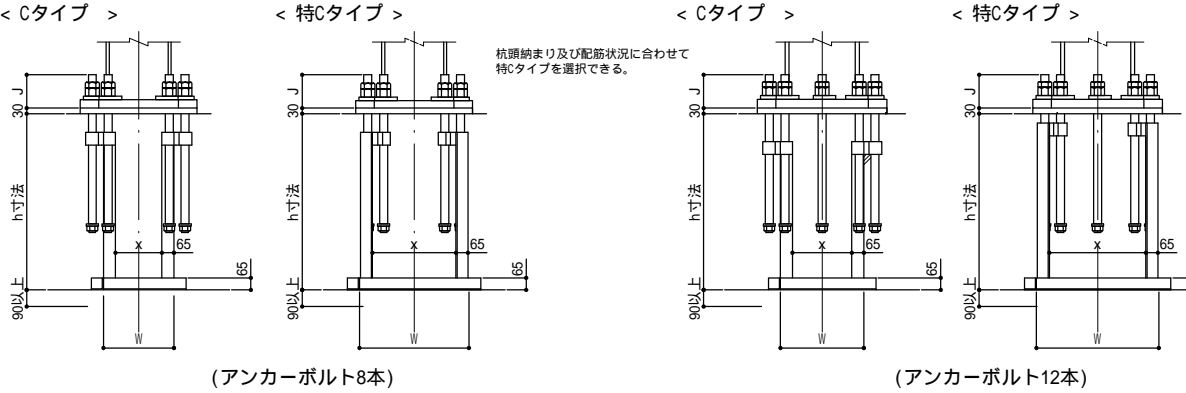


3.2 アンカーボルト (Dアンカーボルト)



3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

ベースバックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型下端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

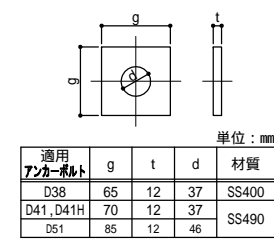


3.3 Mナット・Dナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

	呼び	A	B	(e)
Mナット	M33	26	50	58
	M36	29	55	64
	M45	36	70	81
	D38	45	65	75
Dナット	D41	48	70	80
	D51	60	80	92
	D38	30	65	75
	D41	32	70	80
Dナット(S)	D41	32	70	80
	D51	40	80	92

3.4 定着座金

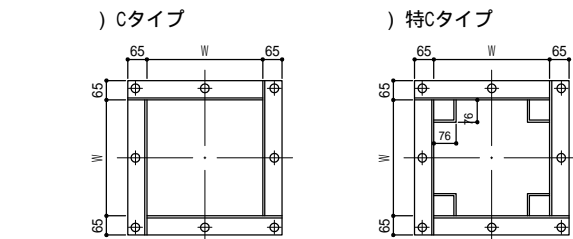


3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料, SS490】

記号	適用 アンカーボルト	a	c	t	d
PD38	D38	96	122	20	43
PD41	D41, D41H	100	127	20	46
PD51	D51	110	140	20	58

3.6 フレームベース



採用	ベースバック 記号	柱		ベースプレート								アンカーボルト		標準 アンカ ー フレーム タイプ	コンクリート柱型					フレームベース		フレームポスト間		最低 h寸法	J寸法
		外径 (mm)	板厚 (mm)	材質	形状	寸法(mm)						本数・呼び	基準強度 (N/mm ²)		寸法 D(mm)		配筋		設計基準強度 (N/mm ²)	寸法 W(mm)		寸法 x(mm)			
						a	t	I1	I2	I3	d				標準フレーム	特C	立上り筋	フープ筋		標準フレーム	特C	標準フレーム	特C		
	35-16R	-350×350	t 16	SN490B	(ハ)	630	45	65	85	330	70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D138100	21以上	380	590	250	450	750	180
	35-19R	-350×350	t 19	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D138100	21以上	380	590	250	450	750	180
	35-22R	-350×350	t 22	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	75	8-D41	390	C	800	830	16-D22	D138100	21以上	380	590	250	450	800	190
	35-25R	-350×350	t 25	BT-HT440B-SP	(ニ)	650	48	75	85	165	70	12-D38	390	C	850	—	16-D25	D138100	21以上	380	—	250	—	800	190
	40-16R	-400×400	t 16	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	44	65	85	400	75	8-D41	390	C	870	910	12-D25	D138100	21以上	450	660	320	520	800	190
	40-19R	-400×400	t 19	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	48	65	85	400	75	8-D41	390	C	870	900	16-D22	D138100	21以上	450	660	320	520	800	190
	40-22R	-400×400	t 22	BT-HT440B-SP	(ニ)	700	48	65	85	200	70	12-D38	390	C	900	910	16-D25	D138100	21以上	450	660	320	520	800	180
	40-25R	-400×400	t 25	BT-HT440B-SP	(ニ)	710	48	70	85	200	75	12-D41	390	C	900	910	16-D25	D138100	21以上	450	660	320	520	800	190
	45-19R	-450×450	t 19	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	48	65	85	225	70	12-D38	390	C	950	960	16-D25	D138100	21以上	500	710	370	570	800	180
	45-22R	-450×450	t 22	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	75	12-D41	390	C	1000	1000	20-D25	D138100	21以上	500	710	370	570	800	190
	45-25R	-450×450	t 25	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	75	12-D41H	490	C	1000	1000	24-D25	D138100	24以上	500	710	370	570	850	200
	45-28R	-450×450	t 28	BT-HT440B-SP	(ニ)	770	60	75	110	200	75	12-D51	390	C	1000	—	24-D25	D138100	24以上	460	—	330	—	950	230
	50-19R	-500×500	t 19	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	52	65	85	260	75	12-D41	390	C	1000	1030	20-D25	D138100	21以上	570	780	440	640	800	190
	50-22R	-500×500	t 22	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	65	85	260	75	12-D41H	490	C	1050	1050	24-D25	D168100	21以上	570	780	440	640	850	200
	50-25R	-500×500	t 25	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	75	12-D51	390	C	1050	1050	24-D25	D168100	24以上	510	750	380	610	950	230
	50-28R	-500×500	t 28	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	75	12-D51H	490	C	1140	—	32-D25	D168100	24以上	510	—	380	—	1050	235
	55-19R	-550×550	t 19	BT-HT440B-SP	(ニ)	840	52	65	85	270	75	12-D41H	490	C	1100	1100	24-D25	D168100	24以上	590	800	460	660	850	200
	55-22R	-550×550	t 22	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	65	85	300	75	12-D41H	490	C	1100	1120	24-D25	D168100	24以上	650	860	520	720	850	200
	55-25R	-550×550	t 25	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	75	110	265	75	12-D51	390	C	1100	1100	32-D25	D168100	24以上	590	830	460	690	950	230
	55-28R	-550×550	t 28	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	65	75	110	265	75	12-D51H	490	C	1150	—	36-D25	D168100	24以上	590	—	460	—	1050	235

代表設計者

一級建築士 第147732号 松崎 正志

設計者

一級建築士 第280115号 李 康仙
構造設計一級建築士 第3442号

提出・訂正

件名

健診施設等建設事業 建築工事

図面内容

鉄骨柱脚標準図(1)

縮尺

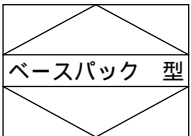
N.S.

区分

建築構造図

図面番号

S-12



角形鋼管

F 値 295 N/mm²以下
-150×150 ～ -300×300 用

(財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

ベースバック柱脚工法 設計 標準図

ベースバック柱脚工法の設計は「ベースバック柱脚工法設計ハンドブック」による。

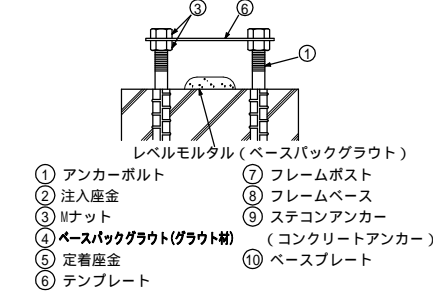
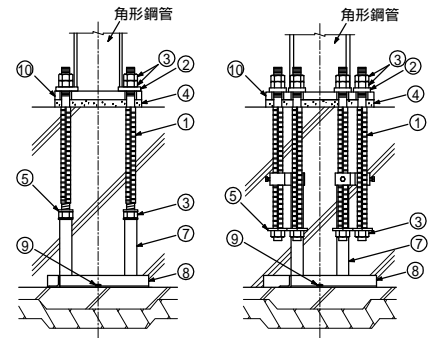
岡部株式会社
TEL03 (3624) 5336

旭化成建材株式会社
TEL03 (3296) 3515

2021年4月作成

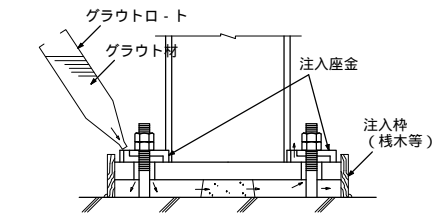
1. 工法概要

1.1 構成部材



(注)上配①～⑩の構成部材はベースバック構成部品として供給される。
(注)上配⑥～⑧は現場状況により仕様異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要



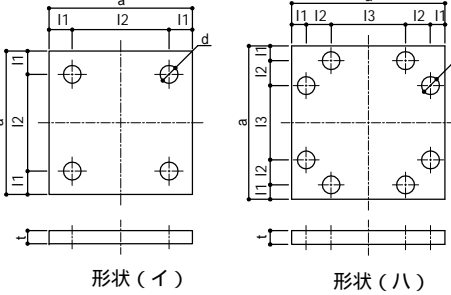
2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235 STKR400	
295	BCR295 TSC295	

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

材質
SN490B【JIS G 3136】



3.3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3.4 定着座金

単位 mm

適用 アンカー	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	SS400
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

単位 mm

適用 アンカー	g1	g2	t	d	材質
M27	55	168	9	32	
M30	60	173	9	35	SS400
M36	65	178	9	38	

3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

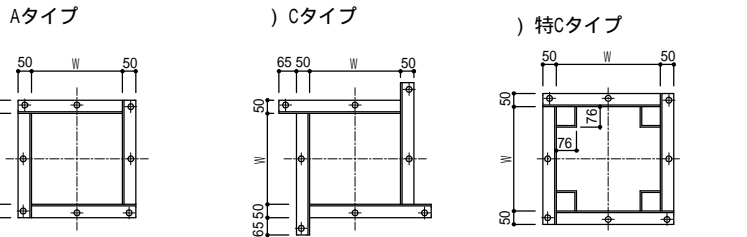
記号	適用 アンカー	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3.2 アンカーボルト (Mアンカーボルト) 【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	異形部 呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm ²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690,735	45	95,140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770,810	60	98,135	490

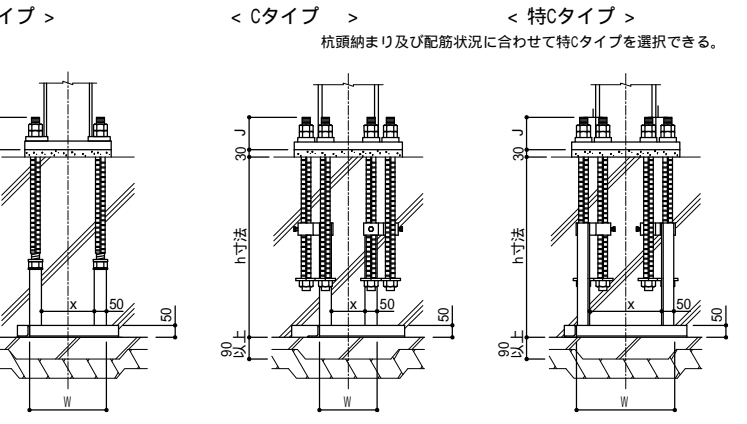
注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

3.6 フレームベース



3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

ベースバックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

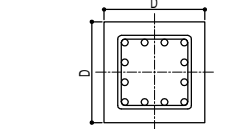


採用	ベースバック 記号	柱		ベースプレート								アンカーボルト		アンカー フレーム タイプ	コンクリート柱型					フレームベース		フレームポスト間		最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)
		外径 (mm)	板厚 (mm)	材質	形状	寸法(mm)						本数・呼び	基準強度 (N/mm ²)		寸法D(mm)		配筋		設計基準強度 (N/mm ²)	寸法W(mm)		寸法X(mm)			
						a	t	I1	I2	I3	d				標準フレーム	特C	立上り筋	フープ筋		標準フレーム	特C	標準フレーム	特C		
	15-12V	-150×150	t 12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13φ100	21以上	250	-	150	-	550	135
	17-12V	-175×175	t 12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13φ100	21以上	280	-	180	-	600	135
	20-09V	-200×200	t 9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13φ100	21以上	310	-	210	-	600	135
	20-12V	-200×200	t 12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13φ100	21以上	310	-	210	-	600	135
	25-09V	-250×250	t 9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13φ100	21以上	360	-	260	-	650	150
	25-12V	-250×250	t 12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13φ100	21以上	370	-	270	-	650	150
	25-16V	-250×250	t 16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13φ100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	-300×300	t 9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13φ100	21以上	420	-	320	-	650	150
	30-12V	-300×300	t 12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13φ100	21以上	310	510	210	370	650	135
	30-16V	-300×300	t 16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13φ100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	-300×300	t 19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13φ100	21以上	340	540	240	400	700	150

4. コンクリート柱型

4.1 形状・材質

形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。



コンクリート

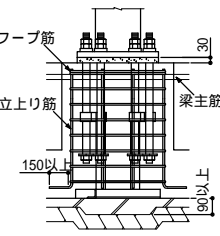
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

鉄筋

SD295(D13,D16)
SD345(D19,D22)

4.2 配筋

配筋仕様は下表による。

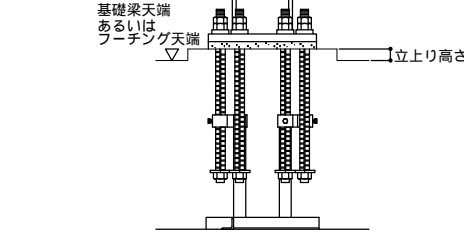


立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4.3 基礎立上がり

基礎立上がり高さは50mm以下とする。

ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



4.4 特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

- 採用
- 下表標準柱型寸法からの変更あり(「柱型寸法最大・最小値一覧」による)
- 下表標準配筋仕様からの変更あり
- 立上り筋に頂部フックが必要

5. 工場製作(溶接)

組立

ベースプレートの中心線(ヶ+線)に柱材軸心を合わせる。

溶接方法(完全溶込み溶接)

完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準(JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔S(mm)		ルート面R(mm)		開先角度α(°)		溶接姿勢
			標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差	
ベースプレート	溶接	6~	7	-2,+ (-3,+)	2	-2,+1 (-2,+2)	1:45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			9	-2,+ (-3,+)	2	-2,+1 (-2,+2)	1:35	-2.5,+∞ (-5,+∞)	
	溶接	6~	6	-2,+ (-3,+)	2	-2,+1 (-2,+2)	1:45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	
			7	-2,+ (-3,+)	2	-2,+1 (-2,+2)	1:35	-2.5,+∞ (-5,+∞)	

許容差・記号+は制限無しを示す。
・2段階きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差(上段:管理許容差、下段括弧内:限界許容差)を示す。

ベースプレートの予熱

気温(鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm)			
		t<32	32≤t<40	40≤t	50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50	50	50
CO2ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし	予熱なし

検査方法:溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

施工管理:7.本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

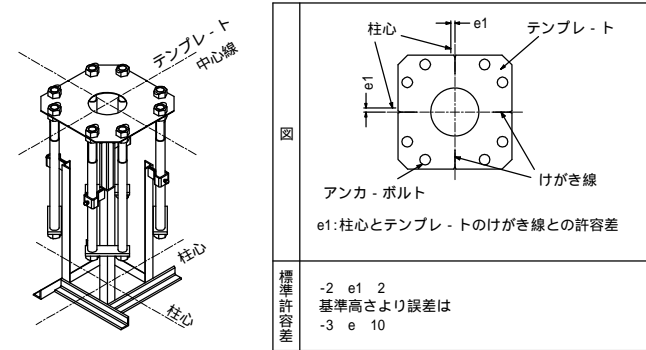
柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



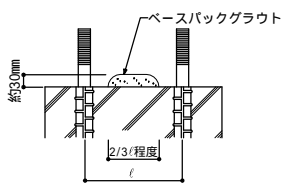
6.3 配筋およびコンクリート打設

配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

レベルモルタルはベースバックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。



6.5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6.6 ベースバックグラウト(グラウト材)の注入

グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

本工法のうち6.2アンカーボルト据付け及び6.6ベースバックグラウトの注入は、ベースバック施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースバック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

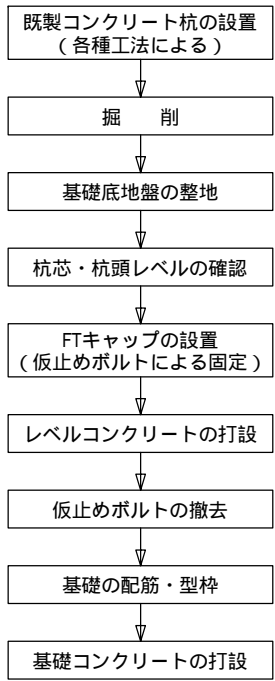
構法概要

- 1．本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
- 2．杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーバー状のクリアランスを設ける。
- 3．杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。

使用材料（適用範囲）

- ・杭　：　各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SC杭、PRC杭、RC杭　等）
- ・杭径：　300mm～1,200mm
- ・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部）　：　普通コンクリート　設計基準強度：18～60 N/mm²
（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

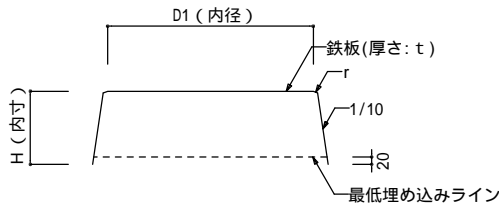
施工手順



留意事項

- ・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- ・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。
- ・FTPの刻印があるFTキャップ（テーバー型枠）を使用すること。
- ・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。
- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。
- ・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。
- ・FTキャップを設置する際は、杭周囲の碎石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。
- ・FTキャップ設置後に木槌等でFTキャップを軽打し、端板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。
- ・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで碎石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。
- ・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。
- ・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスプーサー等を置かないこと。
- ・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監理者に提出すること。

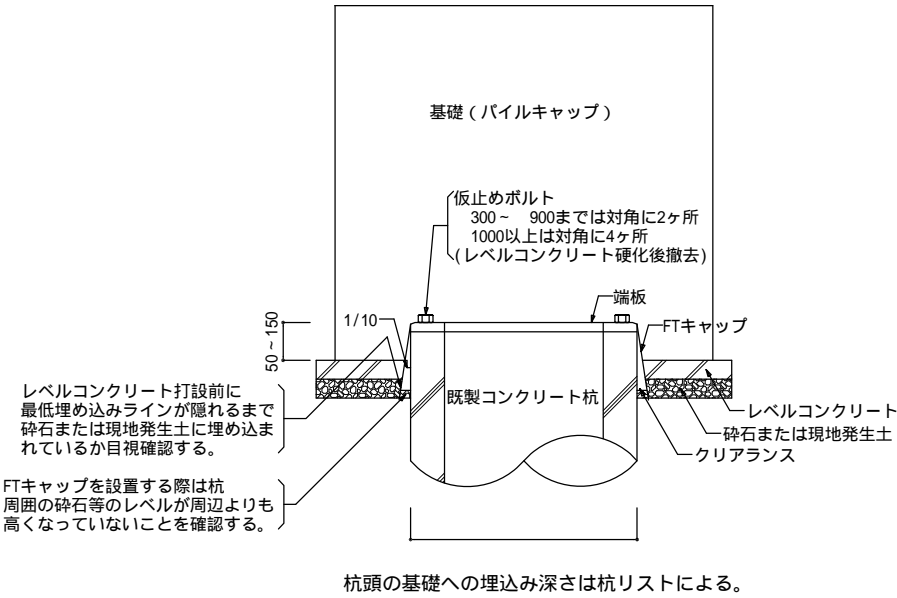
FTキャップ（テーバー型枠）仕様



採用	杭径	鉄板厚さt(mm)	D1(mm)	D2(mm)	H(mm)	r(mm)	W(kg)
	300	1.2	301	345	201	2.0	1.8
	350	1.2	351	395	201	2.0	2.3
	400	1.2	401	445	201	2.0	2.7
	450	1.2	451	495	201	2.0	3.2
	500	1.2	501	545	201	2.0	3.8
	600	1.6	601	645	201	2.0	7.2
	700	1.6	701	745	201	2.0	9.0
	800	2.0	801	845	201	2.0	13.8
	900	2.0	901	945	201	2.0	17.4
	1000	2.3	1001	1045	201	2.0	23.9
	1100	3.2	1101	1145	201	2.0	38.6
	1200	3.2	1201	1245	201	2.0	44.3

- FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。
- ・FTキャップに「FTP」の刻印があること。
- ・FTキャップに変形や損傷がないこと。

杭頭部詳細図



杭頭の基礎への埋込み深さは杭リストによる。

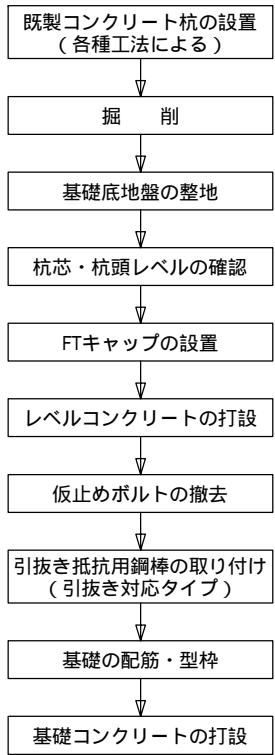
構法概要

- 1．本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
- 2．杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーバー状のクリアランスを設ける。
- 3．杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。
- 4．引抜き対応タイプでは、引抜き抵抗用鋼棒を杭頭にカブラーを用いて設置し、基礎側端部には定着板を取り付ける。

使用材料（適用範囲）

- ・杭　　： SC杭を除く各種の既製コンクリート杭（PHC杭、PRC杭、RC杭　等）
- ・杭径　： 300mm～1200mm
- ・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部）　： 普通コンクリート　設計基準強度：18～60 N/mm²
（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）
- ・鋼材
- ・引抜き抵抗用鋼棒
- ・F.T.Pile構法用アンカー鋼棒　大臣認定：MSRB-0026
- ・SBPR 785/1030（ 11-A種PC鋼棒）　F=785 N/mm²
- ・SBPR 1080/1230（ 11-C種PC鋼棒） F=1080 N/mm²
- ・カブラー： S45C SNR490B
- ・定着板　： SS400 SM400A

施工手順



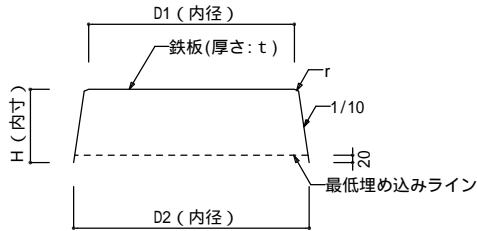
留意事項

- ・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- ・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。
- ・FTPの刻印があるFTキャップ（テーバー型枠）を使用すること。
- ・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。
- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。
- ・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。
- ・FTキャップを設置する際は、杭周囲の砕石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。
- ・FTキャップ設置後に木槌等でFTキャップを軽打し、端板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。
- ・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで砕石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。
- ・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。
- ・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスペーサー等を置かないこと。
- ・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監理者に提出すること。

（引抜き対応タイプ）

- ・杭頭の端板の厚さ、ボルト孔の規格、カブラーの規格を確認する。＊1
- ・引抜き抵抗用鋼棒の先端を定着板及び杭頭の底面までねじ込んだ状態で所定のねじかかり代を確保すること。＊2, ＊3
- ・必要に応じ段取り筋等を用いて、引抜き抵抗用鋼棒の直立性を確保する。

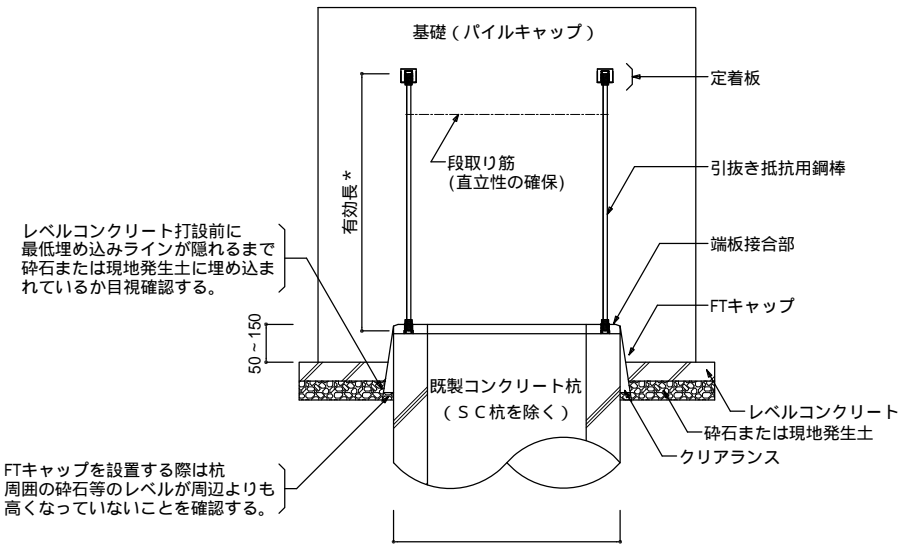
FTキャップ（テーバー型枠）仕様



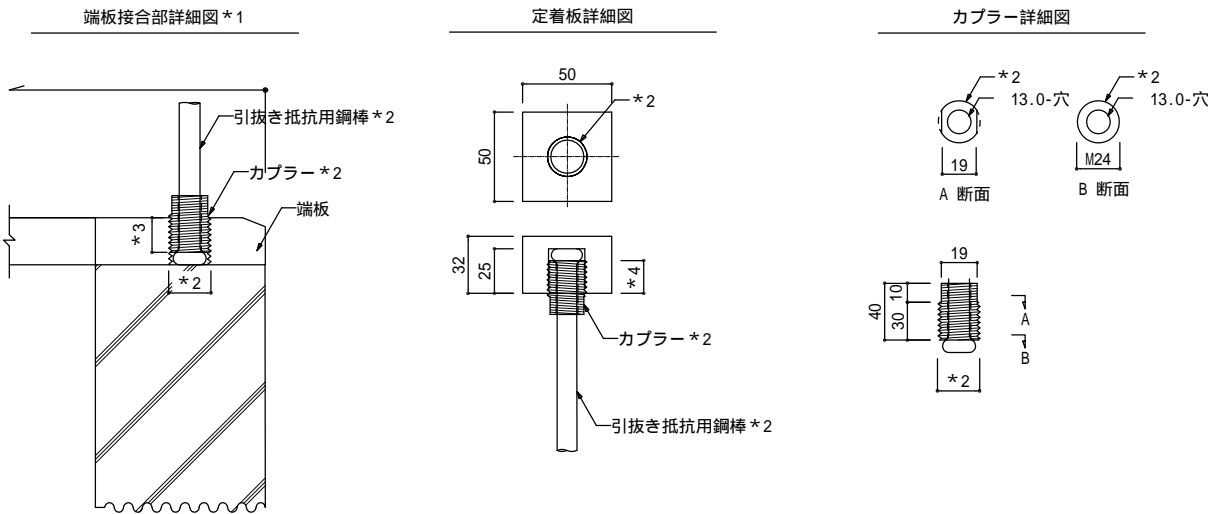
採用	杭径	鉄板厚さt(mm)	D1(mm)	D2(mm)	H(mm)	r(mm)	W(kg)
	300	1.2	301	345	201	2.0	1.8
	350	1.2	351	395	201	2.0	2.3
	400	1.2	401	445	201	2.0	2.7
	450	1.2	451	495	201	2.0	3.2
	500	1.2	501	545	201	2.0	3.8
	600	1.6	601	645	201	2.0	7.2
	700	1.6	701	745	201	2.0	9.0
	800	2.0	801	845	201	2.0	13.8
	900	2.0	901	945	201	2.0	17.4
	1000	2.3	1001	1045	201	2.0	23.9
	1100	3.2	1101	1145	201	2.0	38.6
	1200	3.2	1201	1245	201	2.0	44.3

- FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。
- ・FTキャップに「FTP」の刻印があること。
- ・FTキャップに変形や損傷がないこと。

杭頭部詳細図

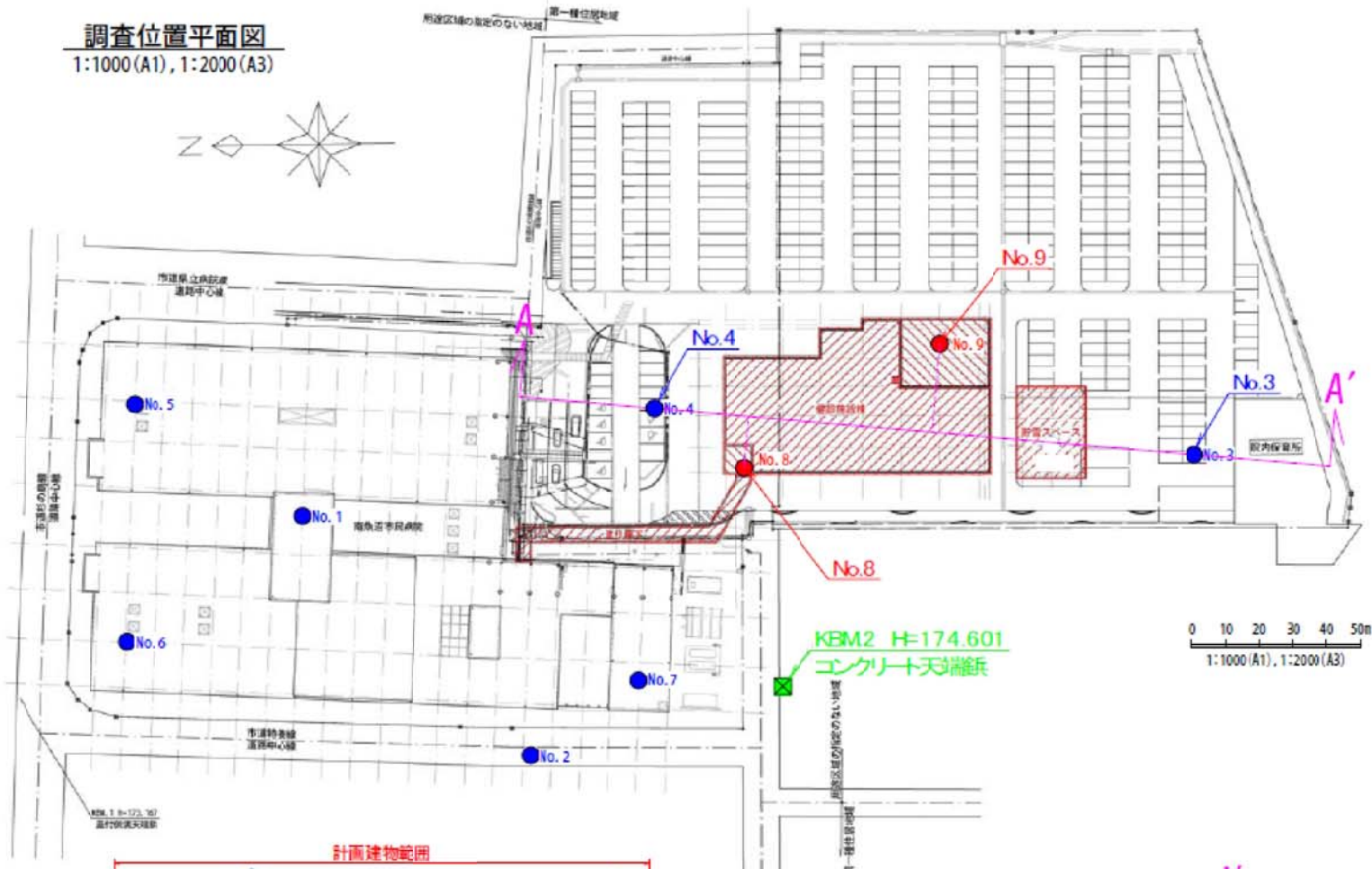


図中の有効長は、ボタンヘッドの首下間の距離を表し、アンカー鋼棒の全長とは異なる。＊2
杭頭の基礎への埋込み深さ、および引抜き抵抗用鋼棒の本数、有効長さは、杭リストによる。

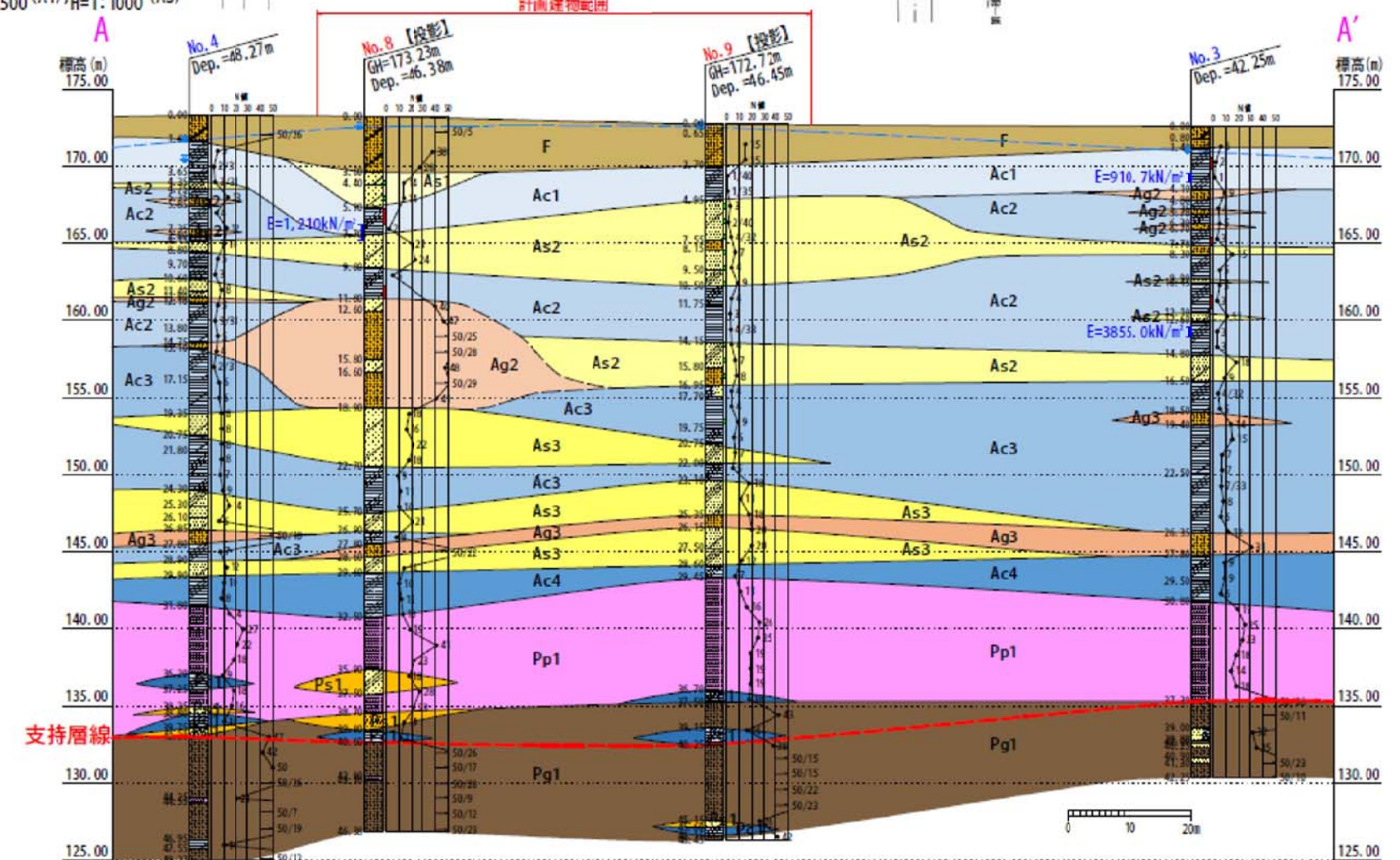


- ＊1 施工時は、納入された杭材が引抜き対応タイプであることを、杭体の表示で確認すること。
- ＊2 施工時は、引抜き抵抗用鋼棒及び、カブラー、定着板の仕様（材質、寸法、数量）を、「引抜き抵抗用鋼棒検査書」で確認すること。
- ＊3 端板側のネジかかり代は、（M22,M24）が18mm以上、（M27,W1）が14mm以上とする。（専用の検査ゲージで計測すること）
- ＊4 定着板側のネジかかり代は、18mm以上とする。（専用の検査ゲージで計測すること）

調査位置平面図
1:1000 (A1), 1:2000 (A3)



推定地質断面図
V=1:200 (A1), V=1:400 (A3)
H=1:500 (A1), H=1:1000 (A3)

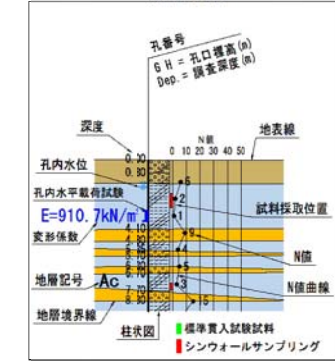


— 平面図凡例 —

孔番号

-ボーリング位置 (今回)
-ボーリング位置 (既存)
-ベンチマーク位置
- ↑断面測線

— 断面図凡例 —



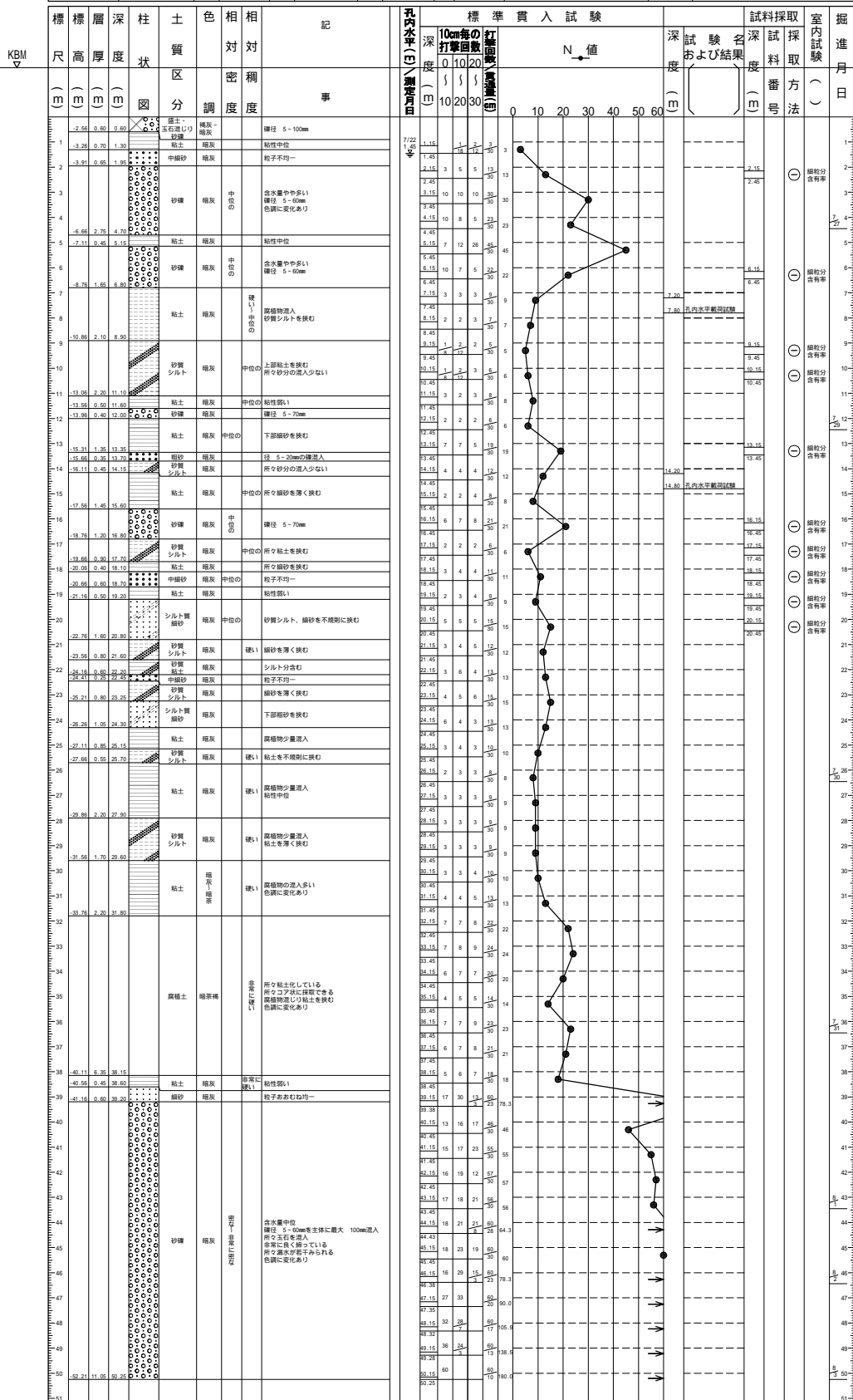
— 地層凡例 —

時代	地層名	記号
現代	埋土層	F
完新世	砂質土層1	As1
	粘性土層1	Ac1
	砂質土層2	As2
	粘性土層2	Ac2
	礫質土層2	Ag2
	砂質土層3	As3
	粘性土層3	Ac3
	礫質土層3	Ag3
	粘性土層4	Ac4
	腐植土層1	Pp1
更新世	砂質土層1	Ps1
	粘性土層1	Pc1
	礫質土層1	Pg1

調査名 医委第3号 新市立病院実施設計業務委託 地質調査
事業・工事名

ボーリング

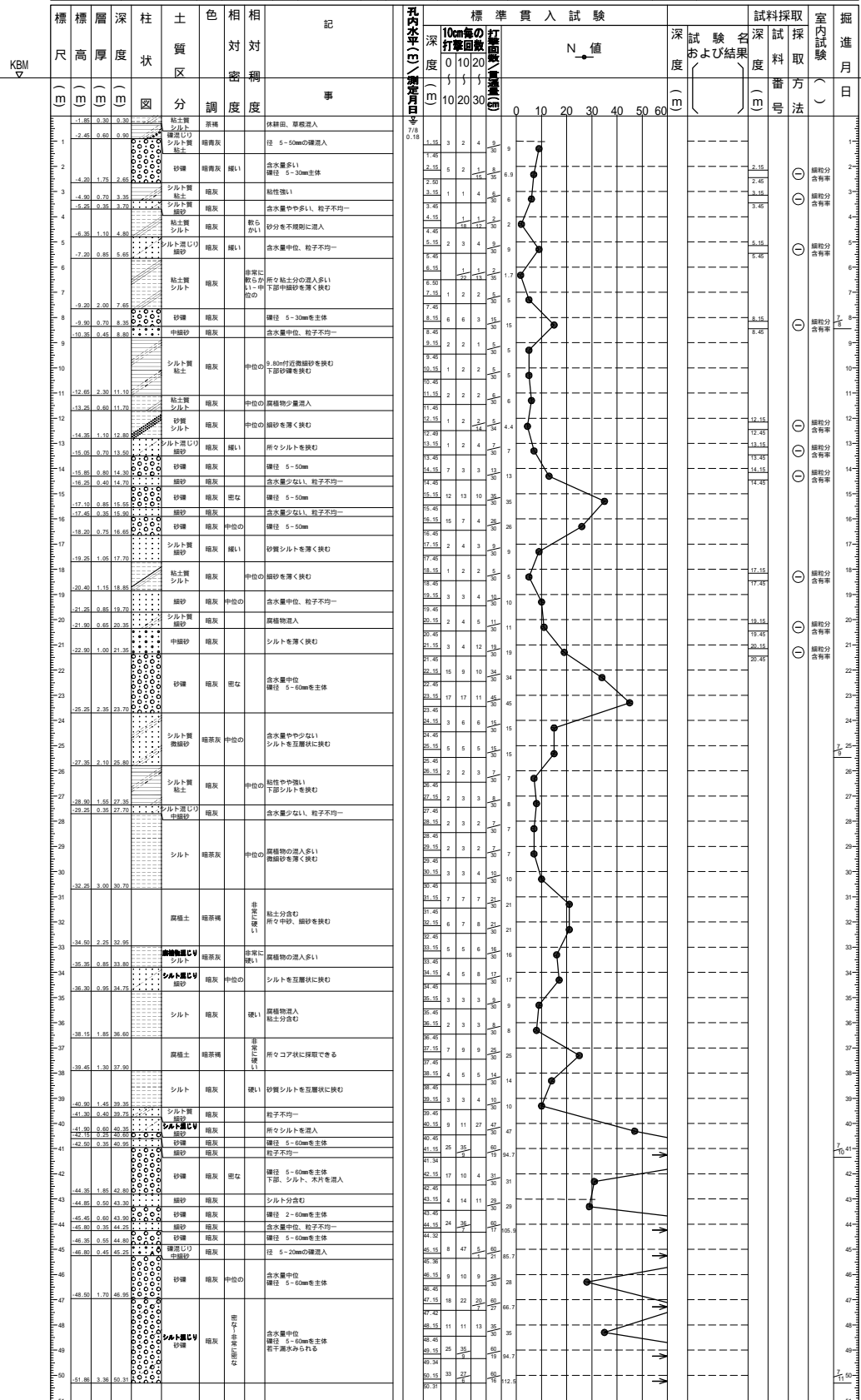
ボーリング名	(既往) 5	調査位置	南魚沼市六日町 地内	北緯	37° 3' 26"
発注機関	南魚沼市	調査期間	平成25年7月26日 ~ 25年8月5日	東経	138° 51' 57"
調査業者名	株式会社 新研基礎コンサルタント 電話(025-286-7188)	主任技師	渡辺 和雄	現場代理人	佐藤 利彦
孔口標高	KBM=-1.960m	角	上 0°	方	270°
総掘進長	50.25m	度	下 0°	地盤勾配	北 0°
使用機器	試錐機 KR-100HC型試験機 エンジン NF-8	ハンマー	落下用具	ボンプ	V5-P



調査名 医委第3号 新市立病院実施設計業務委託 地質調査
事業・工事名

ボーリング

ボーリング名	(既往) 6	調査位置	南魚沼市六日町 地内	北緯	37° 40' 26"
発注機関	南魚沼市	調査期間	平成25年7月8日 ~ 25年7月12日	東経	138° 51' 54"
調査業者名	株式会社 新研基礎コンサルタント 電話(025-286-7188)	主任技師	渡辺 和雄	現場代理人	佐藤 利彦
孔口標高	KBM=-1.545m	角	上 0°	方	270°
総掘進長	50.31m	度	下 0°	地盤勾配	北 0°
使用機器	試錐機 YBM-G5型試験機 エンジン NFAD-8	ハンマー	落下用具	ボンプ	V5-P

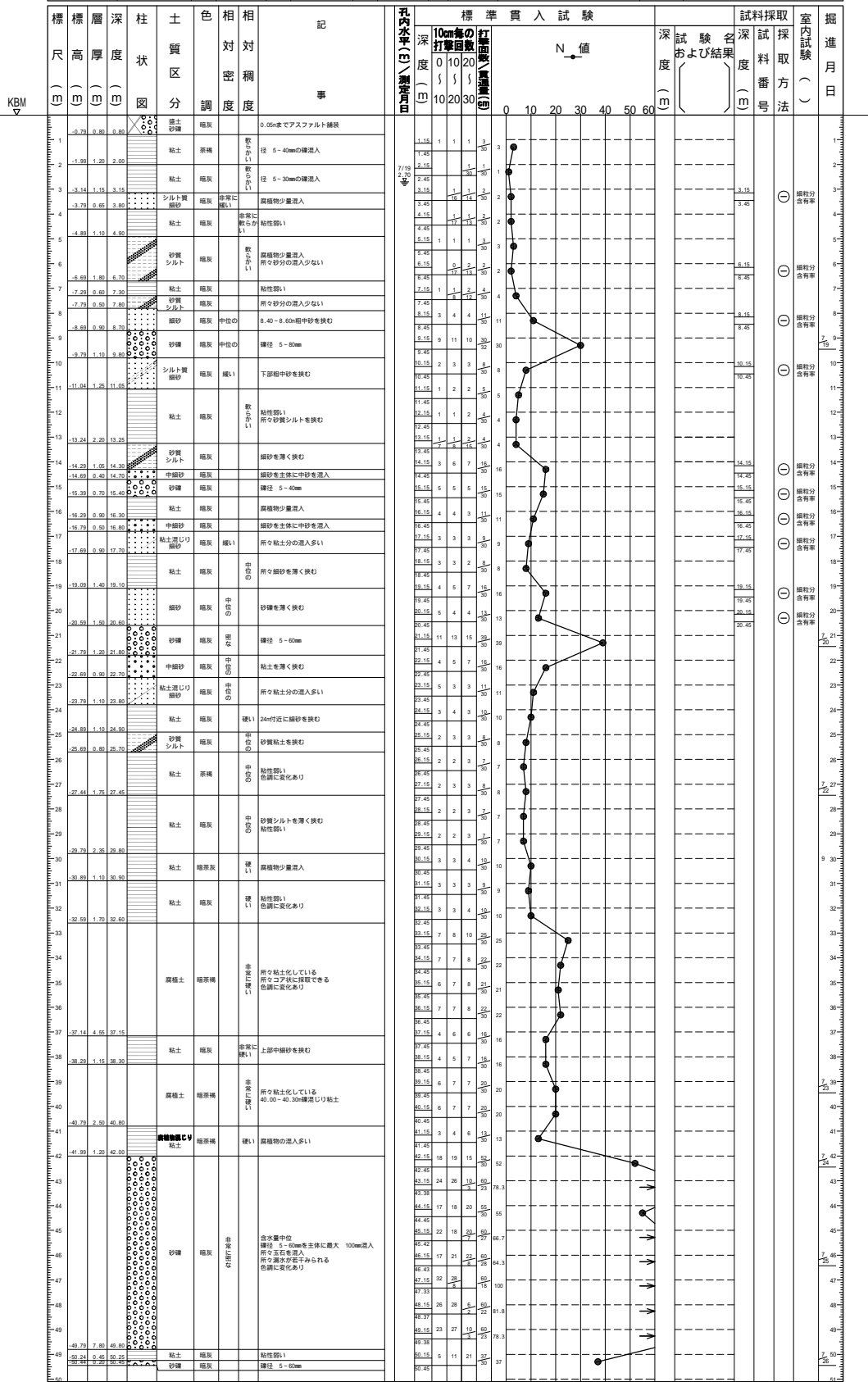


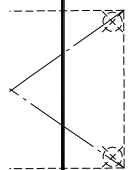
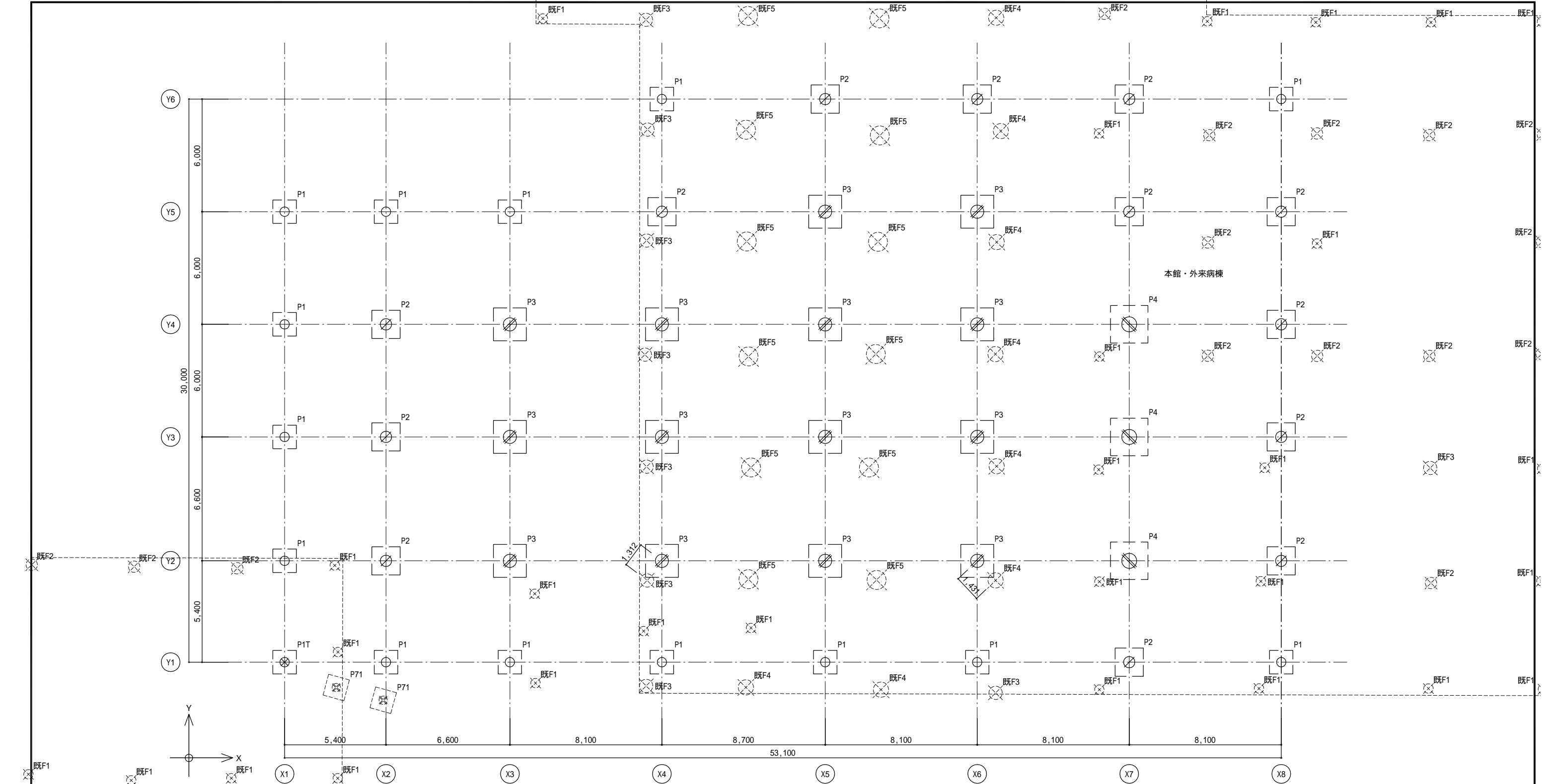
調査名 医委第3号 新市立病院実施設計業務委託 地質調査


事業・工事名

ボーリング

ボーリング名	(既往) 7		調査位置	南魚沼市六日町 地内		北 緯	37° 3' 22"	
発 注 機 関	南魚沼市		調査期間	平成25年7月19日 ~ 25年7月26日		東 経	138° 51' 54"	
調査業者名	株式会社 新研基礎コンサルタント 電話(025-286-7188)		主任技師	渡辺 和雄	現場代理人	佐藤 利彦 コ ー ー 査 定 者	ボーリング 責 任 者	吉田 和義
孔口標高	KBM=0.010m	角 度	方 向	地 面 配 置	使 用 機 種	試 験 機	ハンマー 落下式	半自動落下装置
総掘進長	50.45m	度			エンジン	NF-8	ポンプ	V5-P










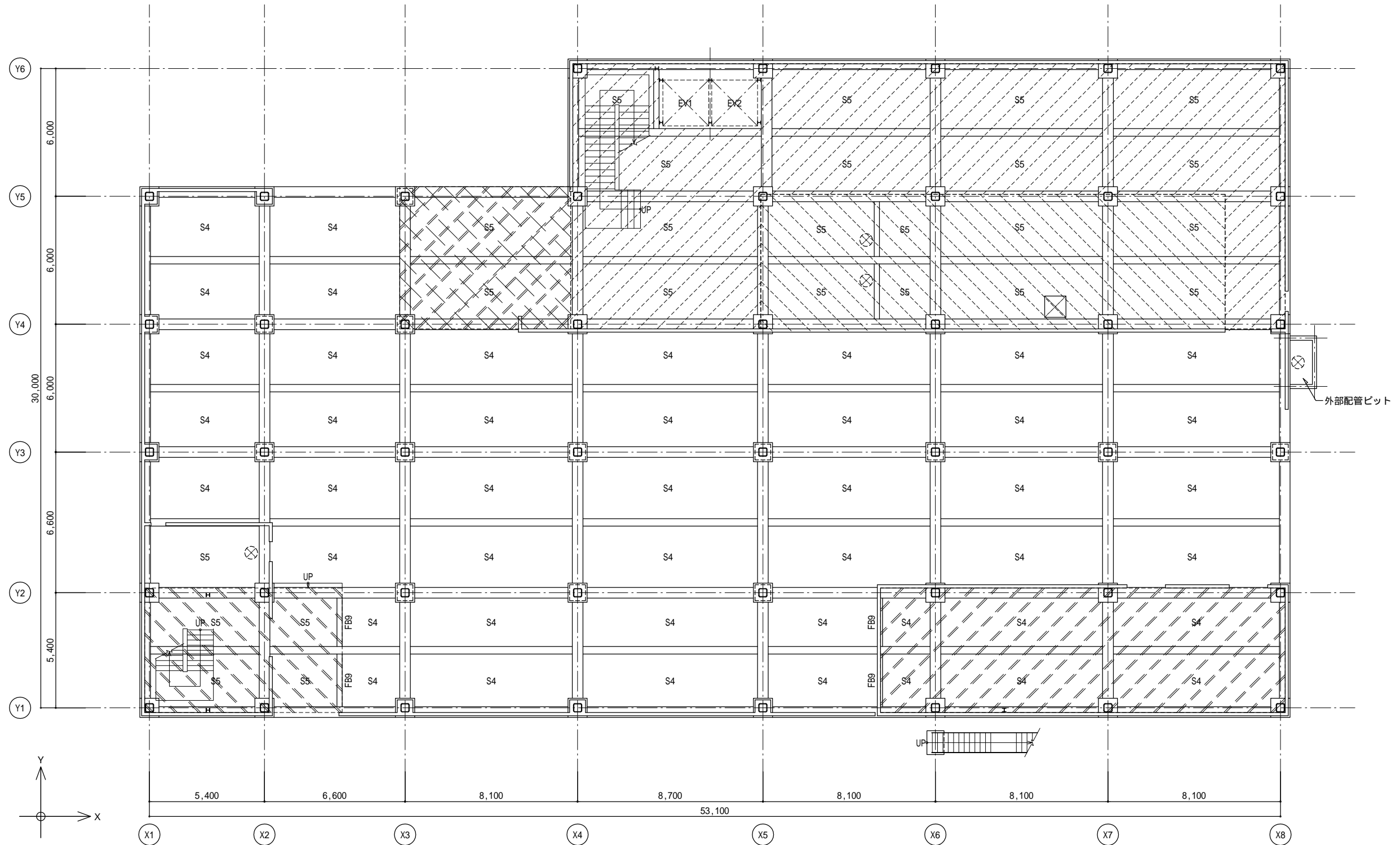
1. 「 既F*」は、既存杭の参考配置を示す。
既F1: 508.0×9
既F2: 609.6×9
既F3: 711.2×12
既F4: 812.8×12
既F5: 1016×12
プロット表記の既存杭は、打ち込み鋼管杭を示す。
2. 既存杭は、新設躯体の地盤レベルまでカット撤去する。

【本体】杭 伏図 S=1:200

- 共通事項：（特記なき限り、下記による。）
1. 設計GL=1FL
2. 杭頭レベル：本体=GL-2,380
3. 杭芯は、通り芯の芯々振分けとする。
4. 杭の許容施工偏心量は 100mm 以下とする。
5. 試験杭は 1 本とし、位置は杭の施工順番によって監督員の指示に従う。
試験施工杭は本杭とする。

6. 杭仕様：NEWスーパーFK工法（大臣認定工法）

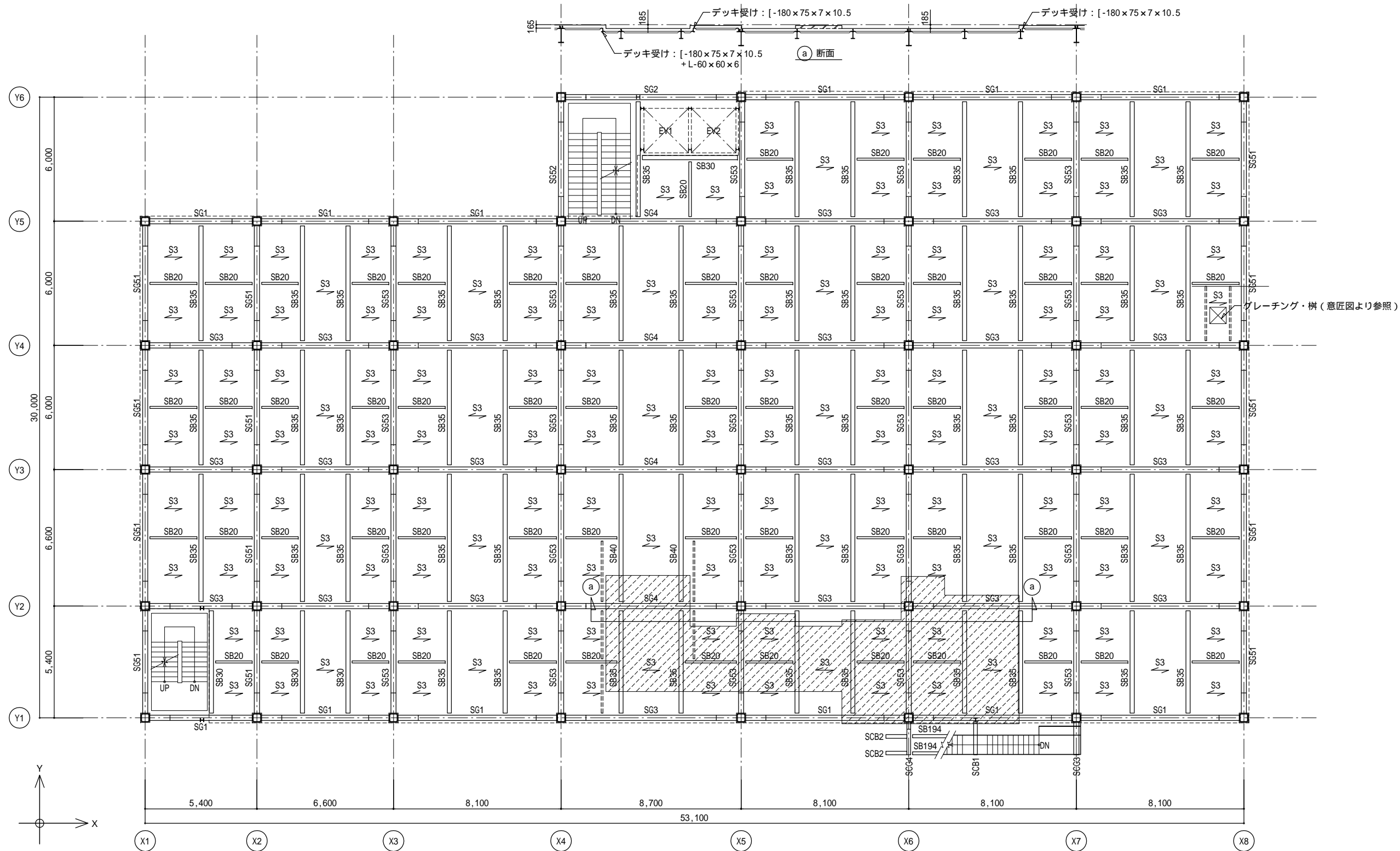
符号	記号	杭径・呼び名	杭長	上杭	中杭	下杭	長期支持力 (KN/本)	本数	F.T.Pile 構法
P1		500650	40m	HiCPRC-500, 12m	FK-A 500650, 14m	FK-A 500650, 14m	2090	14	標準タイプ
P1T		500650	40m	HiCPRC-500, 12m	FK-A 500650, 14m	FK-A 500650, 14m	2090	1	引抜きタイプ
P2		600750	40m	HiPHC-C 600, 12m	FK-A 600750, 14m	FK-A 600750, 14m	2500	13	標準タイプ
P3		700900	40m	HiPHC-C 700, 12m	FK-A 700900, 14m	FK-A 700900, 14m	3160	14	標準タイプ
P4		8001000	40m	HiPHC-C 800, 12m	FK-A 8001000, 14m	FK-A 8001000, 14m	3630	3	標準タイプ
							合計	45	



【本体】1階 伏図 S=1:200

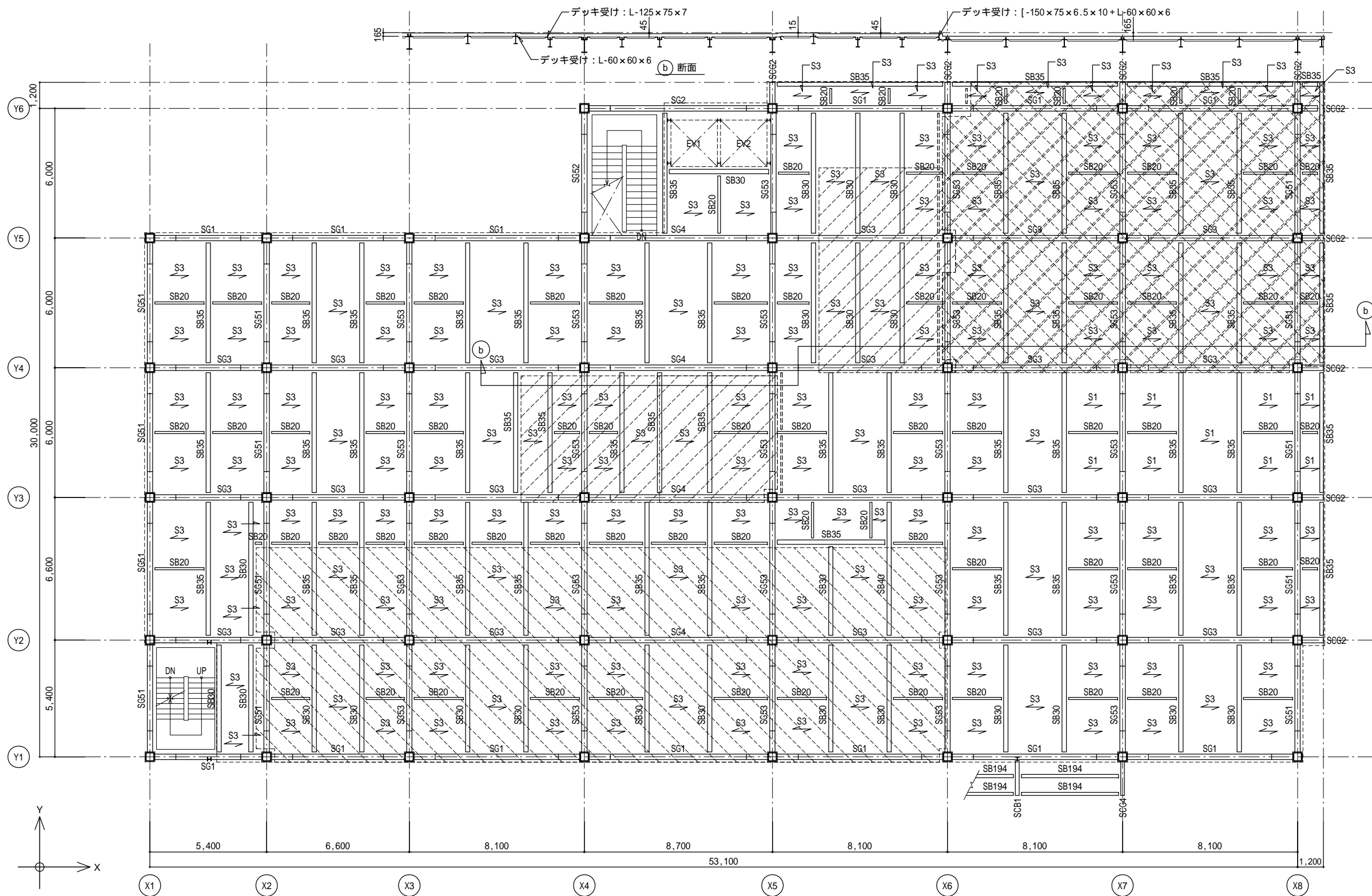
- 共通事項：（特記なき限り、下記による。）
- 1FL=（標高H）173.12m
 - 地中梁天端レベル：1FL-480（特記は軸組図による。）
 - スラブレベル表記は、下記による。

- 1FL-115
- 1FL-100
- 1FL-50
- 1FL+85
- 1FL+100
- 1FL+300



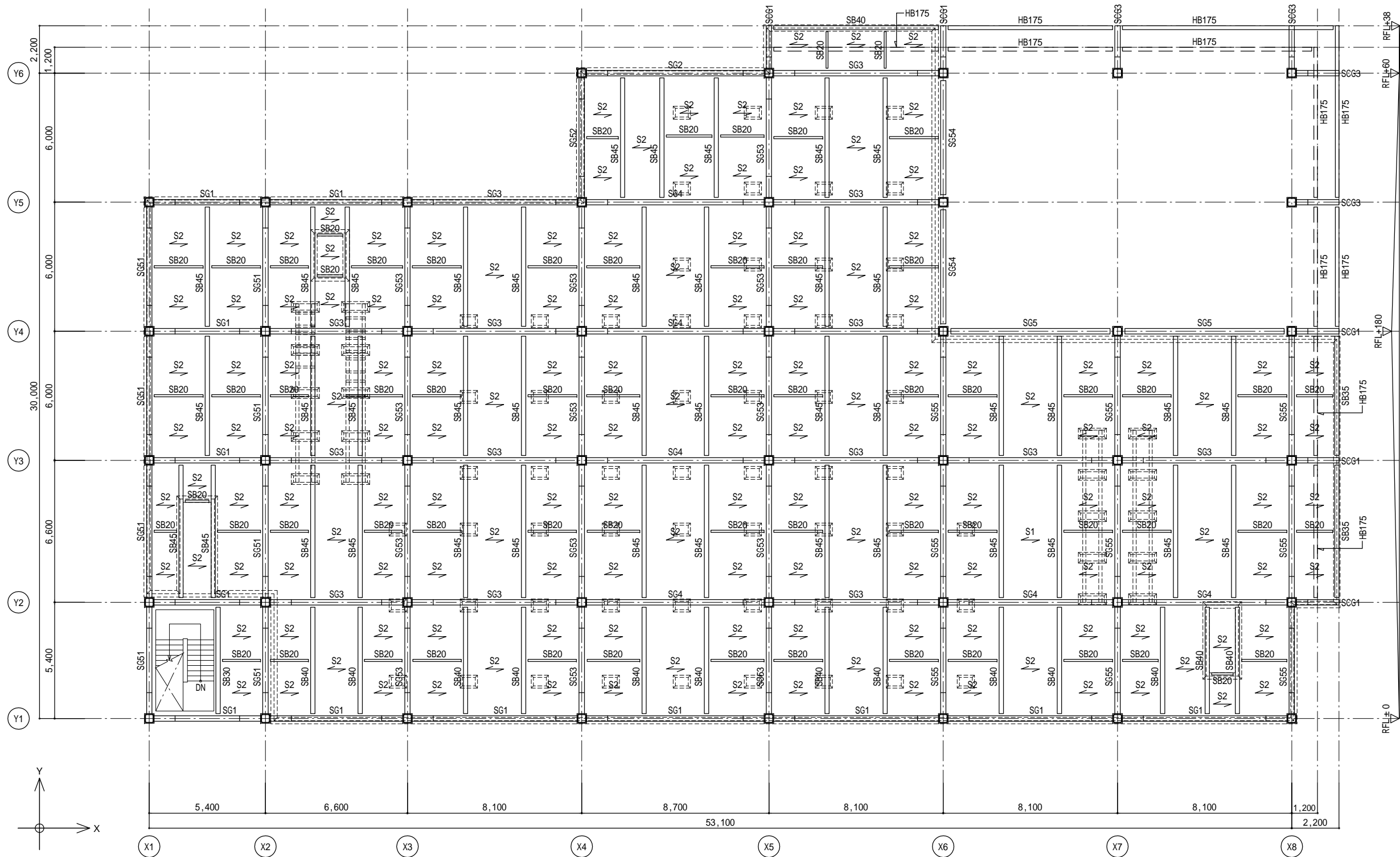
【本体】2階 伏図 S=1:200

- 共通事項：（特記なき限り、下記による。）
- 鉄骨梁天端レベル：2FL-165（特記は軸組図による。）
 - スラブレベル表記は、下記による。
□ : 2FL-15
▨ : 2FL-170
 - は、スラブの主筋方向（デッキプレートの敷き込み方向）を示す。



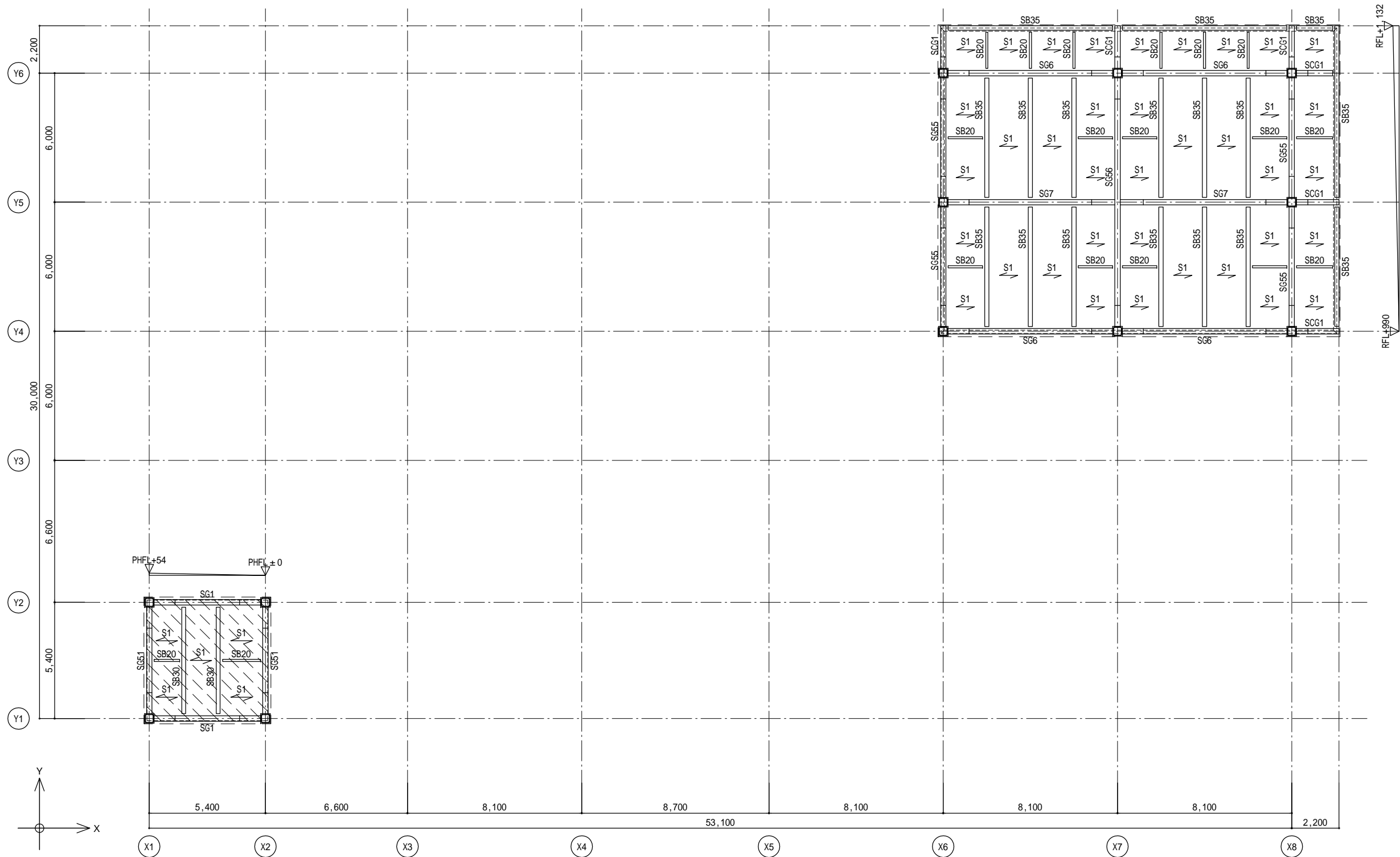
【本体】3階 伏図 S=1:200

- 共通事項：（特記なき限り、下記による。）
- 鉄骨梁天端レベル：3FL-165（特記は軸組図による。）
 - スラブレベル表記は、下記による。
 - 3FL-15
 - 3FL-45
 - 3FL-50
 - 3FL-165
 - は、スラブの主筋方向（デッキプレートの敷き込み方向）を示す。



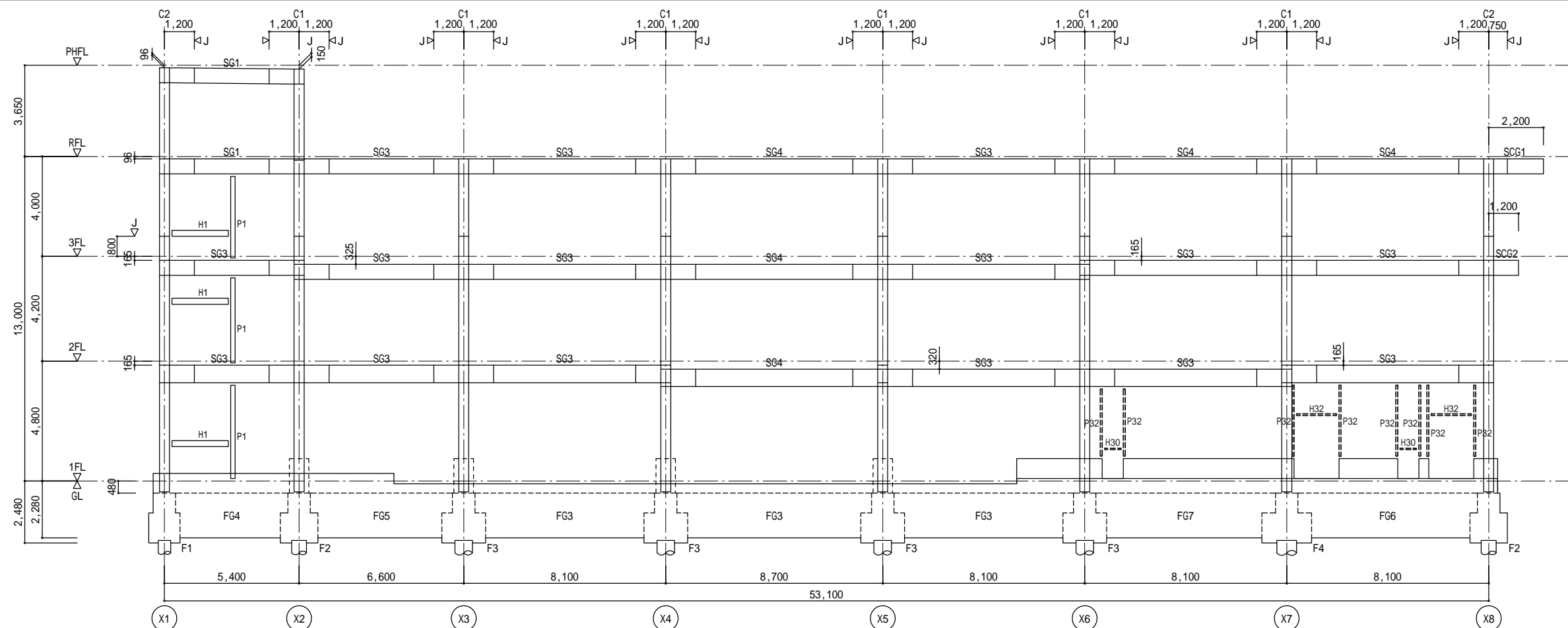
【本体】R階 伏図 S=1:200

- 共通事項：（特記なき限り、下記による。）
- 鉄骨梁天端レベル：軸組図より参照する。特記なき限り、スラブ水勾配レベル-150とする。
 - スラブレベル表記は、特記なき限り、屋根水勾配による。
□□□□：屋根スラブレベル：図示水勾配による。
□□□□
 - は、スラブの主筋方向（デッキプレートの敷き込み方向）を示す。

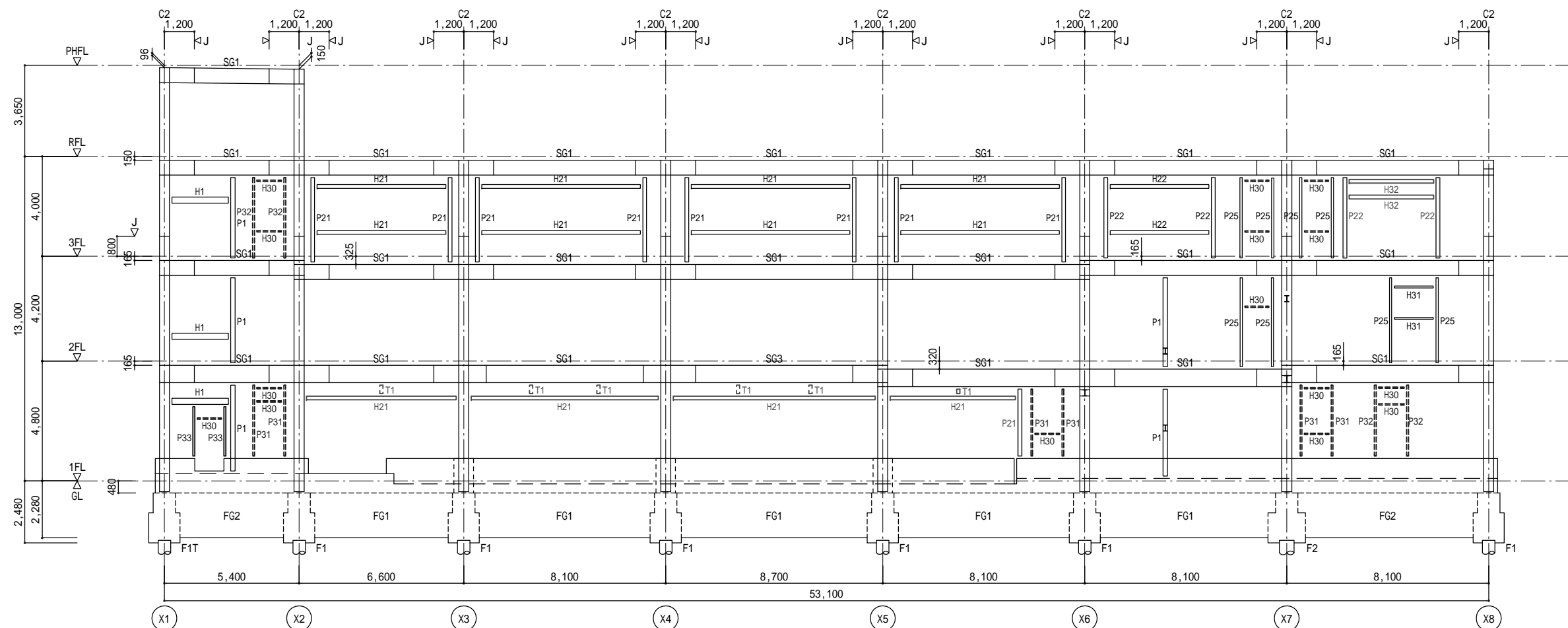


【本体】塔屋階・RFL+990 伏図 S=1:200

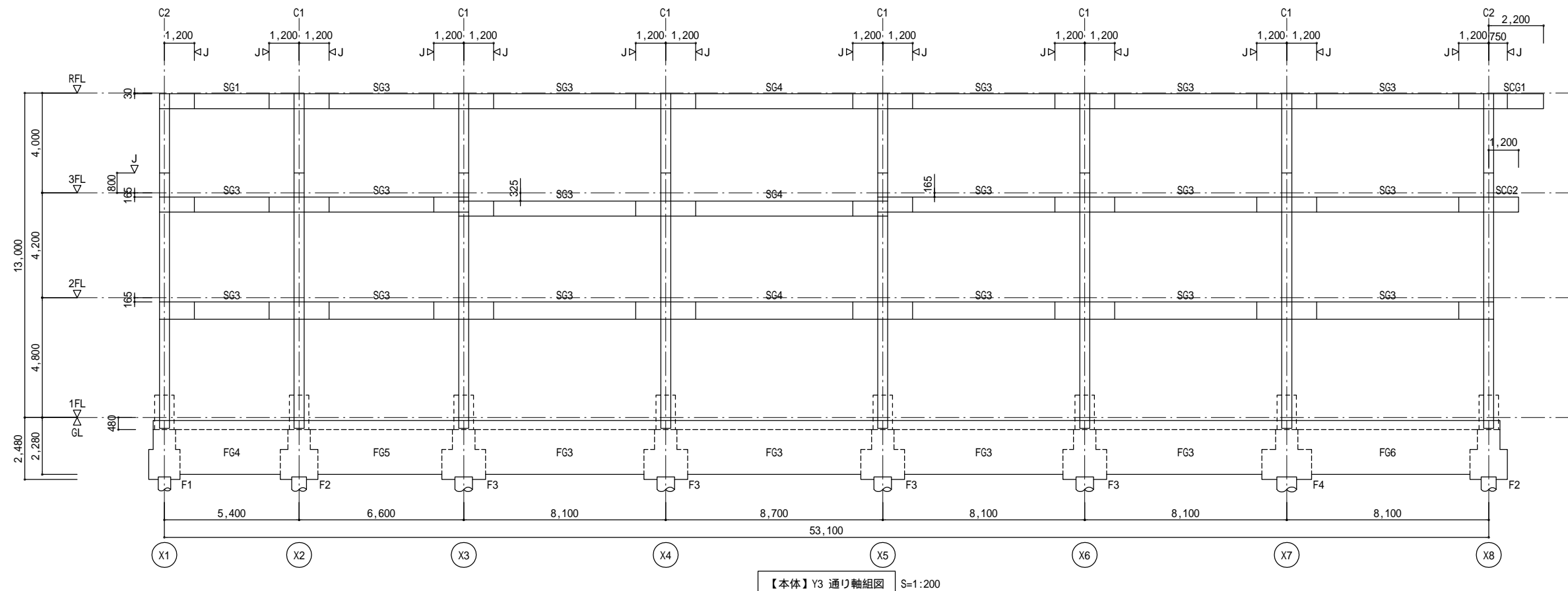
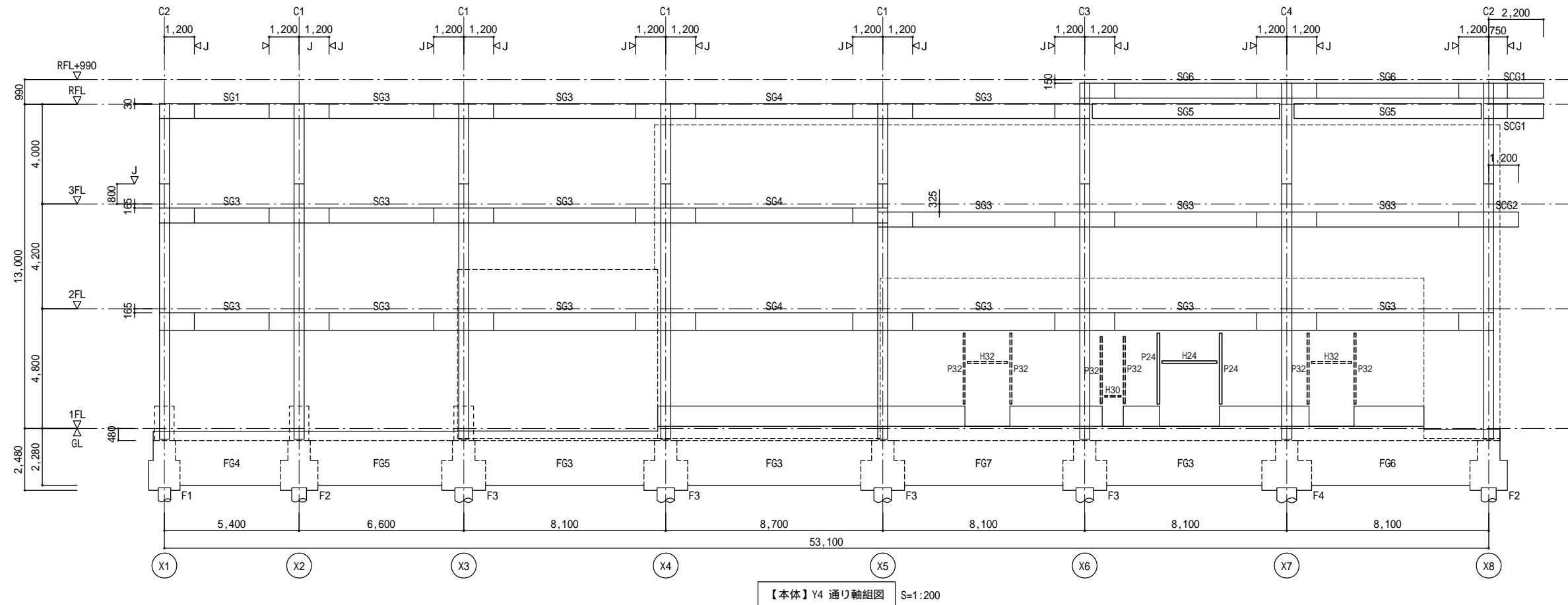
- 共通事項：（特記なき限り、下記による。）
- 鉄骨梁天端レベル：軸組図より参照する。特記なき限り、スラブ水勾配レベル-150とする。
 - 屋根スラブレベル：水勾配による。
□□□□：多目的ホール上部屋根スラブレベル：図示水勾配による。
▨▨▨▨：階段室屋根スラブ：図示水勾配による。
 - ↗↘ は、スラブの主筋方向（デッキプレートの敷き込み方向）を示す。

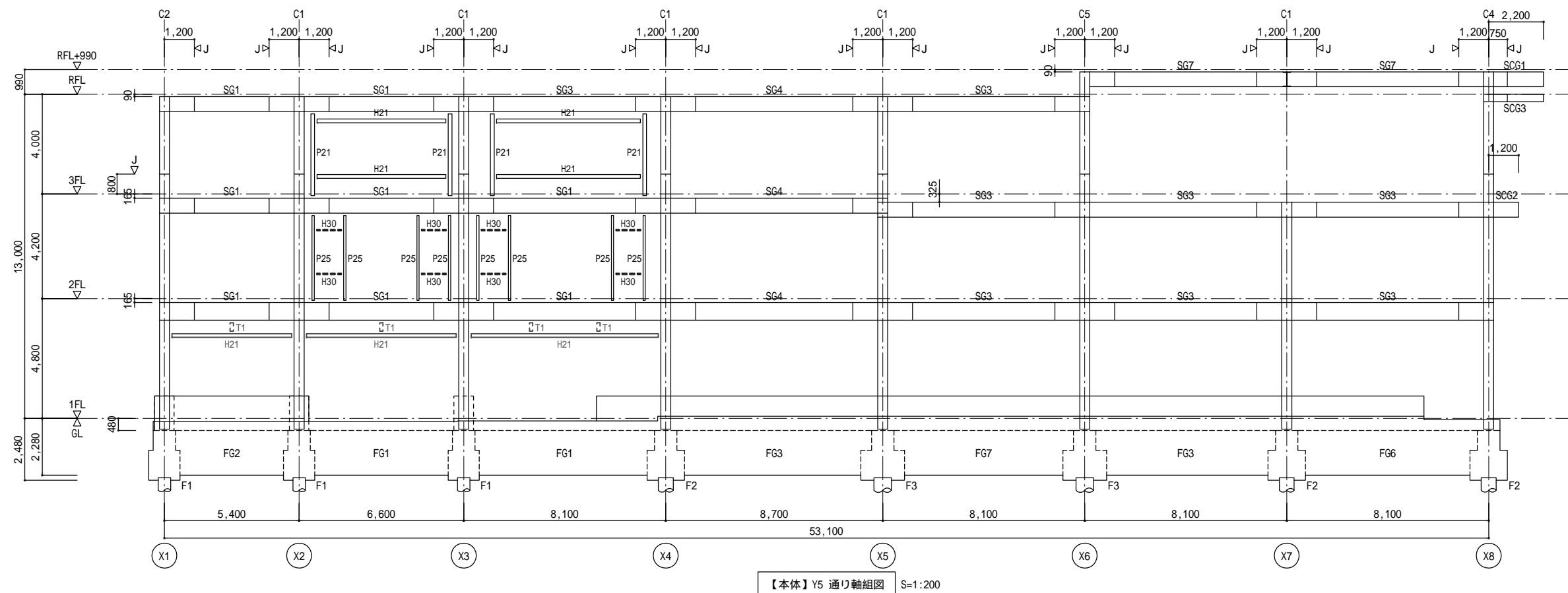
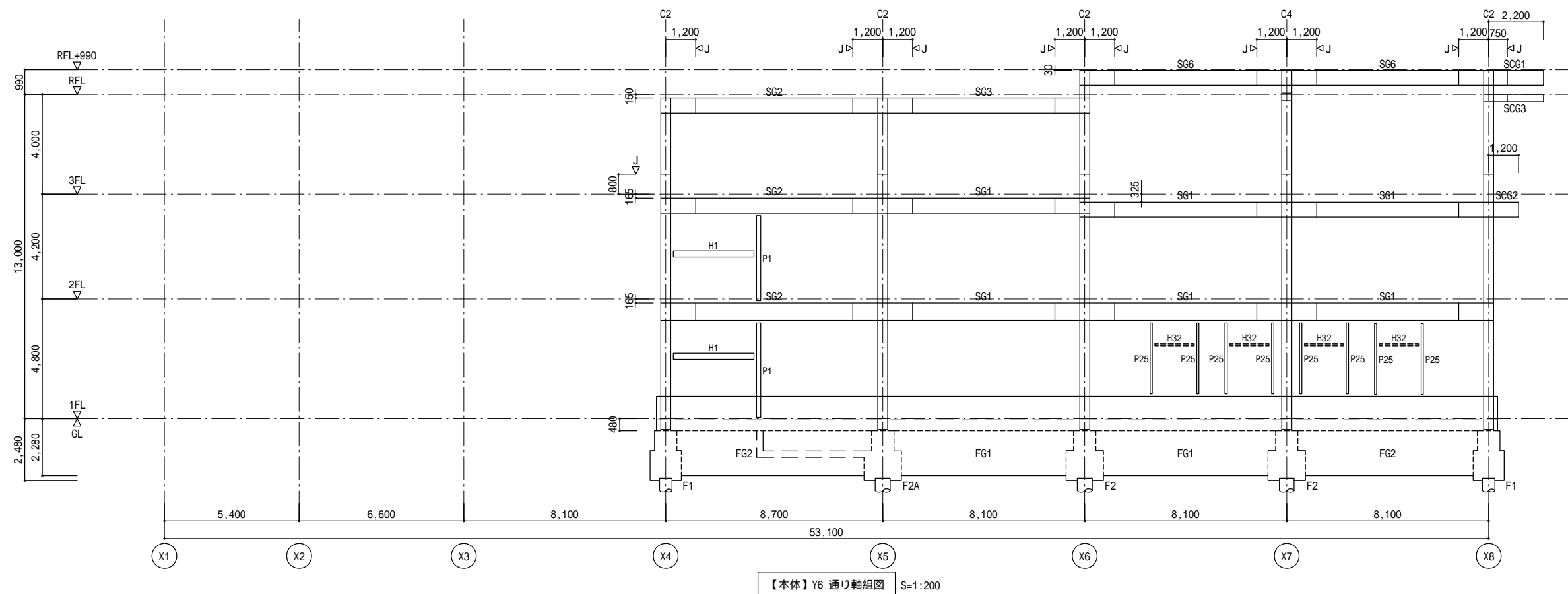


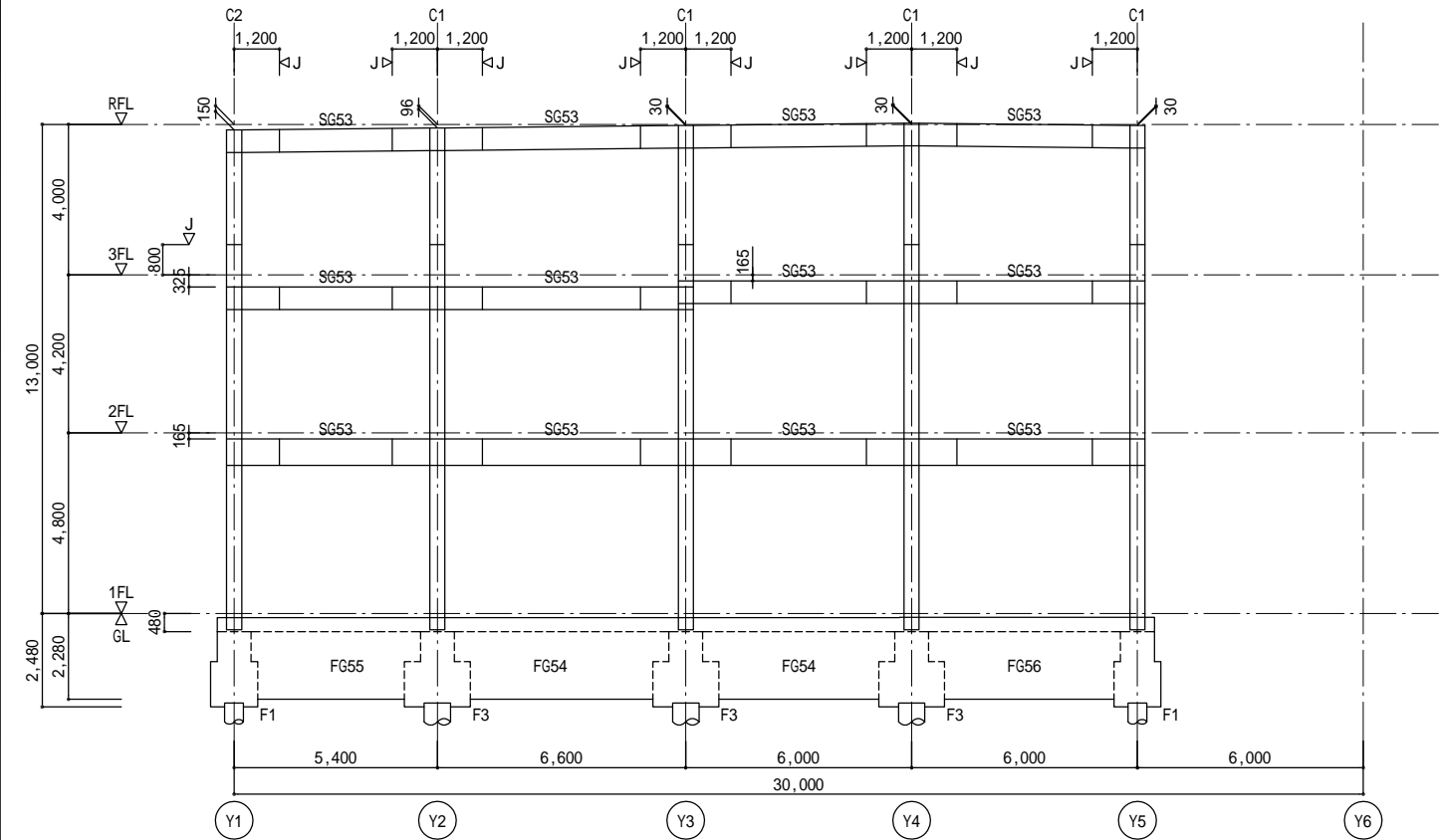
【本体】Y2 通り軸組図 S=1:200



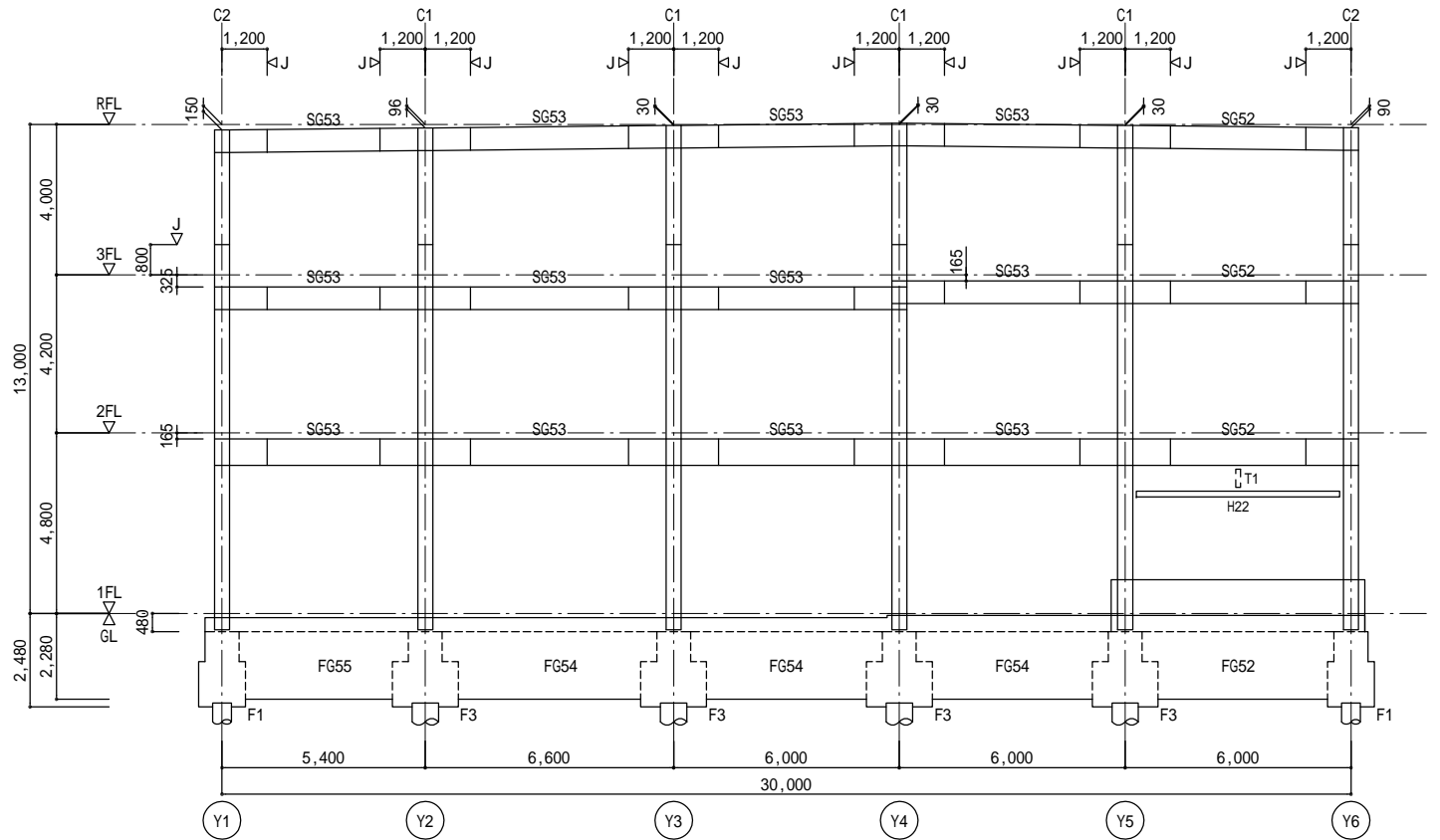
【本体】Y1 通り軸組図 S=1:200



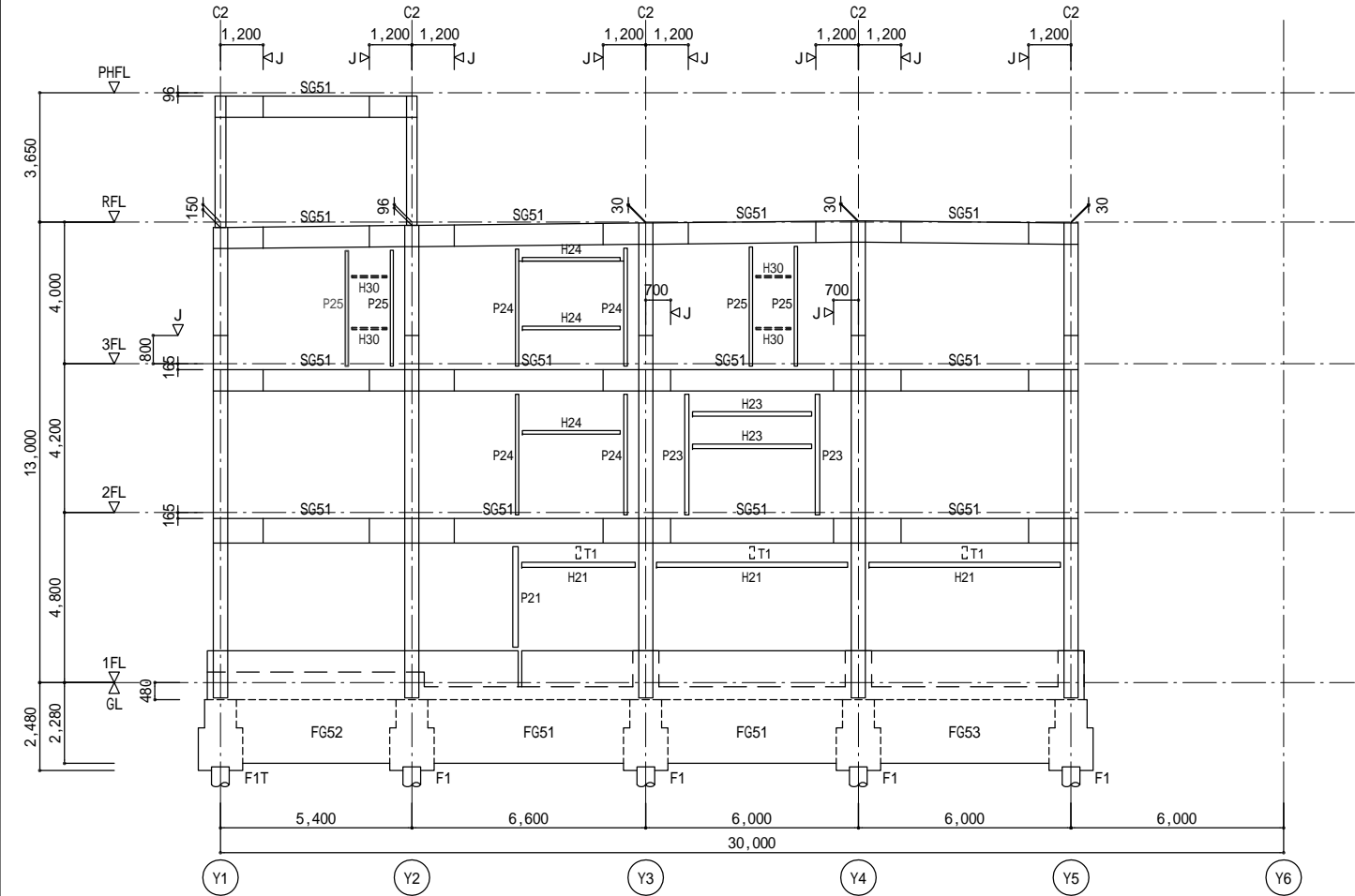




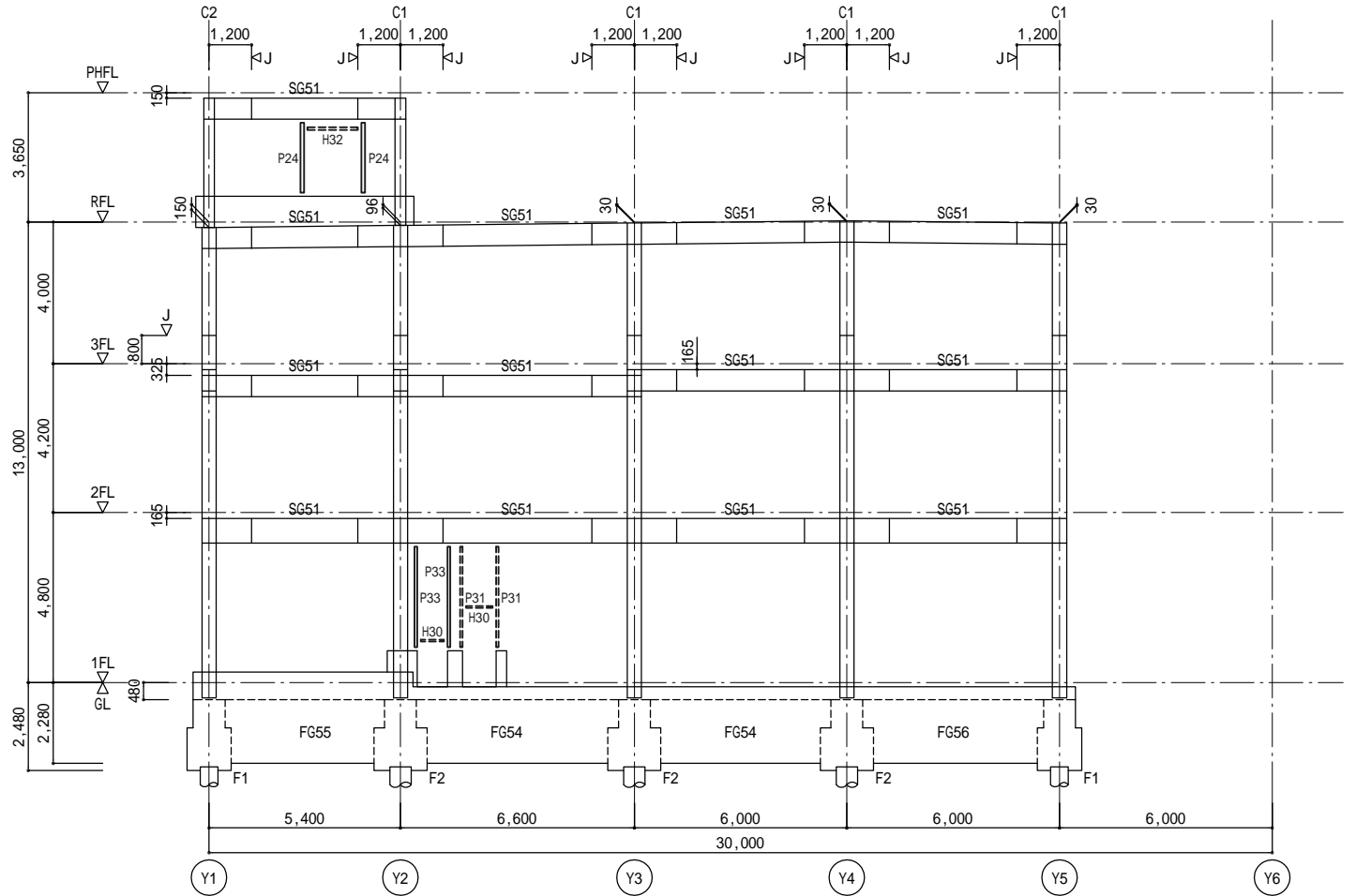
【本体】X3 通り軸組図 S=1:200



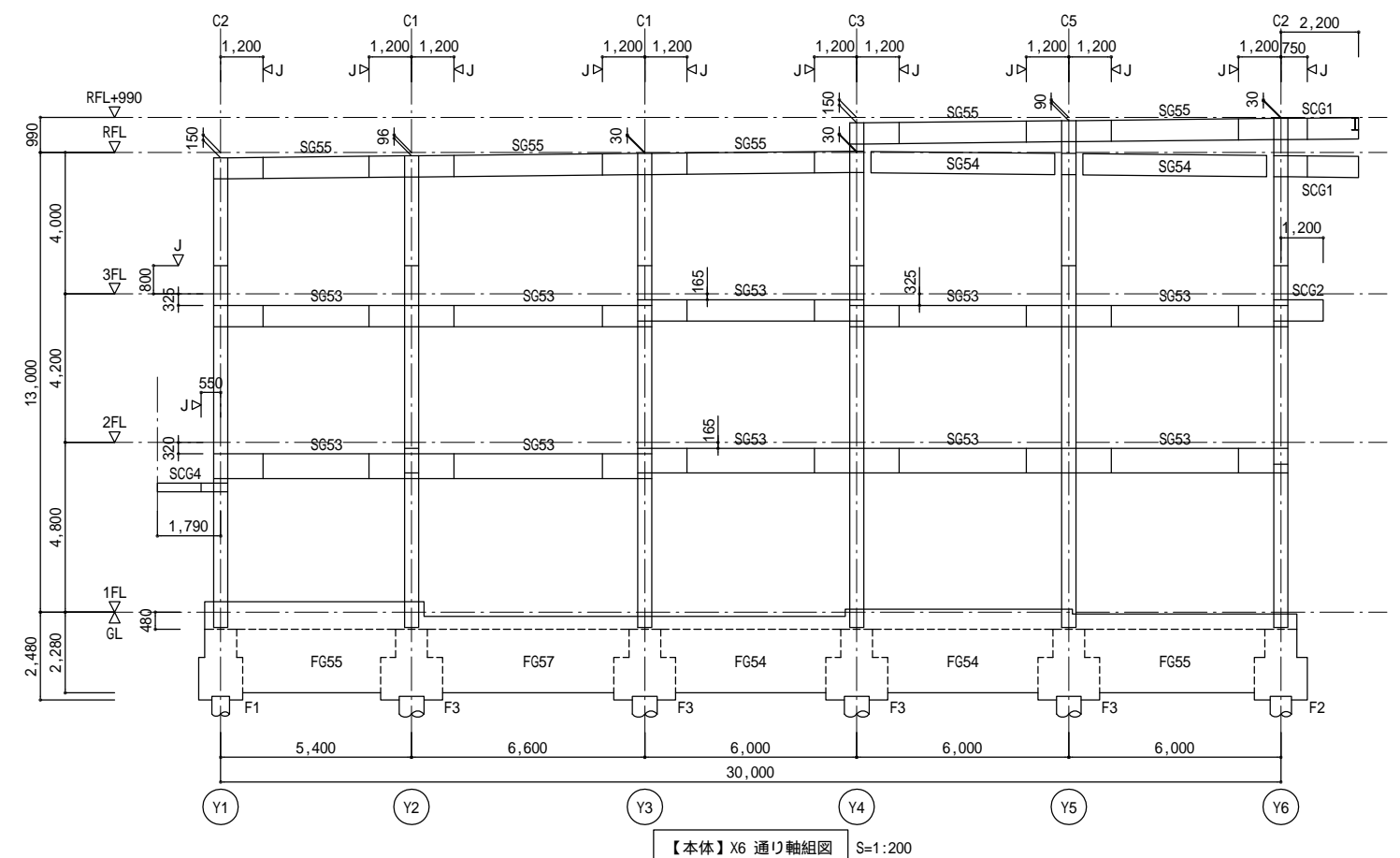
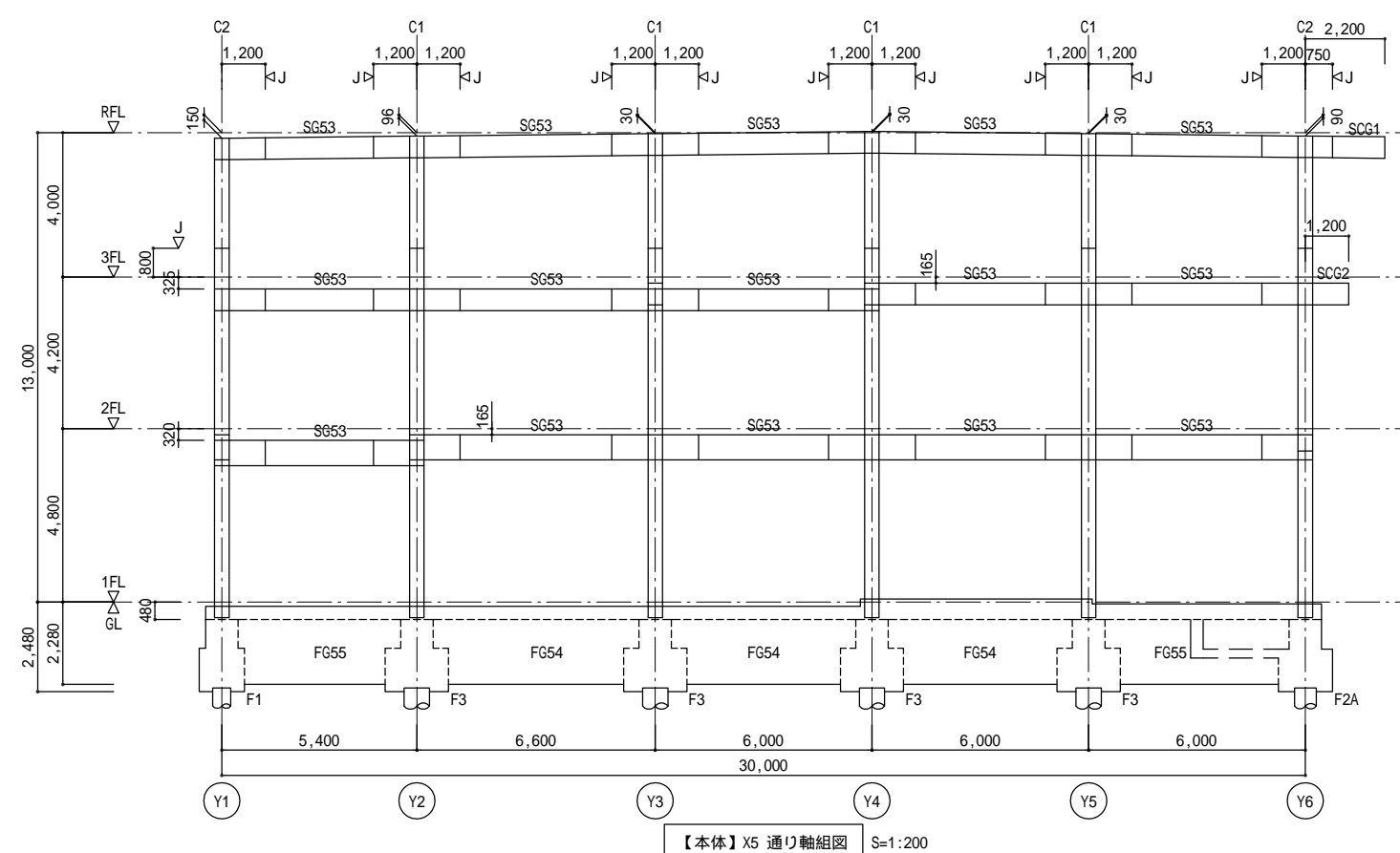
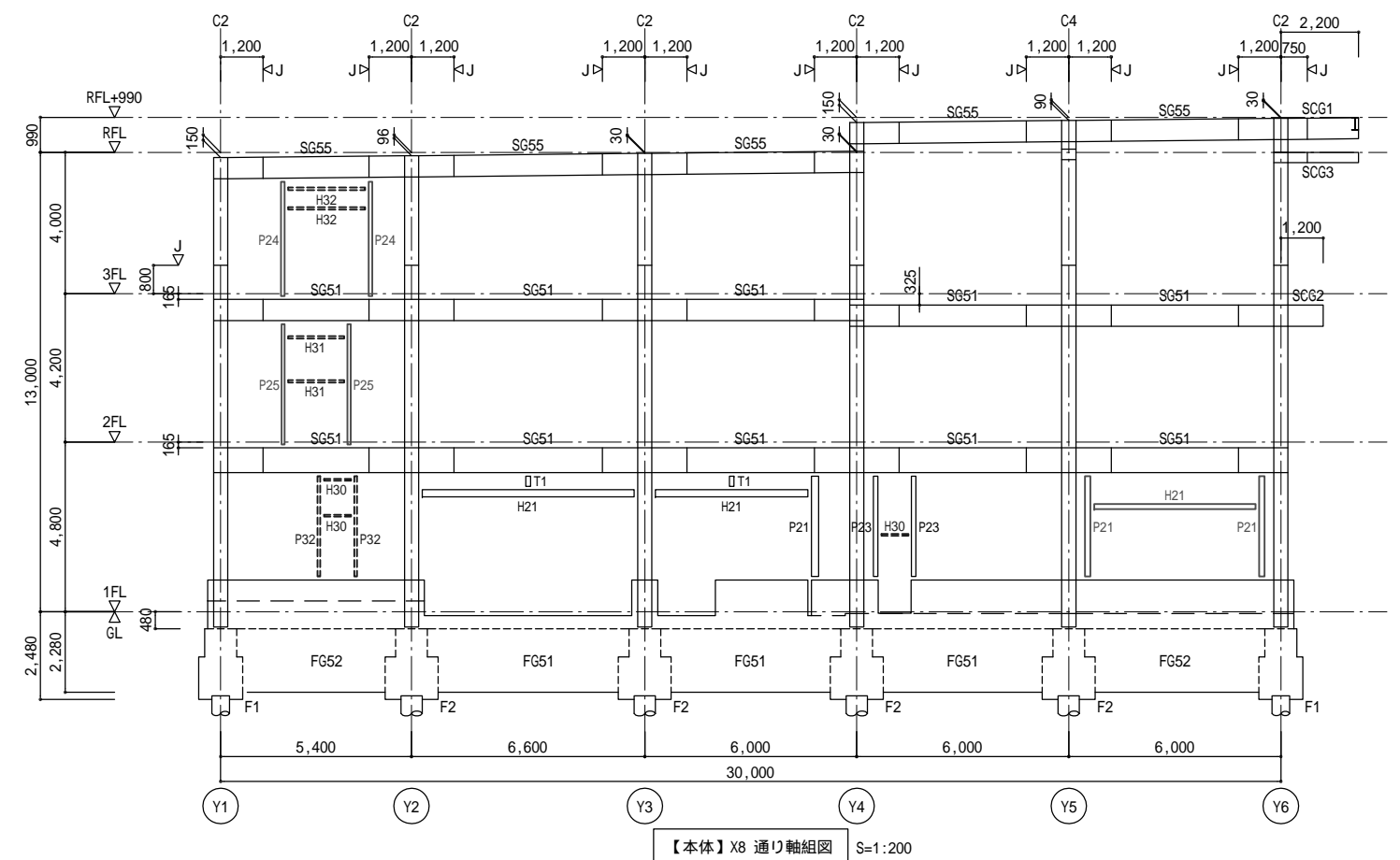
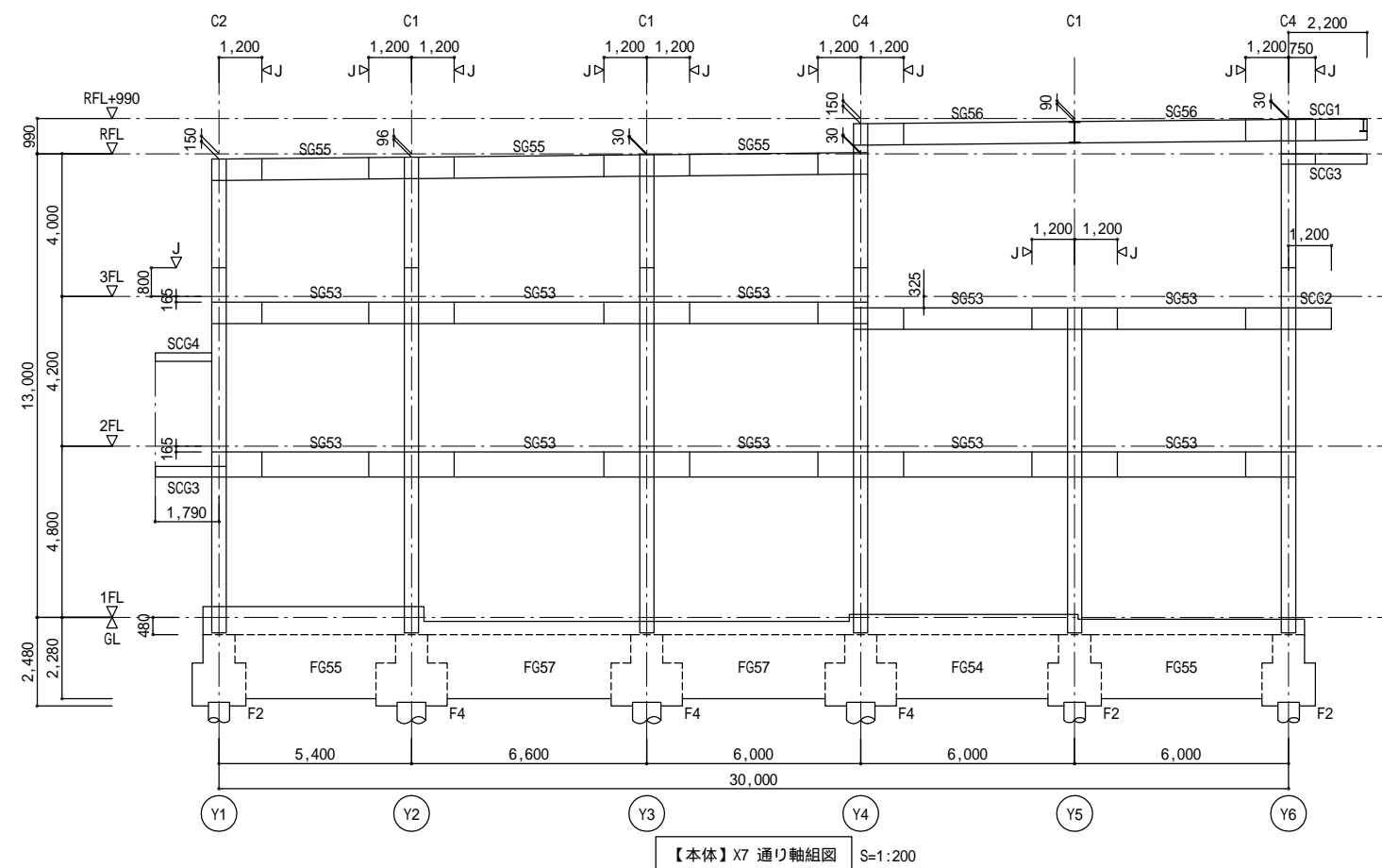
【本体】X4 通り軸組図 S=1:200

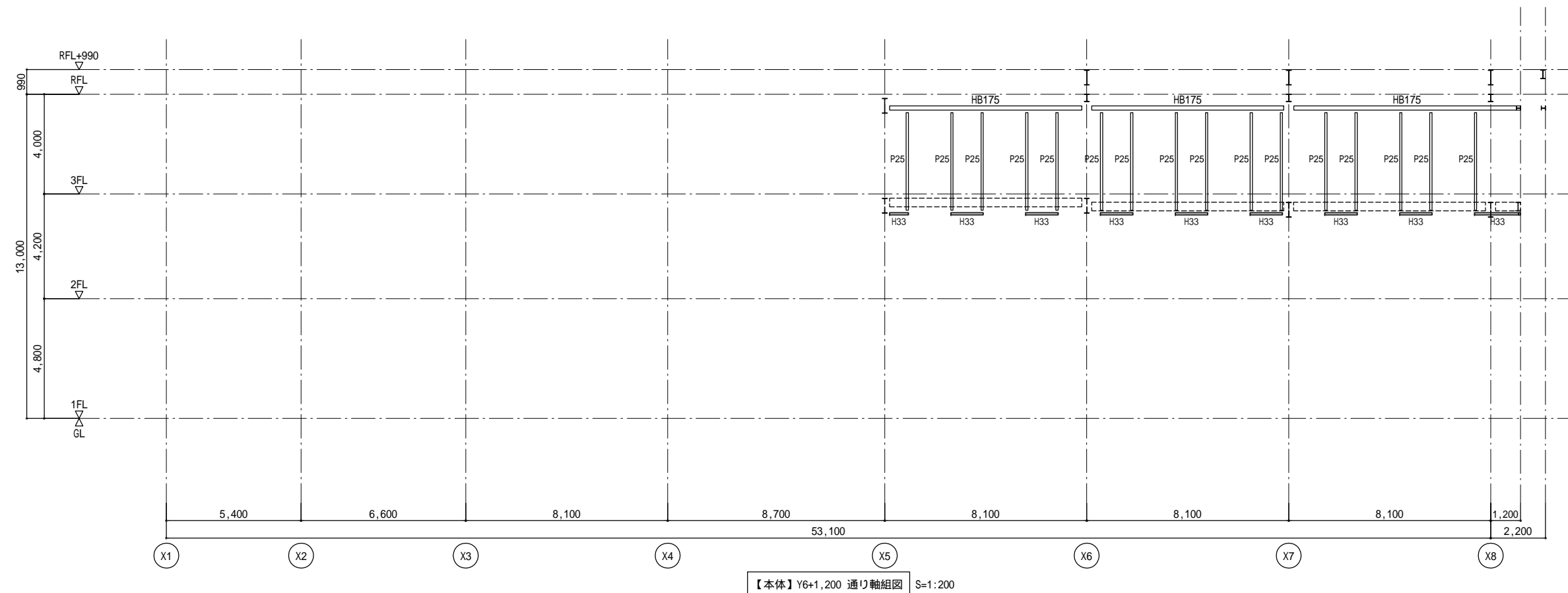
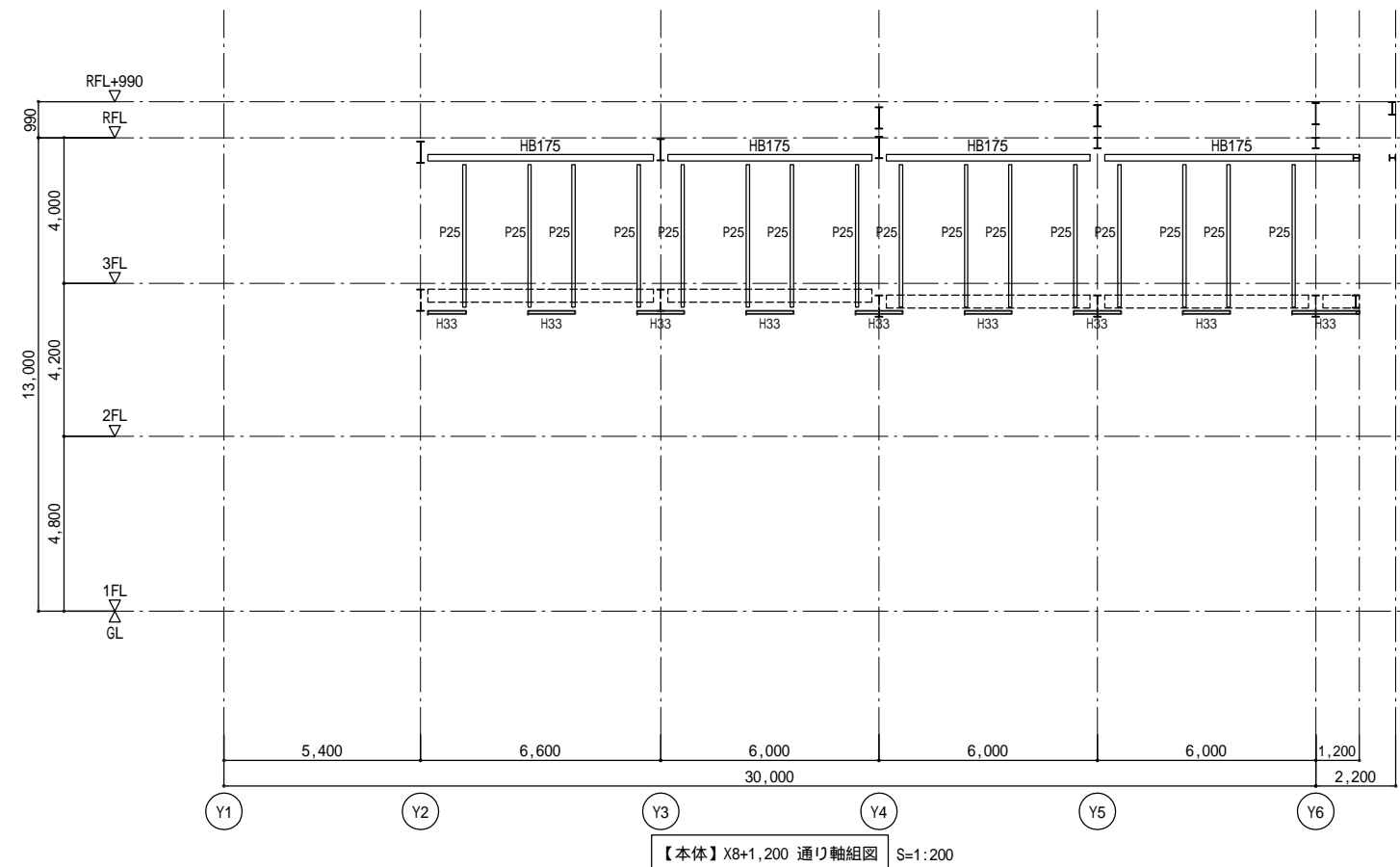


【本体】X1 通り軸組図 S=1:200

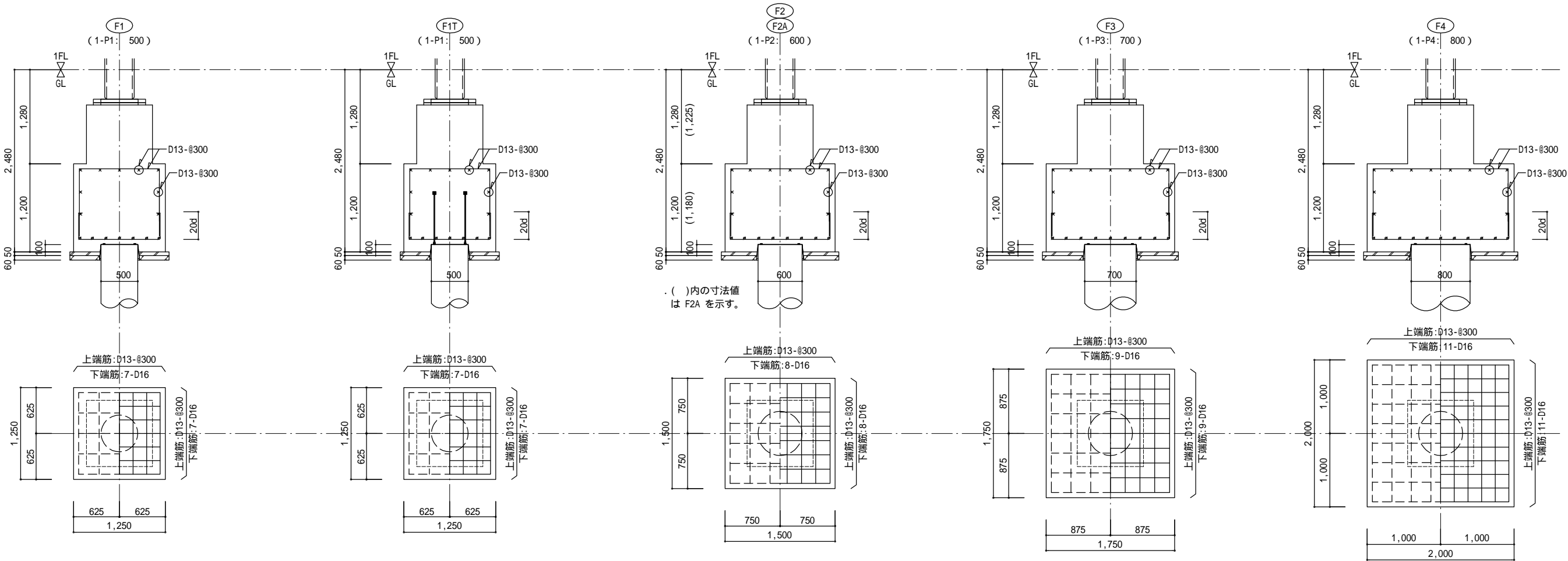


【本体】X2 通り軸組図 S=1:200





基礎フーチング断面図 S=1:60



杭リスト										
杭符号	呼び名	杭 種		Fc (N/mm ²)	長さ (m)	全長 (m)	長期許容支持力 (KN/本)	基礎埋込深さ H (mm)	セット数 (本)	杭頭接合 方法仕様
P1	500650	上杭	HiCPRC- , 500	105	12	40	2,090	100	14	F.T.Pile構法 標準タイプ
		中杭	FK-A種, 500650	85	14					
		下杭	FK-A種, 500650	85	14					
P1T	500650	上杭	HiCPRC- , 500	105	12	40	2,090	100	1	F.T.Pile構法 引抜きタイプ 11-C種,6本,L=800
		中杭	FK-A種, 500650	85	14					
		下杭	FK-A種, 500650	85	14					
P2	600750	上杭	HiPHC-C, 600	105	12	40	2,500	100	13	F.T.Pile構法 標準タイプ
		中杭	FK-A種, 600750	85	14					
		下杭	FK-A種, 600750	85	14					
P3	700900	上杭	HiPHC-C, 700	105	12	40	3,160	100	14	F.T.Pile構法 標準タイプ
		中杭	FK-A種, 700900	85	14					
		下杭	FK-A種, 700900	85	14					
P4	8001000	上杭	HiPHC-C, 800	105	12	40	3,630	100	3	F.T.Pile構法 標準タイプ
		中杭	FK-A種, 8001000	85	14					
		下杭	FK-A種, 8001000	85	14					
								合計	45	

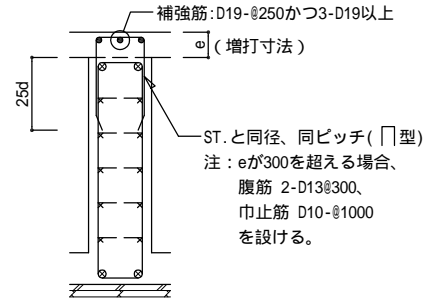
- 特記事項：
- 1 . 杭 仕 様：NEWスーパーFK工法（大臣認定工法）
 - 2 . 杭 継 手：無溶接継手（評定取得工法）、予定採用工法：ベアリングジョイント工法(BCJ評定-FD0393)、トリプルジョイント工法(BCJ評定-FD0183-07)
 - 3 . 杭頭接合：F.T.Pile構法（評定取得工法）

符号	FG1	FG2		FG3		FG4		FG5		FG6		FG7	
位置	全断面	X1端・X4端・中央	X2端・X5端	両端	中央	X1端・中央	X2端	X2端	中央・X3端	X7端	中央・X8端	両端	中央
断面													
B×D	500×1,800	500×1,800		500×1,800		500×1,800		500×1,800		500×1,800		500×1,800	
上端筋	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25
下端筋	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25
St.筋	D13- □@200	D13- □@200		D13- □@200		D13- □@200		D13- □@200		D13- □@200		D13- □@200	
腹筋	8-D13	8-D13		8-D13		8-D13		8-D13		8-D13		8-D13	

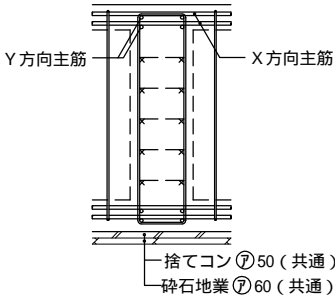
符号	FG51	FG52		FG53		FG54		FG55		FG56		FG57	
位置	全断面	Y1端・Y6端・中央	Y2端・Y5端	Y4端	中央・Y5端	両端	中央	Y1端・Y6端・中央	Y2端・Y5端	Y4端	中央・Y5端	両端	中央
断面													
B×D	500×1,800	500×1,800		500×1,800		500×1,800		500×1,800		500×1,800		500×1,800	
上端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	6-D25	6-D25	5-D25	5-D25	6-D25	6-D25
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25
St.筋	D13- □@200	D13- □@200		D13- □@200		D13- □@200		D13- □@200		D13- □@200		D13- □@200	
腹筋	8-D13	8-D13		8-D13		8-D13		8-D13		8-D13		8-D13	

共通事項 (特記なき限り、下記による)

- 1．スタラップ：D13- □@200
- 2．腹筋：各段2-D13
- 3．幅止筋：D10-@1,000
- 4．鉄筋材料：D10~D16 = SD295
D19~D25 = SD345
- 5．梁上端増打部補強筋要領



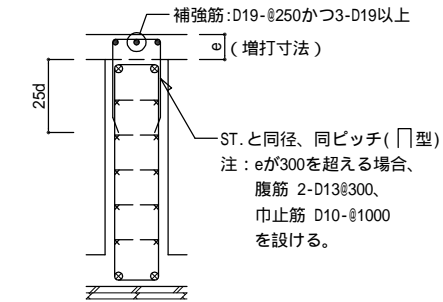
- 6．梁主筋の配筋位置は、下記による。



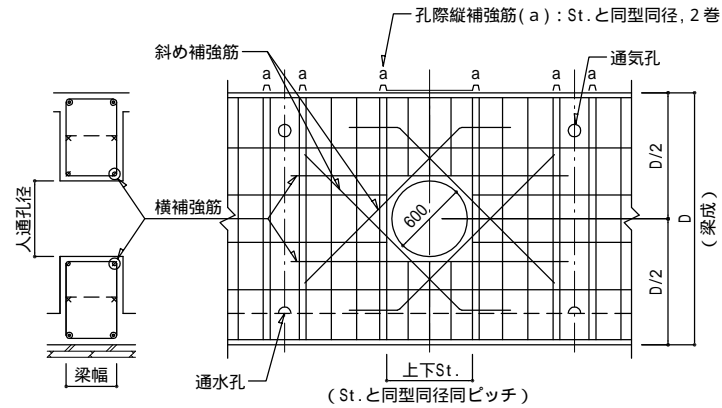
符号	FB1			FB2		FB3		FB4	FB5		FB6	FB7		FB8	FB9
位置	連端	中央	X1,X8端	両端	中央	X7端	中央・X8端	全断面	両端	中央	全断面	X4端・中央	X5端	全断面	全断面
断面															
B × D	350 × 1,800			350 × 800		350 × 1,000		350 × 800	350 × 1,800		250 × 1,800	350 × 1,070		250 × 1,070	250 × 600
上端筋	4-D22	3-D22	3-D22	6-D22	4-D22	7-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	2-D19	4-D22	6-D22	2-D19	2-D19
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	2-D19	4-D22	4-D22	2-D19	2-D19
St.筋	D13- □ @200			D13- □ @200		D13- □ @200		D13- □ @200	D13- □ @200		D13- □ @200	D13- □ @200		D13- □ @200	D13- □ @200
腹筋	8-D13			2-D13		4-D13		2-D13	8-D13		8-D13	4-D13		4-D13	2-D13

共通事項（特記なき限り、下記による）

- ．スタラップ：D13- □@200
- ．腹筋：各段2-D13
- ．幅止筋：D10-@1,000
- ．鉄筋材料：D10-D16 = SD295
D19-D25 = SD345
- ．梁上端増打部補強筋要領



地中梁人通孔補強要領



符 号	貫通孔 (mm)	型式外貫通孔補強鉄筋			
		斜 筋	横 筋	孔際縦筋	上下 St.
FG3	600	4 × 2-D19	2 × 2-D16	2 × 2 × □ -D13	St. と同型同径同ピッチ
FG4	600	4 × 2-D19	2 × 2-D16	2 × 2 × □ -D13	St. と同型同径同ピッチ
FG6	600	4 × 2-D19	2 × 2-D16	2 × 2 × □ -D13	St. と同型同径同ピッチ
FG7	600	4 × 2-D19	2 × 2-D16	2 × 2 × □ -D13	St. と同型同径同ピッチ
FG54	600	4 × 2-D19	2 × 2-D16	2 × 2 × □ -D13	St. と同型同径同ピッチ
FG55	600	4 × 2-D22	2 × 2-D16	2 × 2 × □ -D13	St. と同型同径同ピッチ
FB1	600	4 × 2-D16	2 × 2-D16	2 × 2 × □ -D13	St. と同型同径同ピッチ

補強斜筋・横筋の見方：

（例）4 × 2-D16 梁側面見かけ箇所数 × 梁側面奥行き配筋本数-鉄筋呼び名
梁側面見かけ箇所数が8本の場合は、孔際の1ヶ所当たり2本並びとする。

提出・訂正

—	—
—	—
—	—

件名

健診施設等建設事業 建築工事

図面内容

地中小梁断面リスト

縮尺

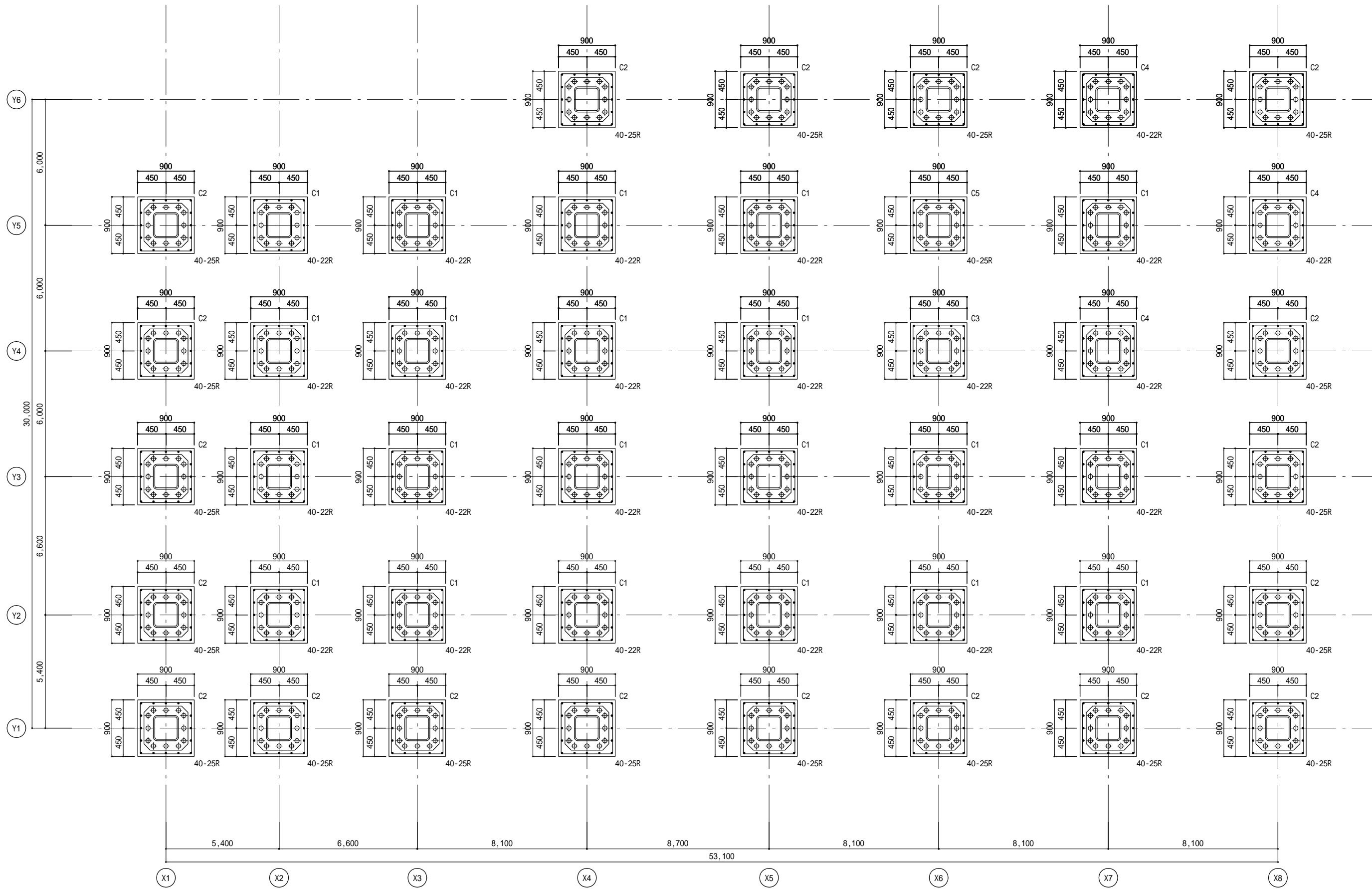
1/60,1/180 (A3版)

図面番号

S-36






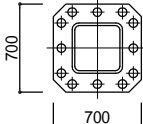
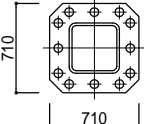
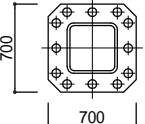
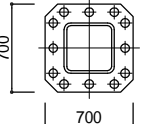
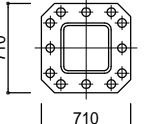
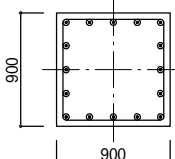
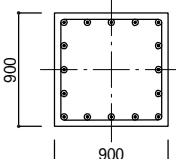
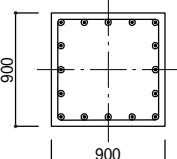
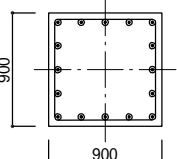
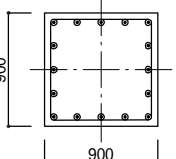
区分

建築構造図



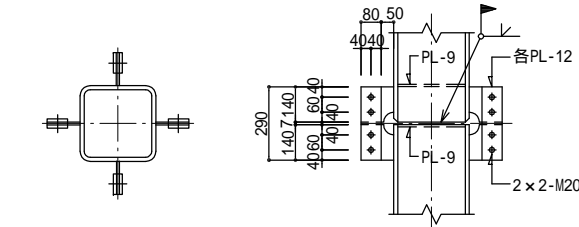
柱芯線図 S=1:60, 1:180

鉄骨柱リスト

符 号		C1	C2	C3	C4	C5
断面	断面					
	細長比	x=33.4, y=33.4	x=34.6 ~ 38.1, y=34.6 ~ 38.1	—	—	—
3階	断面	-400 x 400 x 19	-400 x 400 x 19	-400 x 400 x 19	-400 x 400 x 22	-400 x 400 x 25
	細長比	x=32.0 ~ 34.8, y=32.5 ~ 37.4	x=35.4 ~ 61.6, y=34.0 ~ 58.0	x=47.0, y=45.7	x=52.9, y=47.4	x=50.6, y=52.8
2階	断面	-400 x 400 x 19	-400 x 400 x 22	-400 x 400 x 22	-400 x 400 x 22	-400 x 400 x 25
	細長比	x=32.4 ~ 36.3, y=31.7 ~ 38.7	x=36.4 ~ 47.0, y=35.7 ~ 43.4	x=35.3, y=34.2	x=35.5, y=34.4	x=36.6, y=35.3
1階	断面	-400 x 400 x 22	-400 x 400 x 25	-400 x 400 x 22	-400 x 400 x 22	-400 x 400 x 25
	細長比	x=33.5 ~ 35.0, y=33.8 ~ 36.1	x=35.4 ~ 40.4, y=35.1 ~ 38.5	x=34.3, y=34.0	x=34.3, y=34.0	x=35.0, y=34.6
柱脚ベースプレート	製品番号	ベースバック 40-22R	ベースバック 40-25R	ベースバック 40-22R	ベースバック 40-22R	ベースバック 40-25R
	断面					
	B.PL.	700 x 700 x 48(SN490B)	710 x 710 x 48(SN490B)	700 x 700 x 48(SN490B)	700 x 700 x 48(SN490B)	710 x 710 x 48(SN490B)
	A.Bolt	12-D38(SD490)	12-D41(SD490)	12-D38(SD490)	12-D38(SD490)	12-D41(SD490)
柱脚基礎柱	断面					
	Dx x Dy	900 x 900	900 x 900	900 x 900	900 x 900	900 x 900
	主 筋	16-D25	16-D25	16-D25	16-D25	16-D25
	HOOP	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100	D13-□@100

共通事項：（特記なき限り、下記による）

- 鉄骨柱鋼材材質：角形鋼管 = BCR295
- ダイヤフラムの厚さは取り付く梁のフランジ板厚の2サイズアップ以上とし、材質はSN490Cとする。
- 柱継手要領（柱継手の現場溶接が完了後、エレクションピースを切り落とす。）



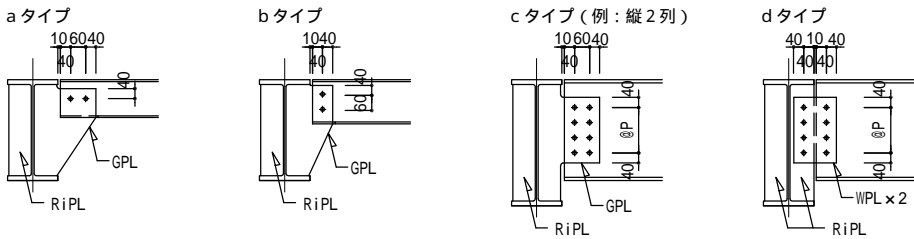
4．基礎柱鉄筋：D10-D16 = SD295
D19-D25 = SD345

鉄骨小梁リスト

符 号	部 材		材 質	継 手
SB20	全断面	H-200×100×5.5×8	SN400A	GPL-9,2-M20 (<i> bタイプ</i> 、P=60)
SB30	全断面	H-300×150×6.5×9	SN400A	連端：GPL-9,3-M20 (<i> cタイプ</i> 、P=70) 終端：GPL-9,3-M20 (<i> cタイプ</i> 、P=70)
SB35	全断面	H-350×175×7×11	SN400A	連端：GPL-9,4-M20 (<i> cタイプ</i> 、P=70) 終端：GPL-9,3×2-M20 (<i> cタイプ</i> 、P=90)
SB40	全断面	H-400×200×8×13	SN400A	GPL-9,4-M20 (<i> cタイプ</i> 、P=80)
SB45	全断面	H-450×200×9×14	SN400A	GPL-9,5-M20 (<i> cタイプ</i> 、P=60)
SB194	全断面	H-194×150×6×9	SN400A	GPL-9,2-M20 (<i> bタイプ</i> 、P=60)

共通事項：（特記なき限り、下記による）

- 1．使用鋼材：
- 無 印 SN400A（規格品）
○ 印 SN490A（規格品）
- 3．スタッドボルトについては、特記なき限り「頭付スタッドボルト配置要領」による。
ただし、SB20小梁、およびコンクリートスラブに取合わない部分には、スタッドボルトが不要とする。
- 4．使用HTB.は、S10T または F10T とする。
但し、メッキ部材については溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T（大臣認定品）とする。
- 5．GPL,SPLは母材と同材質とする。
- 6．JIS規格サイズ以外のH形鋼は、外法一定H型钢を採用する。
- 7．外部鉄骨は溶融亜鉛めっきとする。
- 8．小梁ピン接合継手タイプ



鉄骨その他部材リスト

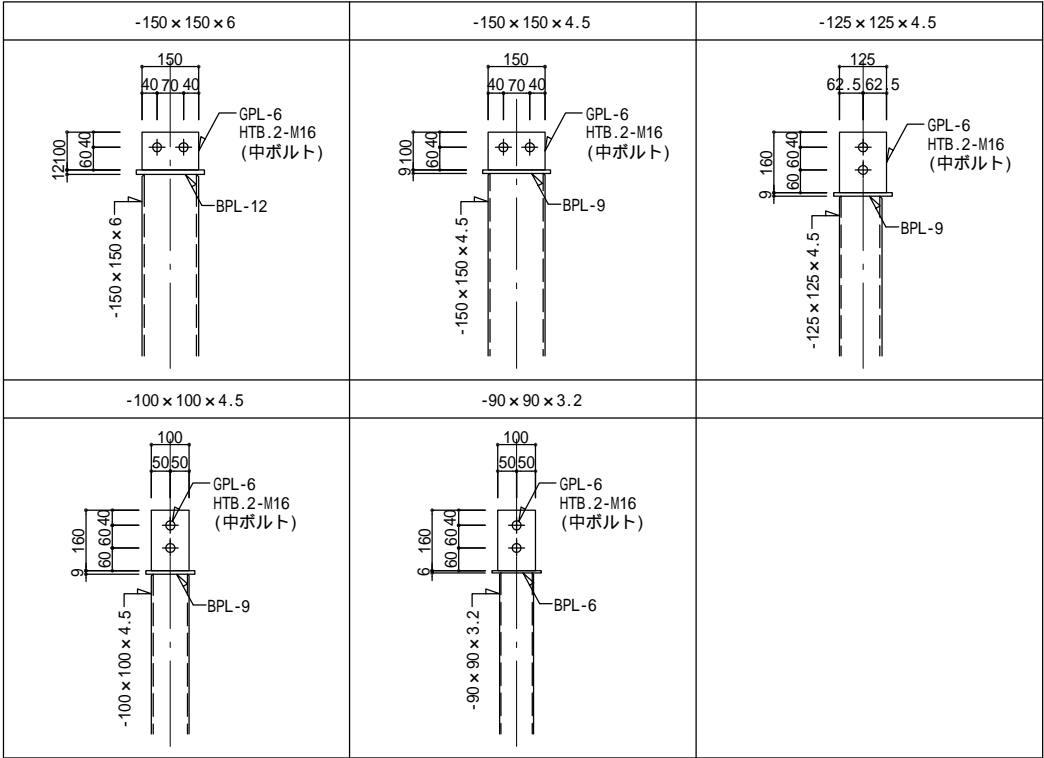
符 号	部 材	備 考
SCG1	元端：-600×200×11×17 先端： H -600×200×11×17	継手：「剛接合継手」による。
SCG2	元端：-600×200×11×17 先端： H -600×200×11×17	継手：「剛接合継手」による。
SCG3	元端：-294×200×8×12 先端： H -294×200×8×12	継手：「剛接合継手」による。
SCG4	元端：-244×175×7×11 先端： H -244×175×7×11	継手：「剛接合継手」による。
SCB1	H-244×175×7×11	接合：間柱と剛接合
SCB2	H-194×150×6×9	接合：片持梁と剛接合
HB175	H-175×175×7.5×11	GPL-9 HTB.2×2-M20(P=60)
P1	H-175×175×7.5×11	GPL-9 HTB.2×2-M20(P=60)
P2	H-150×150×7×10	GPL-9 HTB.2×1-M20(P=60)
P21	-150×150×6 (STKR400)	端部接合：詳細図による
P22	-150×150×4.5 (STKR400)	端部接合：詳細図による
P23	-125×125×4.5 (STKR400)	端部接合：詳細図による
P24	-100×100×4.5 (STKR400)	端部接合：詳細図による
P25	-90×90×3.2 (STKR400)	端部接合：詳細図による
P31	L -65×65×6 (SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60) 、外壁工事
P32	L -75×75×6 (SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60) 、外壁工事
P33	L -75×75×9 (SS400)	GPL-9 HTB.2-M16(P=60) 、外壁工事
H1	H-244×175×7×11	GPL-9 HTB.2-M20(P=90)
H21	-150×150×6 (STKR400)	端部接合：詳細図による
H22	-150×150×4.5 (STKR400)	端部接合：詳細図による
H23	-125×125×4.5 (STKR400)	端部接合：詳細図による
H24	-100×100×4.5 (STKR400)	端部接合：詳細図による
H30	L -50×50×6 (SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60) 、外壁工事
H31	L -65×65×6 (SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60) 、外壁工事
H32	L -75×75×6 (SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60) 、外壁工事
H33	-90×90×3.2 (STKR400)	端部接合：詳細図による
T1	L -65×65×6 (SS400)	GPL-6 HTB.2-M20(P=60)

共通事項：（特記なき限り、下記による）

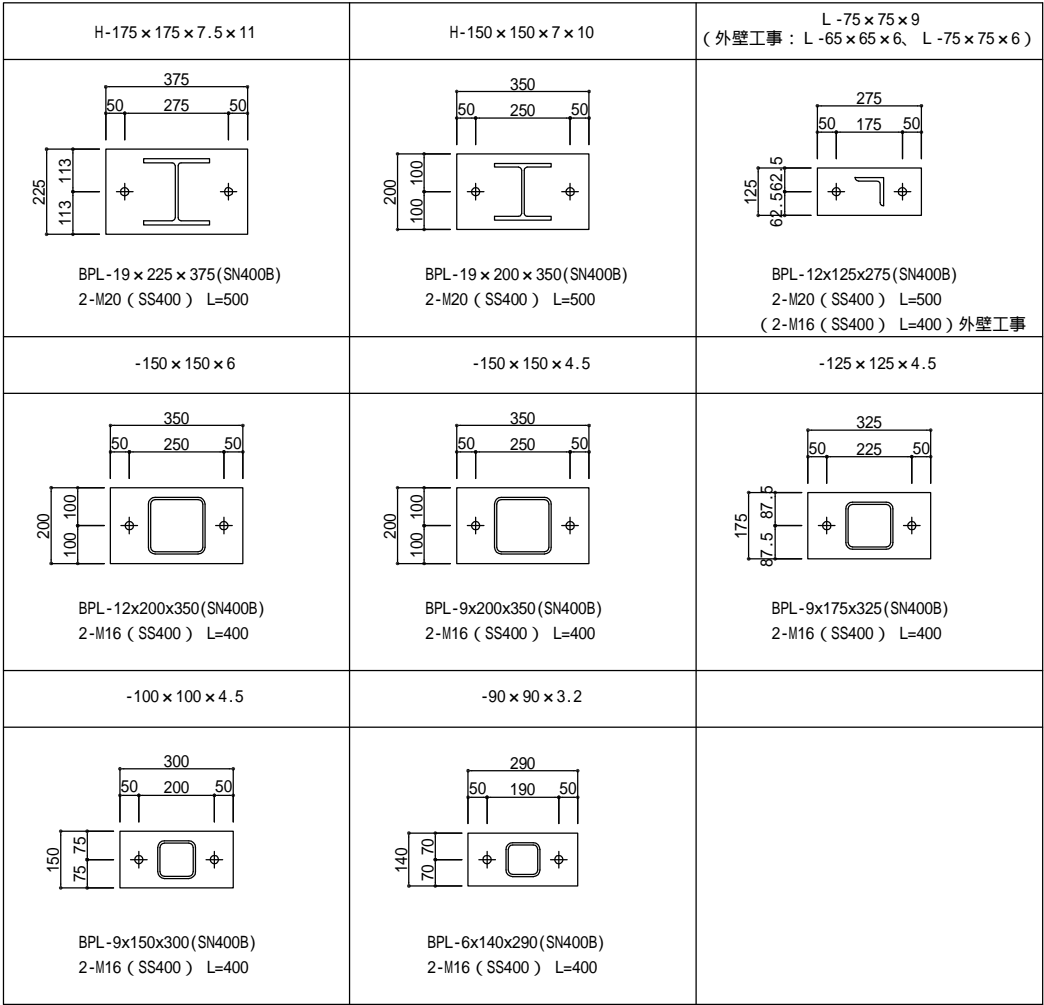
- 1．使用鋼材：
- 無 印 SN400A（規格品）
 印 SN400B（規格品）
○ 印 SN490A（規格品）
- ．その他の特記は、鉄骨小梁の表記による。

端部接合部 S=1:20

特記：取合いプレート類の材質は、SN400Bとする。



間柱脚部接合武 S=1:20



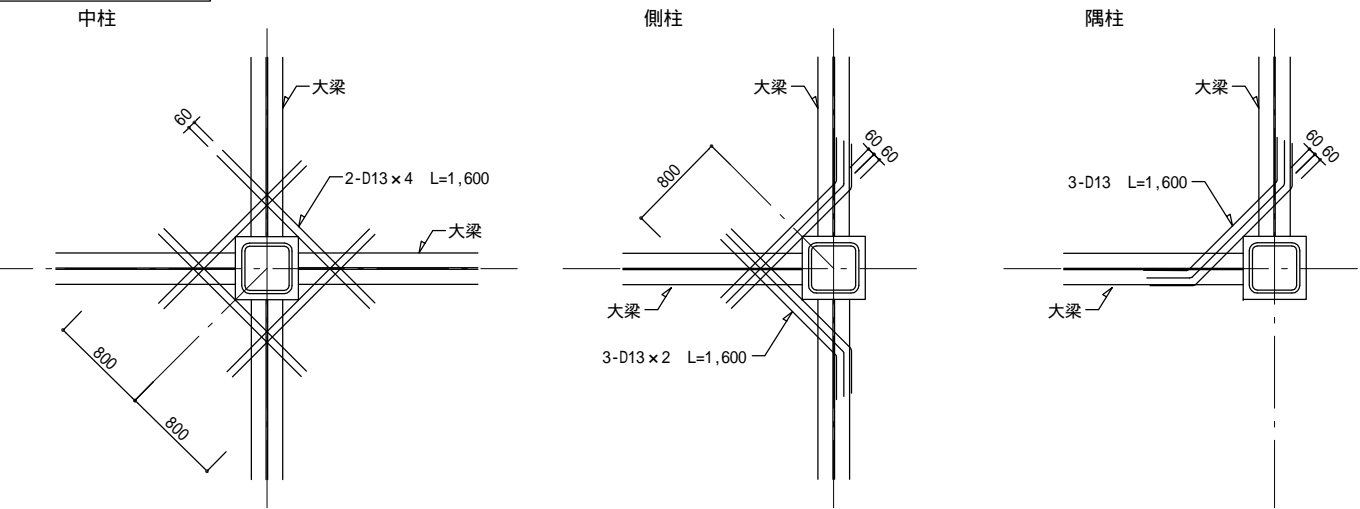
床版スラブリスト

符 号	厚 さ	位 置	短辺方向（主力筋）		長辺方向（配力筋）		備 考
			端 部	中央部	端 部	中央部	
S1	150	上端筋	D10,D13-@200	←	D10-@200	←	屋根床スラブ （フラットデッキ t=1.0使用）
		下端筋	D10-@200	←	D10-@200	←	
S2	150	上端筋	D10,D13-@150	←	D10-@150	←	機械置場屋根床スラブ （フラットデッキ t=1.0使用）
		下端筋	D10-@150	←	D10-@150	←	
S3	150	上端筋	D10,D13-@200	←	D10-@200	←	2 階・3 階床スラブ （フラットデッキ t=1.0使用）
		下端筋	D10-@200	←	D10-@200	←	
S4	180	上端筋	D10,D13-@200	←	D10-@200	←	1 階床スラブ
		下端筋	D10-@200	←	D10-@200	←	
S5	150	上端筋	D10,D13-@200	←	D10-@200	←	1 階床スラブ （駐車・車路・機械室等）
		下端筋	D10-@200	←	D10-@200	←	
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
FS1	200	上端筋	D10,D13-@200	←	D10-@200	←	ビット底板スラブ （配管ビット、消火水槽ビット）
		下端筋	D10,D13-@200	←	D10-@200	←	
FS2	250	上端筋	D13-@200	←	D10-@200	←	ビット底板スラブ （E Vビット）
		下端筋	D13-@200	←	D10-@200	←	
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					

スラブひび割れ防止要領図

S=1:60

柱廻り 補強要領図



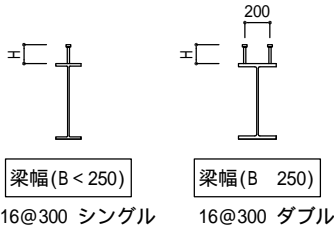
特記：柱廻りスラブ補強筋は、スラブ上端筋の下に配筋すること。
柱脚 1 階スラブの補強筋は、図示に倣う。

頭付スタットボルト配置要領

S=1:60

鉄筋コンクリートスラブに取り合う鉄骨梁にスタットボルト：

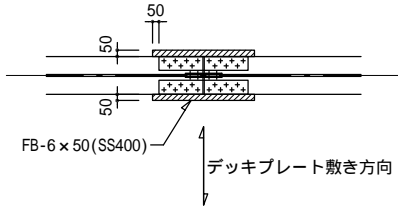
スラブ厚 t 200 H=150
150 < t < 200 H=120
100 < t 150 H=100
t 100 スタッドボルト不要



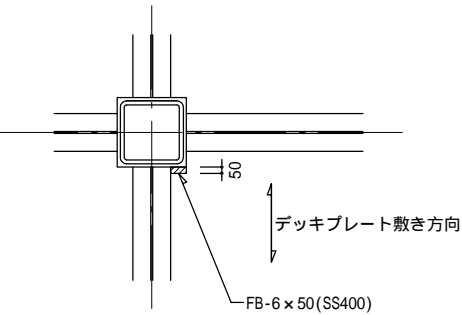
デッキ受け要領

S=1:60

継手部

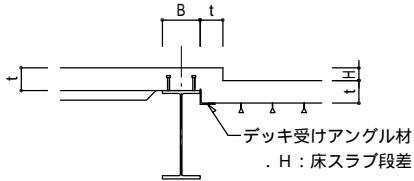


柱仕口部



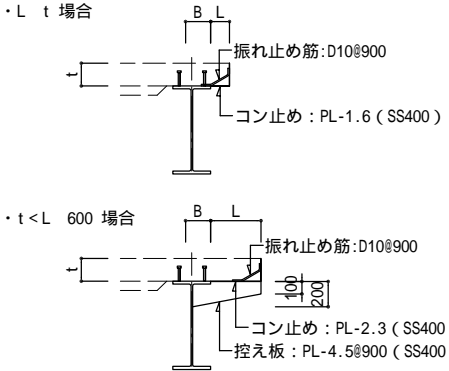
床段差取り合い要領図

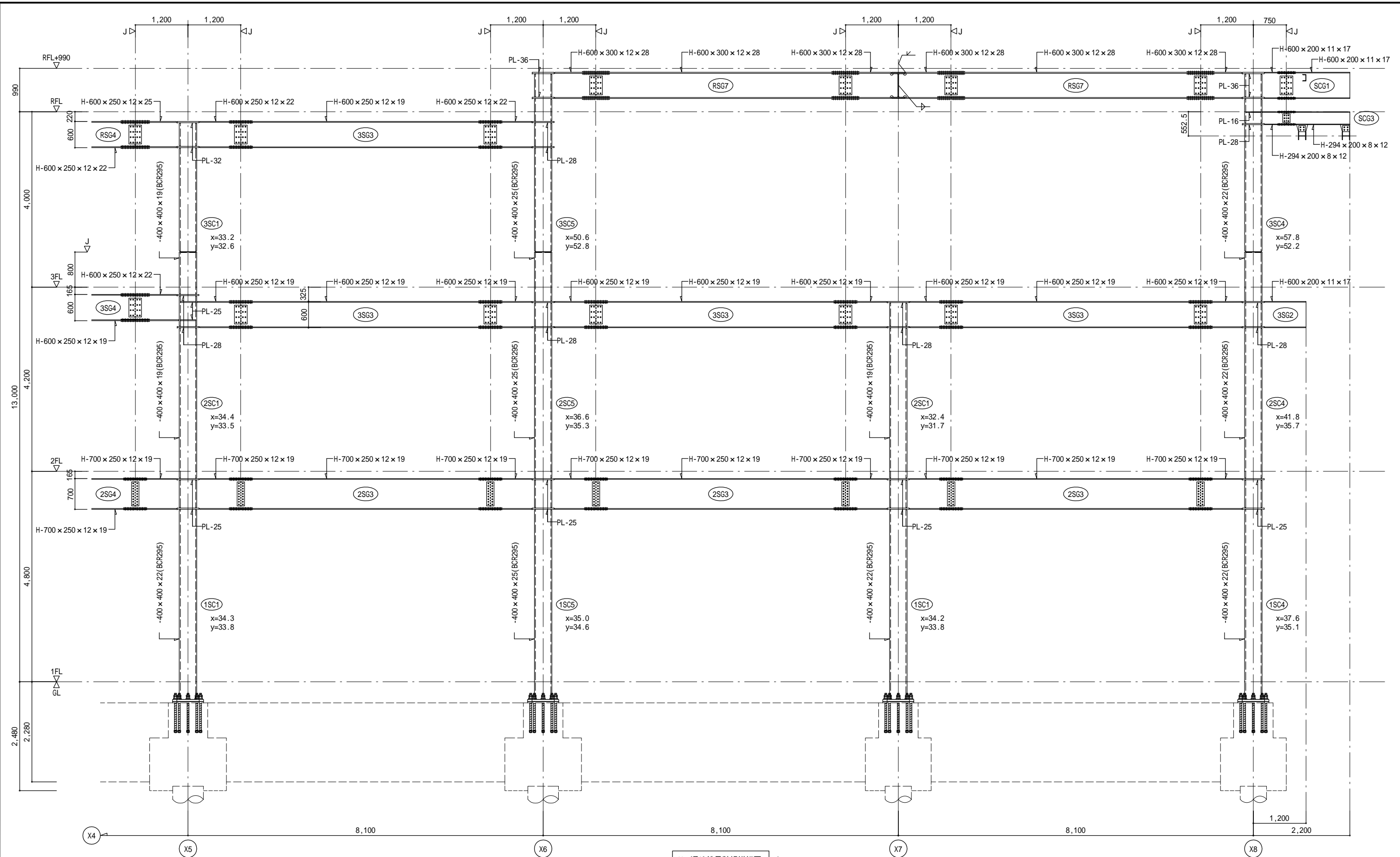
S=1:60



コンクリート止め

S=1:60

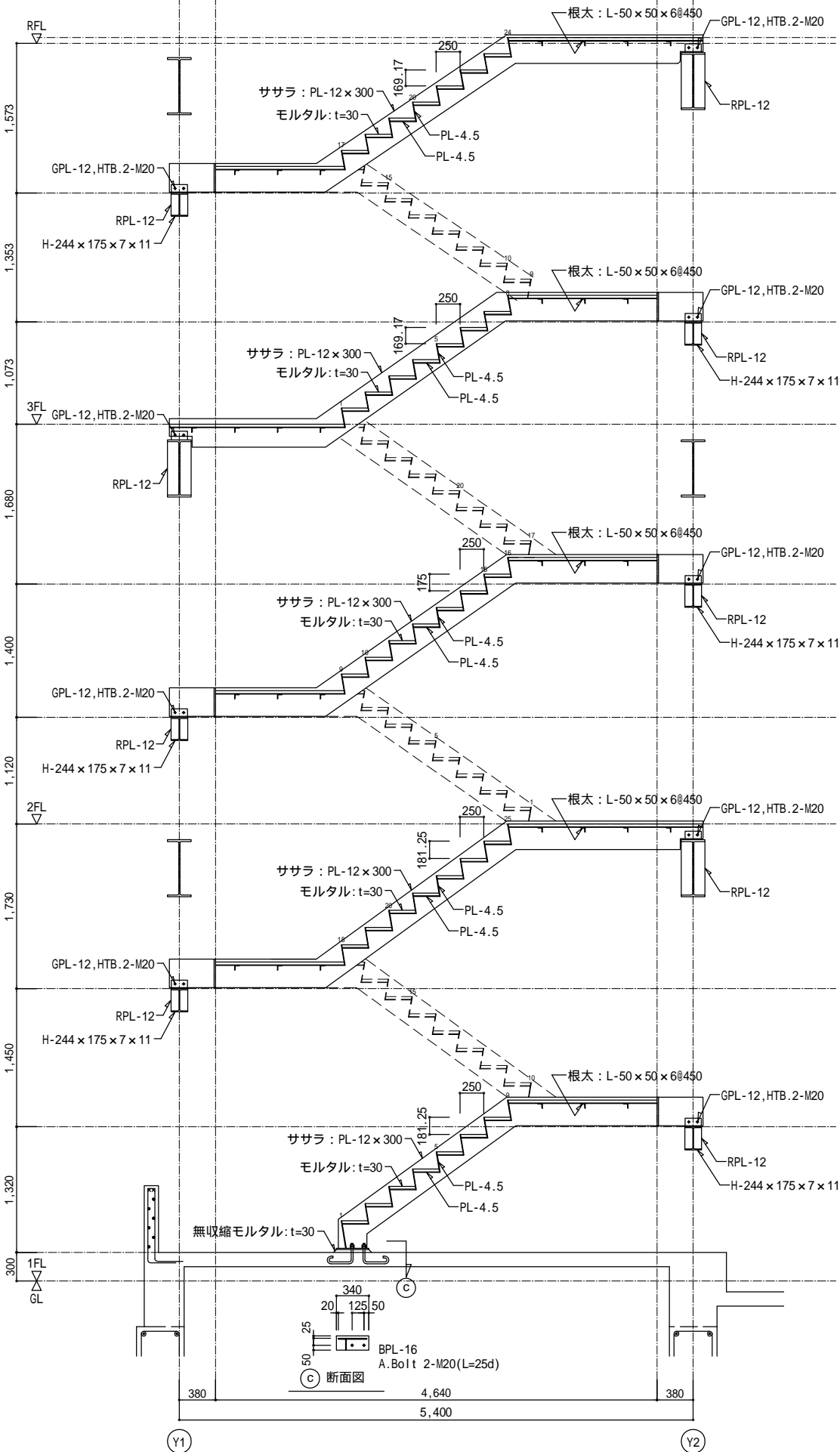
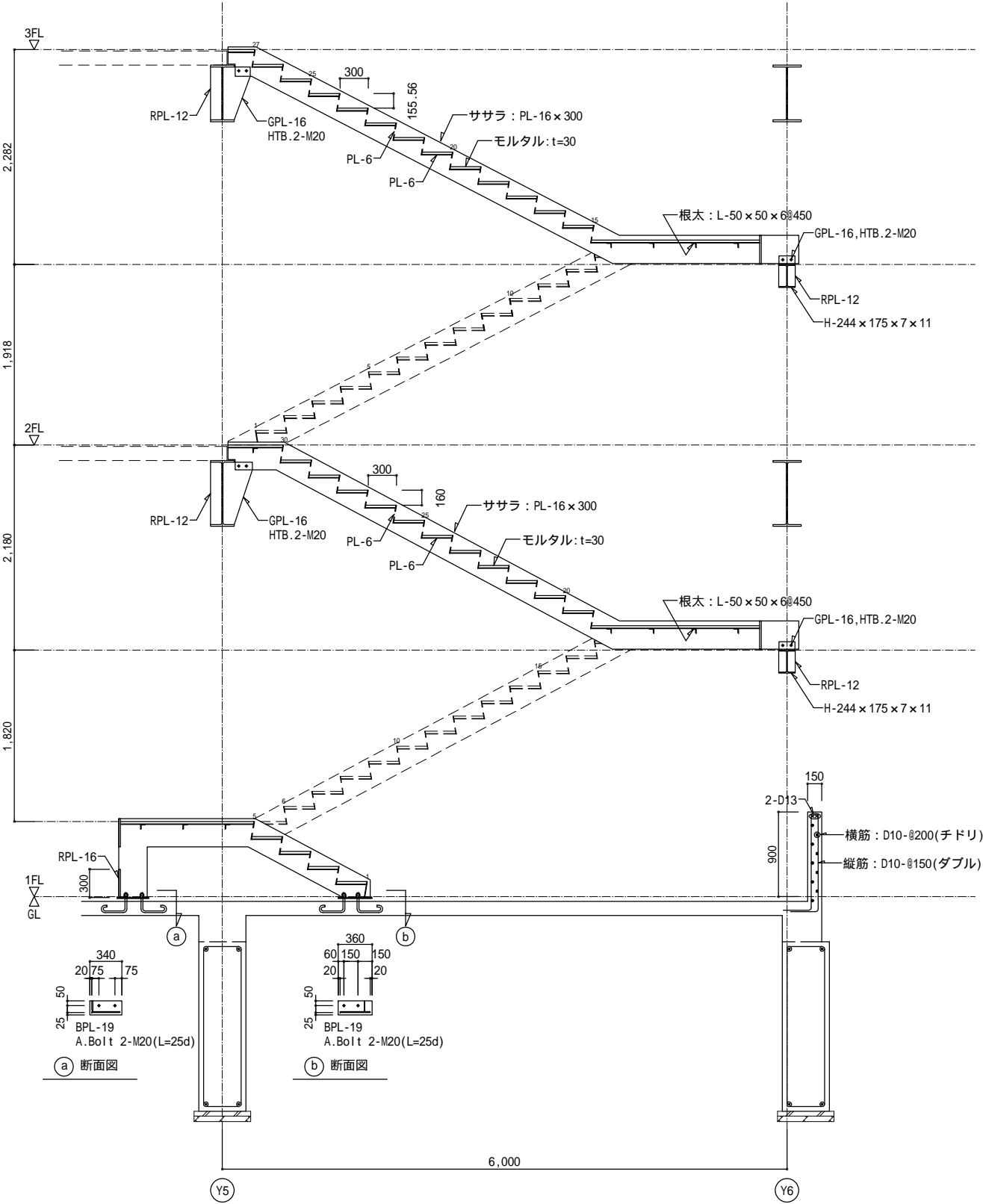


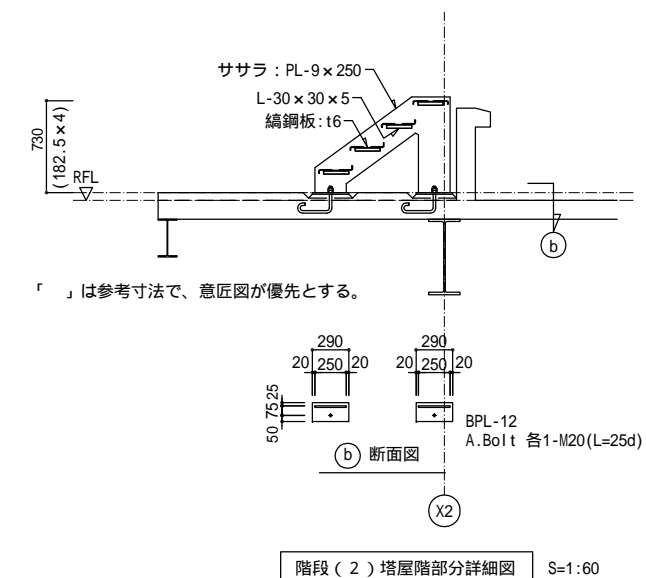
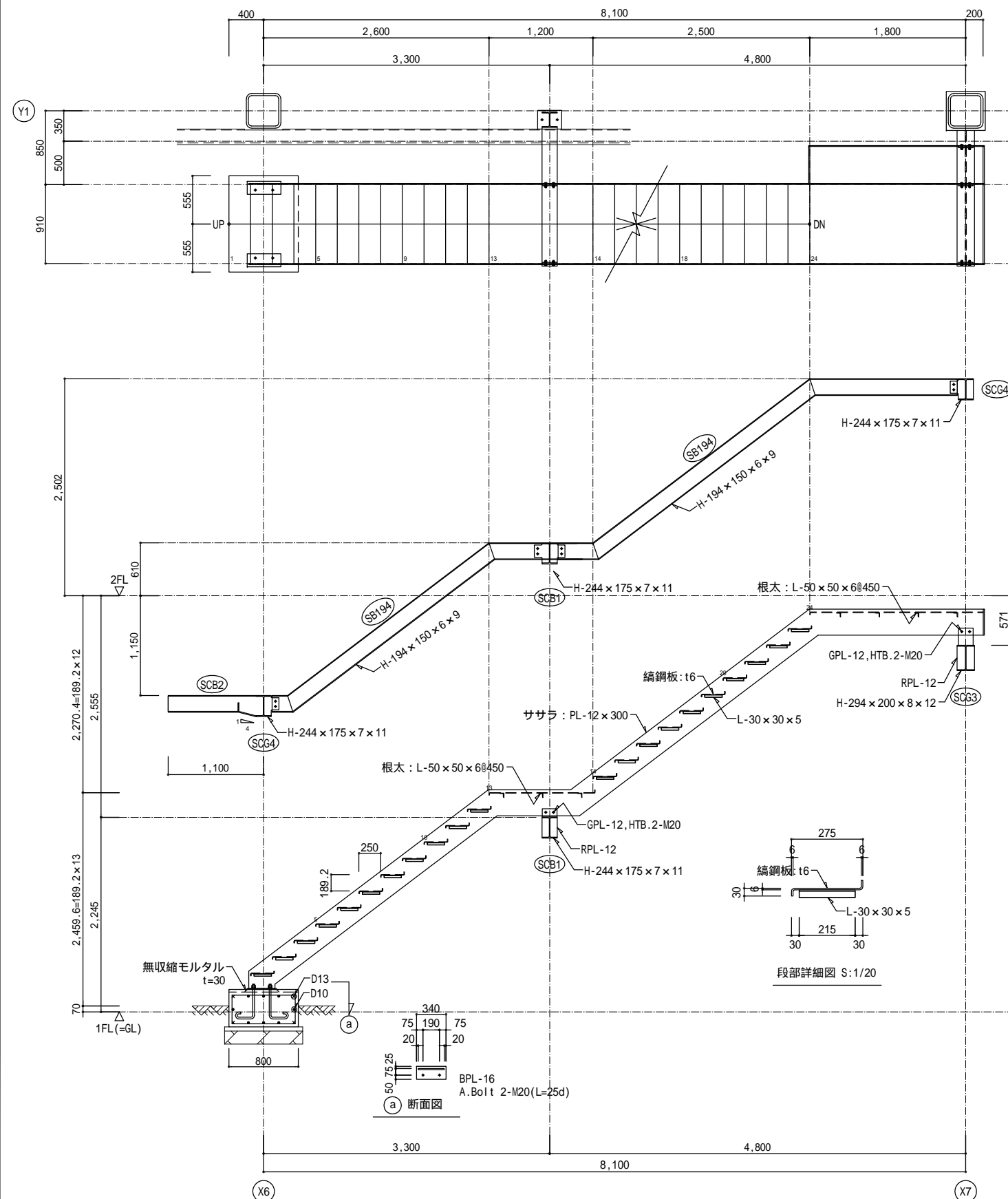


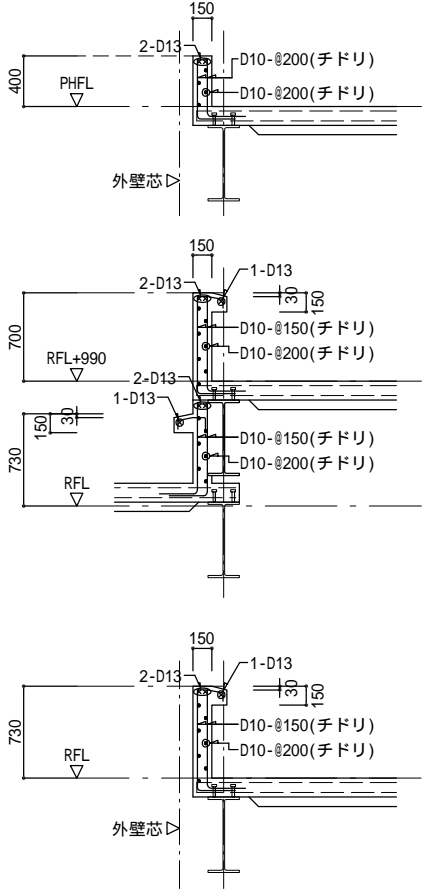
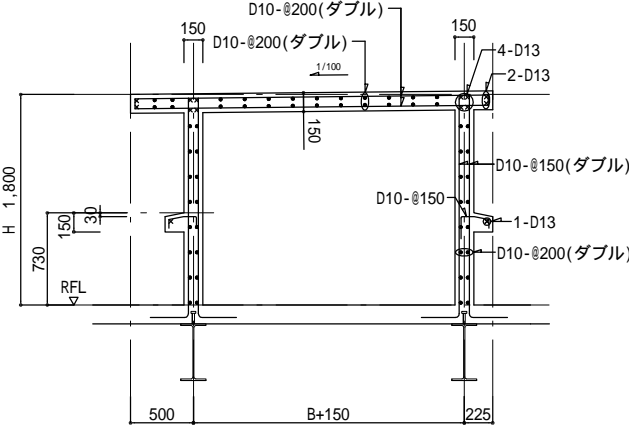
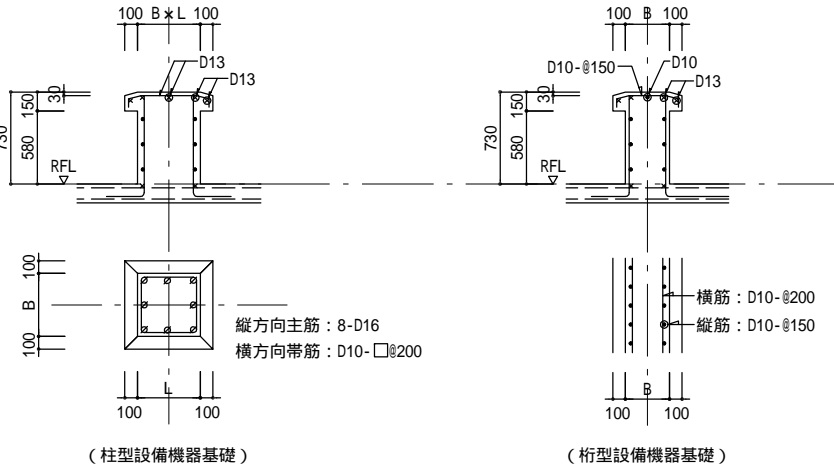
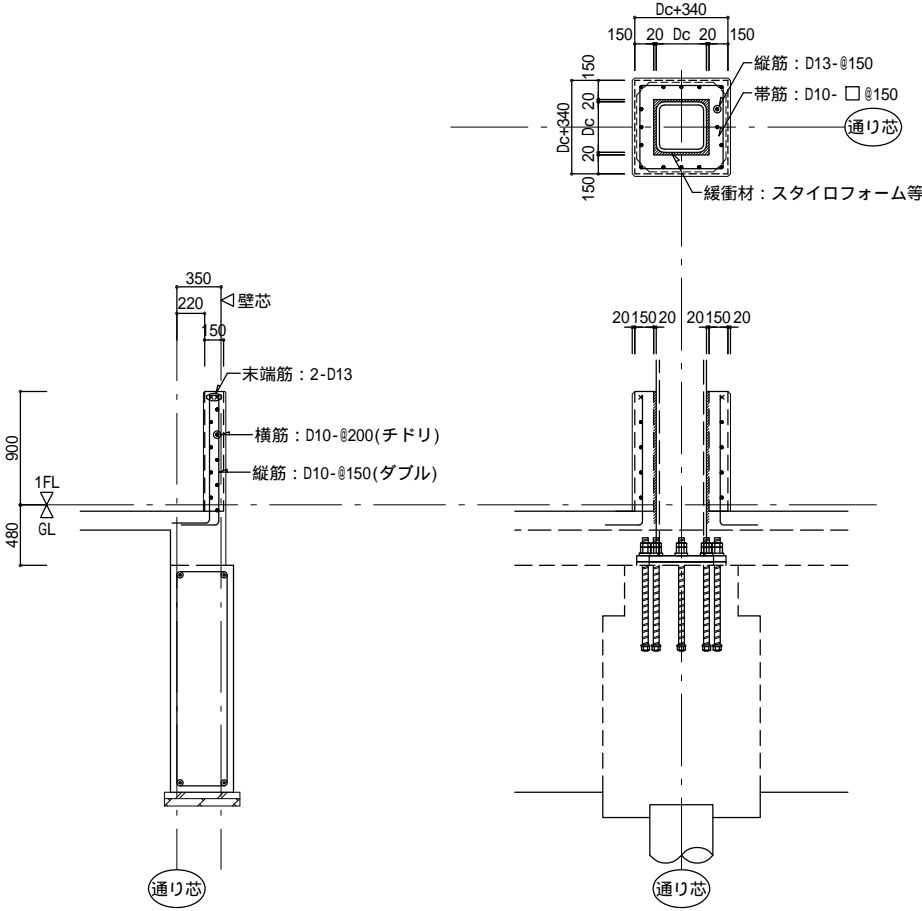
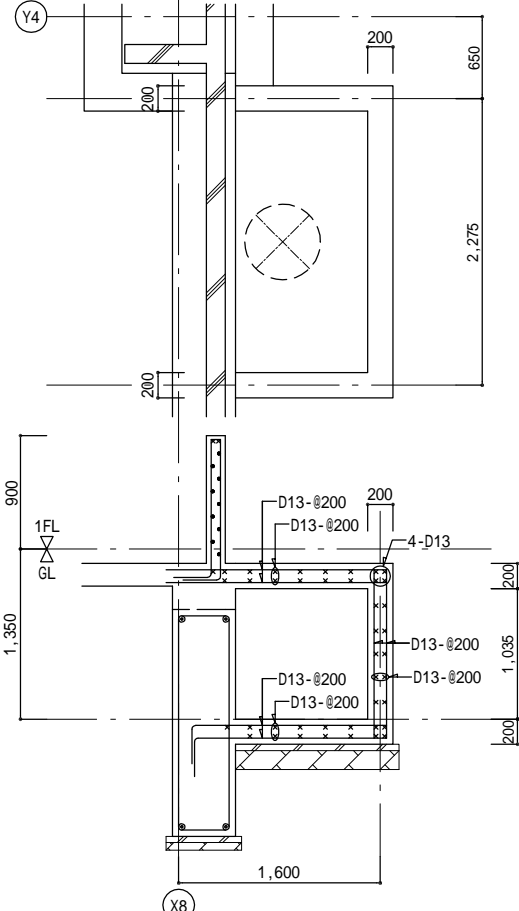
Y5 通り鉄骨軸組詳細図 S=1:80

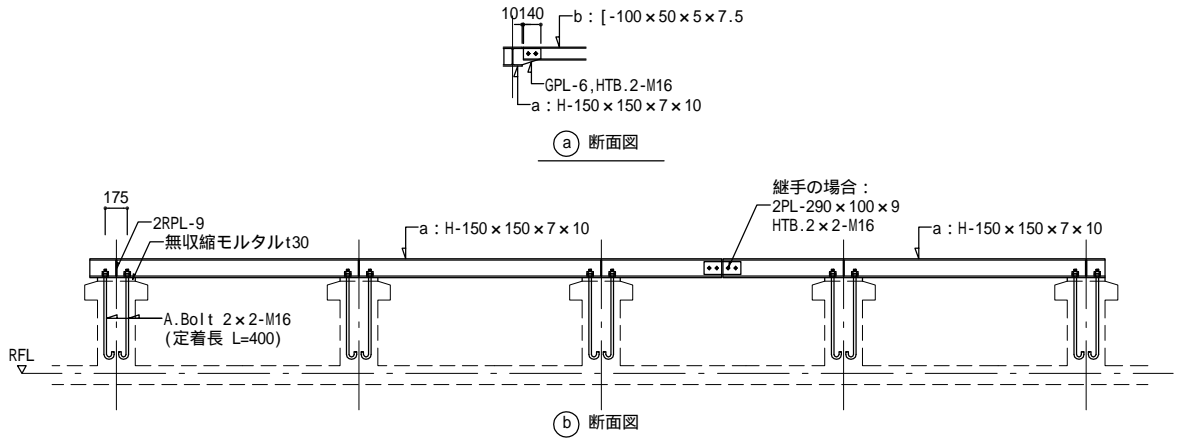
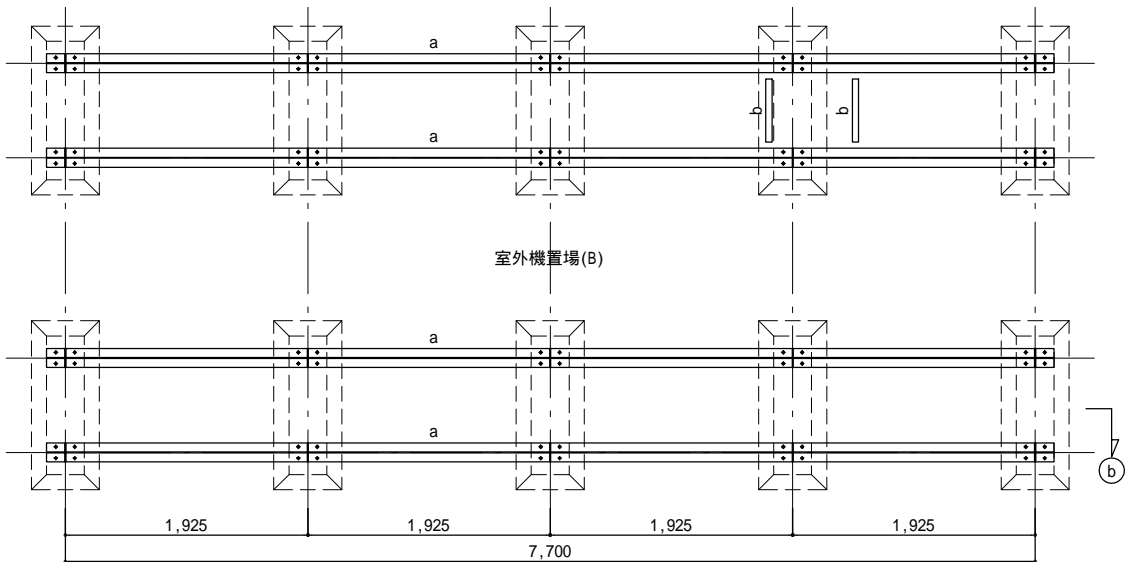
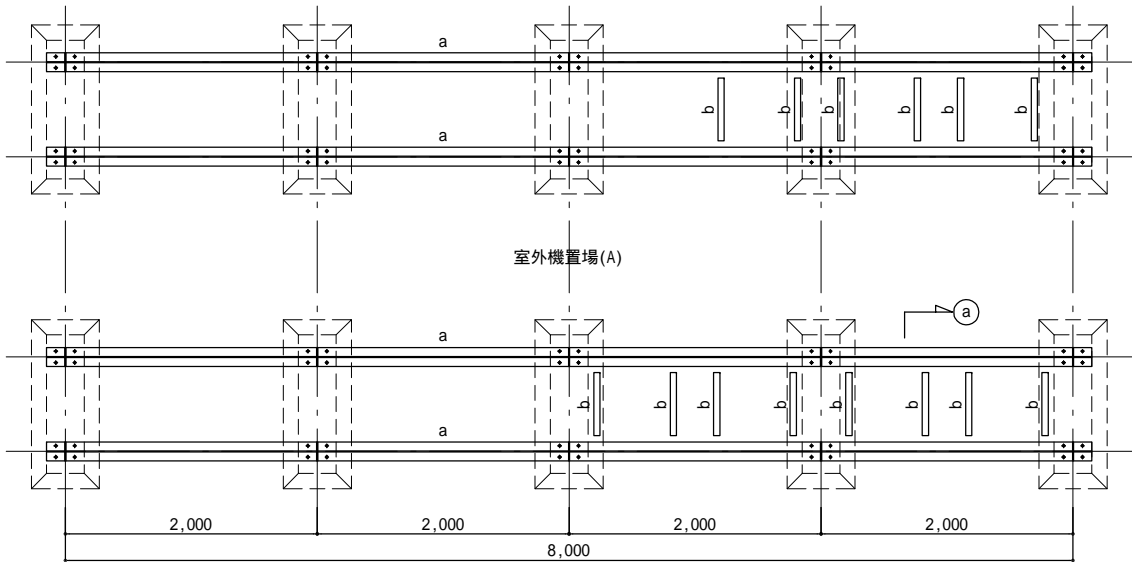
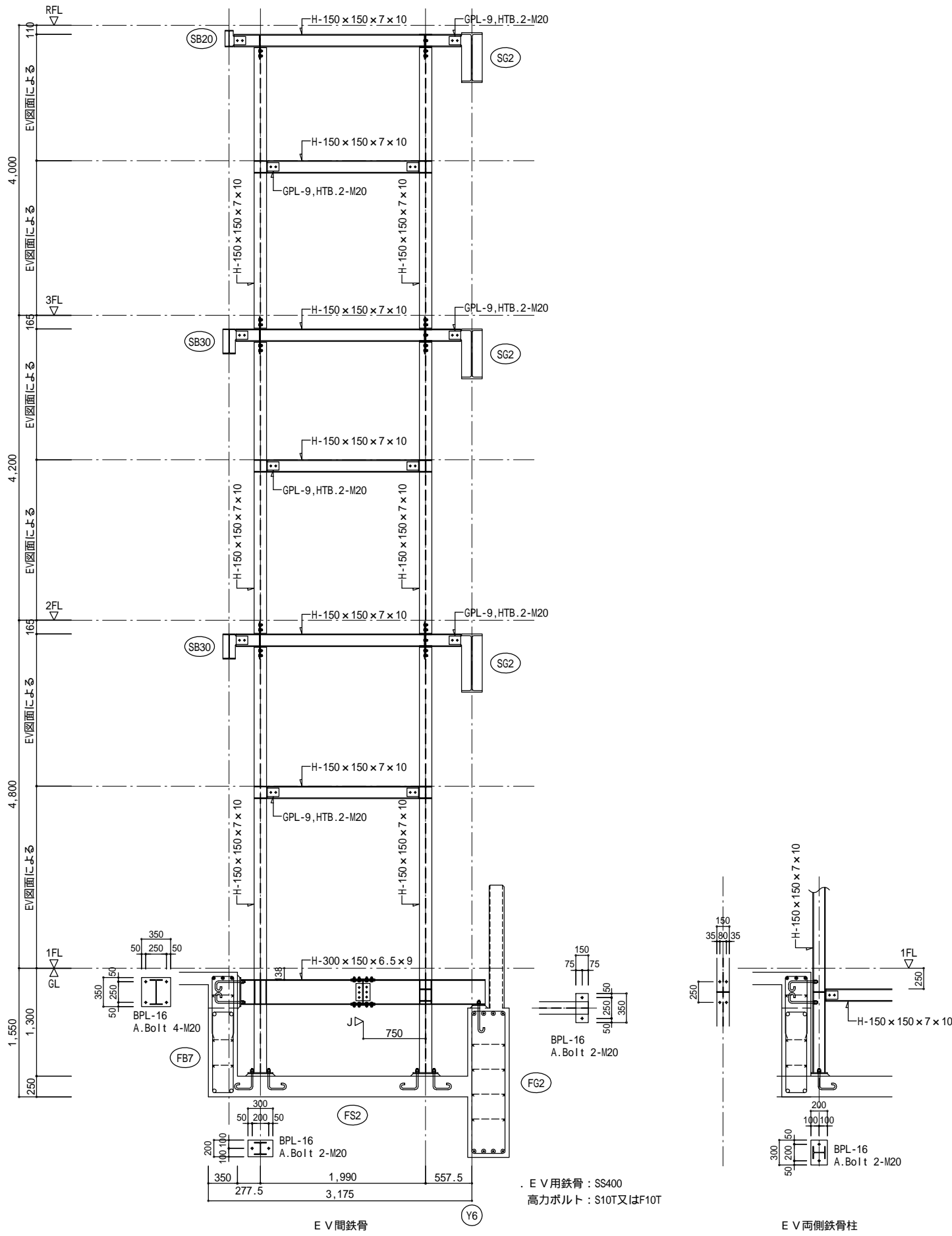
- 共通事項(特記なき限り)
- 1. 通しダイヤフラムは取り合う全て大梁フランジ板厚の2サイズかつ柱板厚の同サイズ以上とし、材質はSN490Cとする。
 - 2. 内ダイヤフラム(水平スチフナ板)は、取り合う当該大梁フランジ板厚の2サイズ以上とし、材質はSN490Bとする。
 - 3. 接合部パネル鋼管は取り合う柱の最も大きなサイズと板厚以上とする。材質は上級クラスによる。

<div>株式会社 山下テクノス</div> <div>YAMASHITA TECHNOS CO., LTD.</div>	<div>代表設計者</div> <div>一級建築士 第147732号 松崎 正志</div> <div>設計者</div> <div>一級建築士 第280115号 李 康仙</div> <div>構造設計一級建築士 第3442号</div>	<div>提出・訂正</div> <div>-----</div> <div>-----</div> <div>-----</div>	<div>件名</div> <div>健診施設等建設事業 建築工事</div>	<div>図面内容</div> <div>鉄骨軸組詳細図</div>	<div>図面番号</div> <div>S-42</div>
				<div>縮尺</div> <div>1/60 (A3版)</div>	<div>区分</div> <div>建築構造図</div>



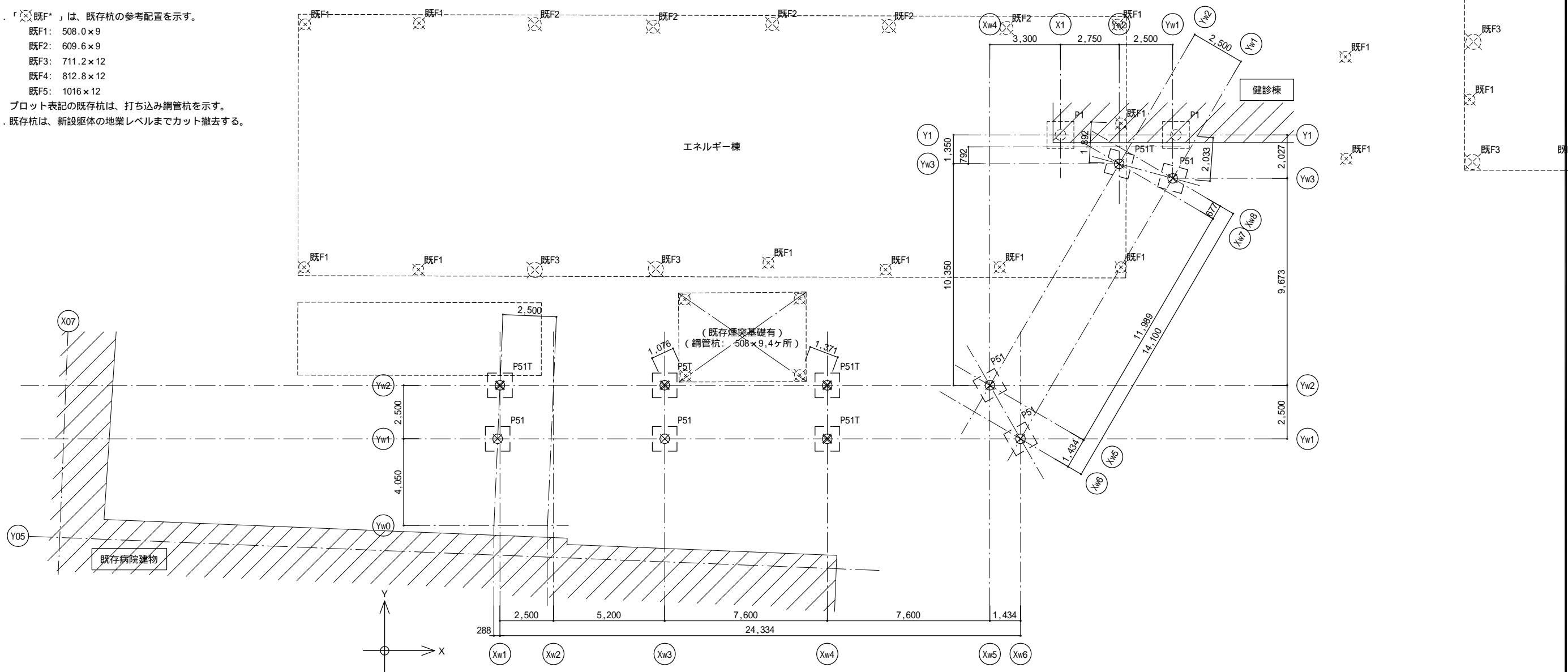


<div>パラベット配筋要領</div> <div>S=1:60</div> <div></div>	<div>屋上ハト小屋配筋要領図</div> <div>S=1:60</div> <div></div> <div>特記：ハト小屋表記寸法 H×B は意匠図より参照する。</div>	<div>屋上電気・設備用基礎配筋図</div> <div>S=1:60</div> <div></div> <div>特記： 1). 柱型基礎の場合、表記寸法 B × L は、400 × 400 (mm) 程度とする。 2). 桁基礎の場合、B=300mm程度とする。</div>
<div>腰壁および柱脚仕上コンクリート部の配筋要領</div> <div>S=1:60</div> <div></div>	<div>外部配管ビット配筋要領図</div> <div>S=1:60</div> <div></div>	



【特記事項】（特記なき限り、下記による）
1．鋼材材質：SS400、融溶亜鉛メッキ仕様
2．高力ボルト：F8T（融溶亜鉛メッキ仕様）

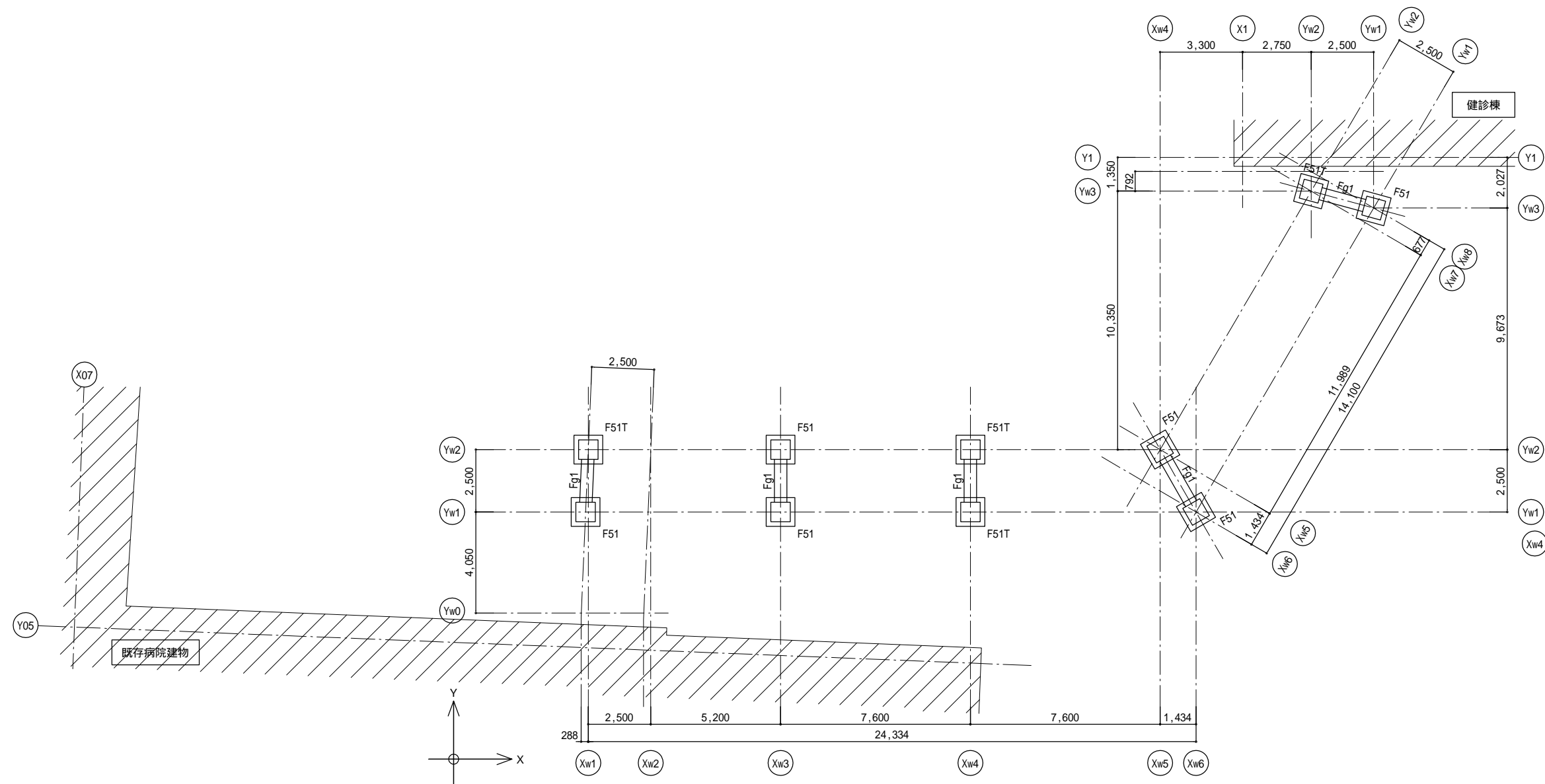
1. 「既F*」は、既存杭の参考配置を示す。
既F1: 508.0×9
既F2: 609.6×9
既F3: 711.2×12
既F4: 812.8×12
既F5: 1016×12
プロット表記の既存杭は、打ち込み鋼管杭を示す。
2. 既存杭は、新設躯体の地業レベルまでカット撤去する。



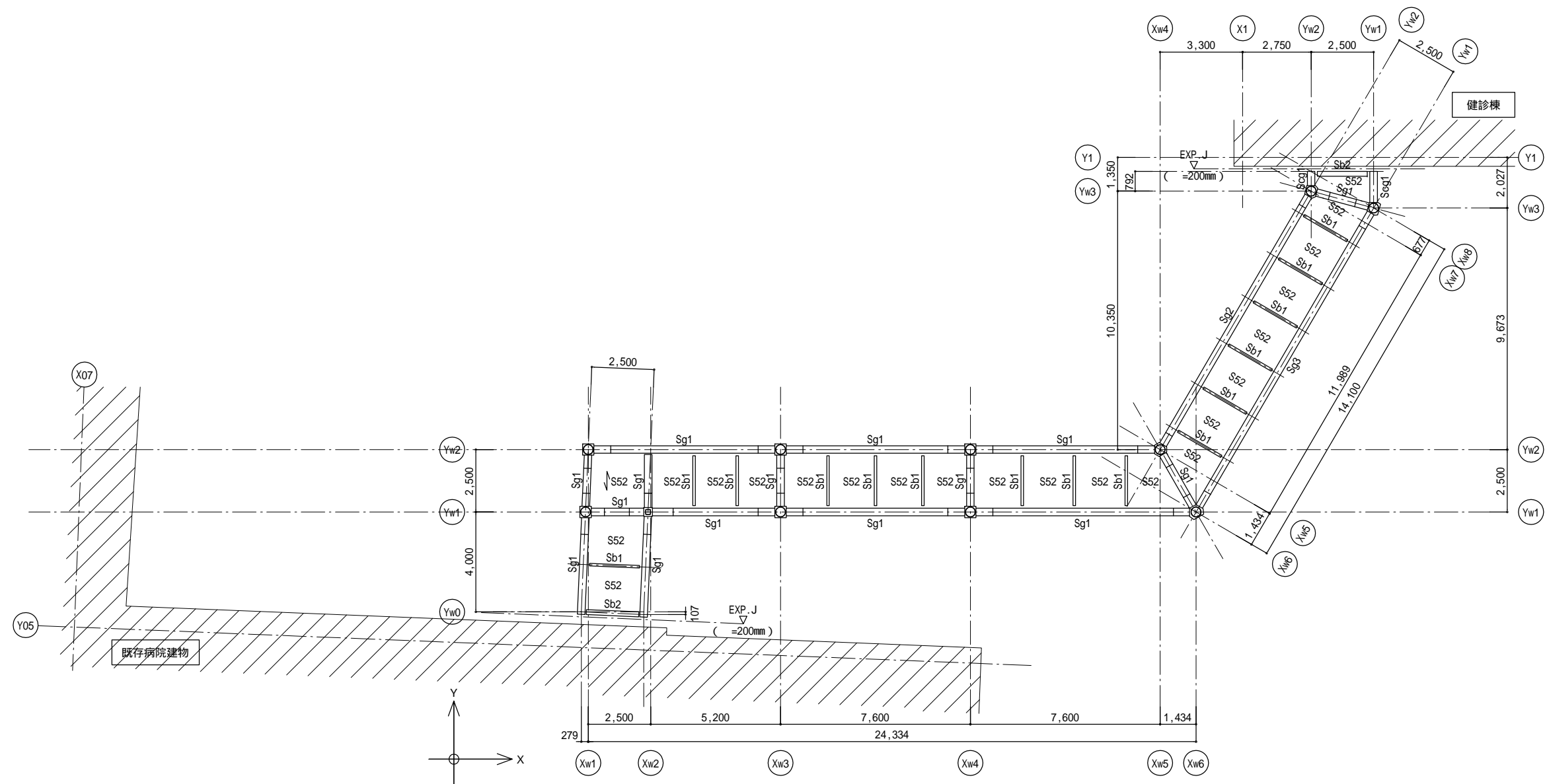
【渡り廊下】杭伏図 S=1:200

- 共通事項：（特記なき限り、下記による。）
- 設計GL=1FL=（標高H）173.12m
 - 杭頭レベル：GL-1,650
 - 杭芯は、通り芯振分けとし、許容施工偏心量は 100mm 以下とする。
 - 杭工法：NEWスーパーFK工法（大臣認定工法）

符号	記号	杭径-呼び名	杭長	上杭	下杭	長期支持力 (KN/本)	本数	F.T.Pile 構法
P51	⊗	450600	26m	PHC-B 450 13m	FK-A 450600 13m	750	6	標準タイプ
P51T	⊗	450600	26m	PHC-B 450 13m	FK-A 450600 13m	750	4	引抜タイプ
						合計	10	

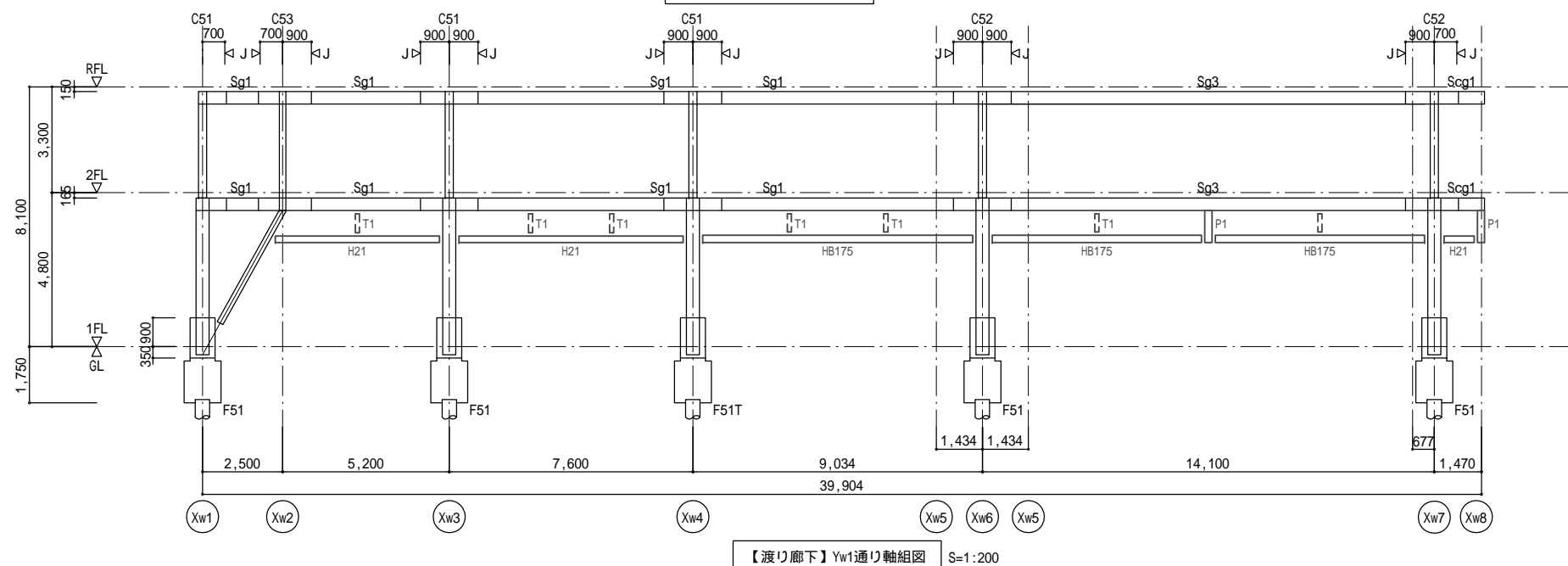
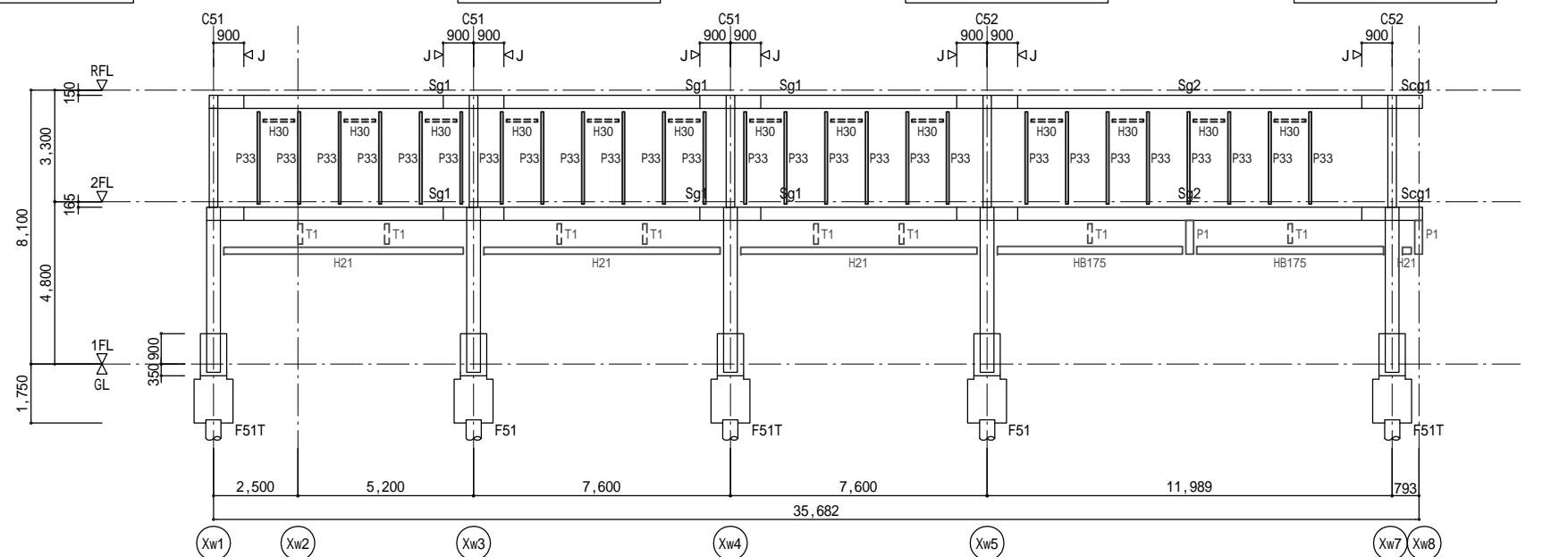
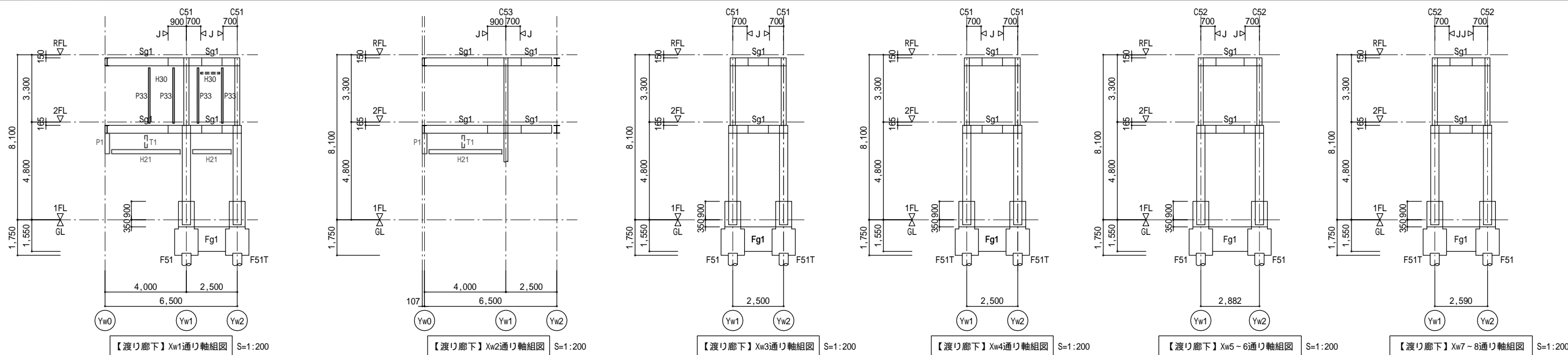


【渡り廊下】基礎伏図 S=1:200
共通事項：(特記なき限り、下記による。)
1．基礎フーチング下端レベル：GL-1,750
2．基礎梁上端レベル：GL-350

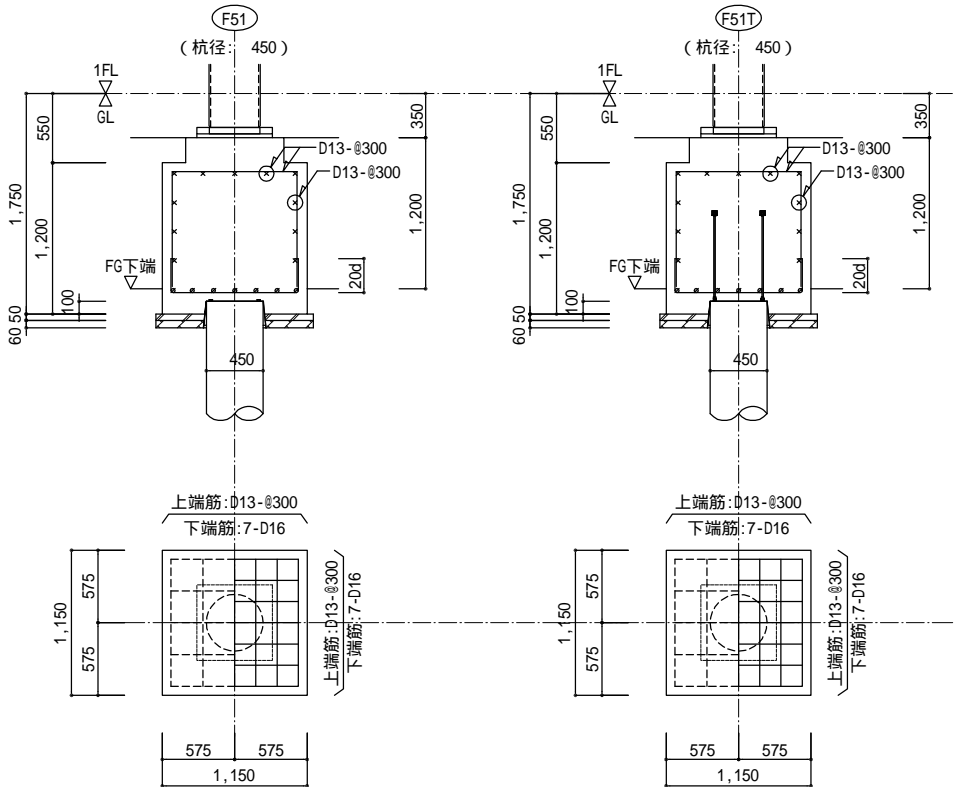


【渡り廊下】2階伏図 S=1:200

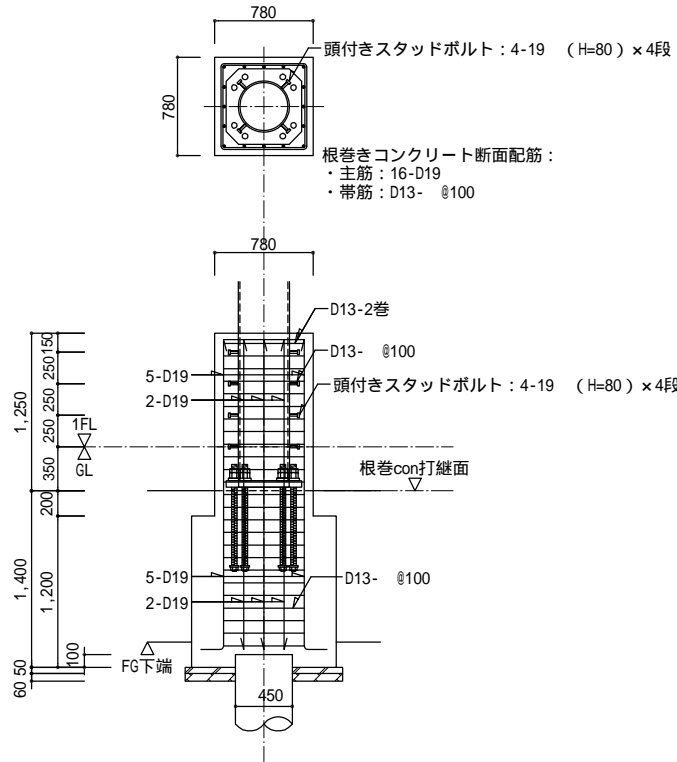
- 共通事項：（特記なき限り、下記による。）
- 鉄骨梁天端レベル：2FL-165（特記は軸組図による。）
 - スラブ（S71）レベル：2FL-15
 - は、スラブの主筋方向（デッキプレートの敷き込み方向）を示す。
特記なき限り、廊下幅方向を主力筋方向とする。



基礎フーチング断面図 S=1:60



柱脚根巻コンクリート配筋詳細図



地中大梁・小梁リスト S=1:60

符号	Fg1
位置	全断面
断面	
B×D	450×1,200
上端筋	4-D22
下端筋	4-D22
St.筋	D13- □@200
腹筋	4-D13

共通事項 (特記なき限り、下記による)

- 幅止筋 : D10-@1,000
- 鉄筋材料 : D10~D16 = SD295
D19~D25 = SD345
- 杭基礎ベース筋の配筋順序は特に指定がなく、現場監督員の指示による。

杭リスト

杭符号	呼び名	杭 種		Fc (N/mm ²)	長さ (m)	全長 (m)	長期許容支持力 (KN/本)	基礎埋込深さ H (mm)	セット数 (本)	杭頭接合 方法仕様
P51	450600	上杭	PHC-B種, 450	85	13	26	750	100	6	F.T.Pile構法 標準タイプ
		下杭	FK-A種, 450600	85	13					
P51T	450600	上杭	PHC-B種, 450	85	13	26	750	100	4	F.T.Pile構法 引抜タイプ 11-A種,4本,L=700
		下杭	FK-A種, 450600	85	13					
								合計	10	

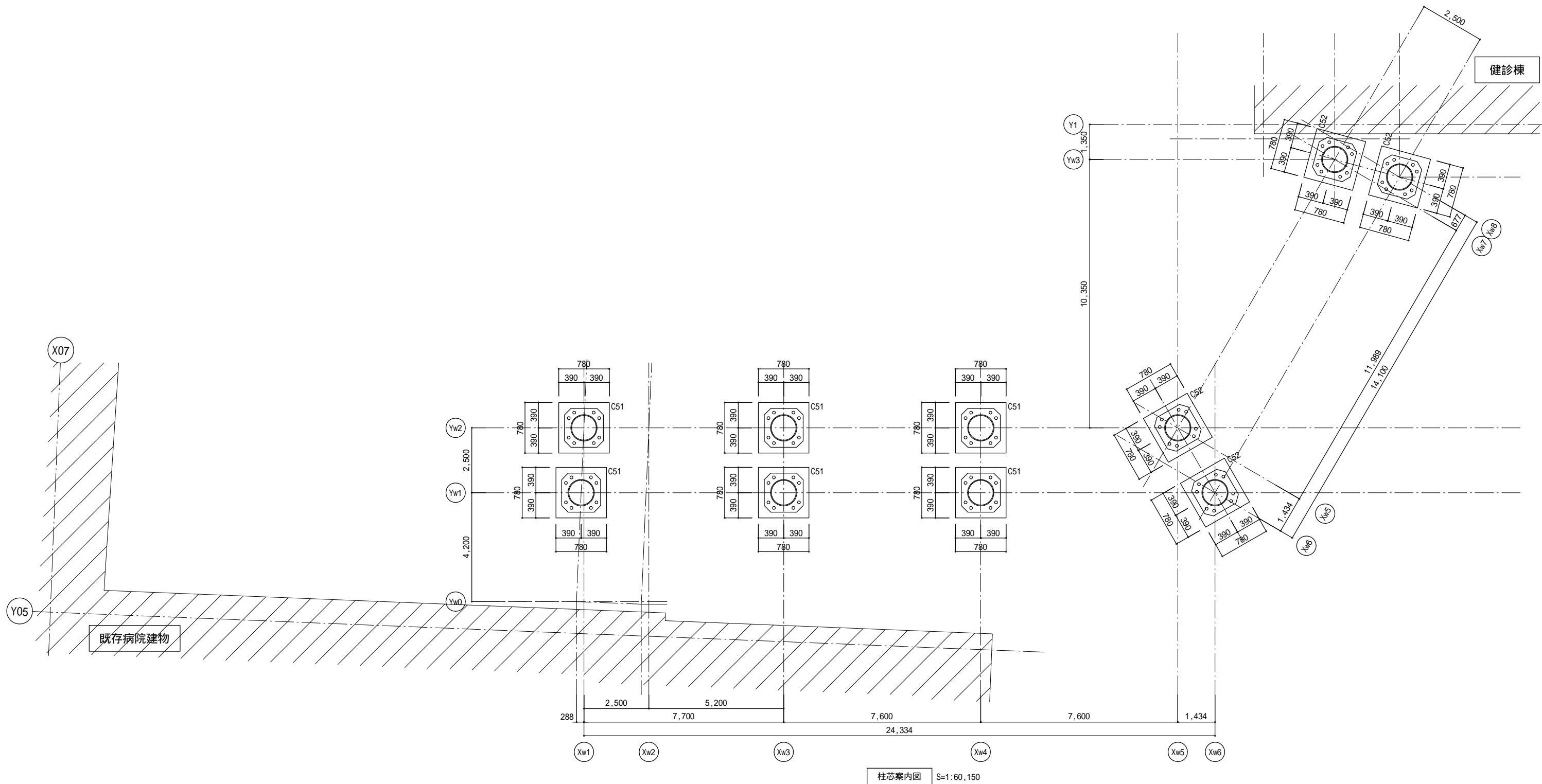
特記事項 :

- 杭 仕 様 : NEWスーパーFK工法 (大臣認定工法)
- 杭 継 手 : 無溶接継手 (評定取得工法)、予定採用工法 : ペアリングジョイント工法 (BCJ評定-FD0393)、トリプルジョイント工法 (BCJ評定-FD0183-07)
- 杭頭接合 : F.T.Pile構法 (評定取得工法)







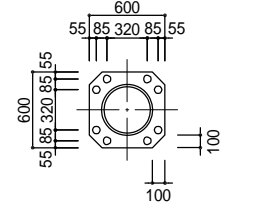
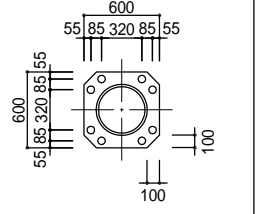
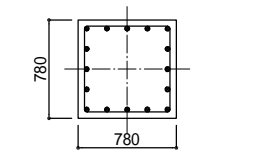
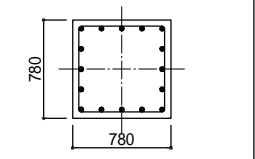
提出・訂正

件名

健診施設等建設事業 建築工事















鉄骨柱リスト S=1:60

符 号	C51	C52	C53
2 階			
	-250×250×9(BCR295)	-250×250×16(BCR295)	-200×200×9(BCR295)
細長比	x=36.6～43.4, y=36.1～37.3	x=36.7～46.9, y=39.0～39.3	x=43.8, y=43.7
1 階			
	○-406.4×12.7(STK400)	○-406.4×12.7(STK400)	-200×200×12(BCR295)
細長比	x=68.0～76.7, y=36.1～37.1	x=66.1～77.9, y=37.0～37.2	x=132.8, y=117.6
柱脚ベースプレート	断 面		
	スタッドボルト	頭付きスタッドボルト 4-19 (H=80)×4段	頭付きスタッドボルト 4-19 (H=80)×4段
	B. PL.	600×600×36(SN400B)	600×600×36(SN400B)
	A. Bo lt	8-M30(ABR400 (SNR400B))	8-M30(ABR400 (SNR400B))
柱脚基礎柱（根巻きを含む）	断 面		
	根巻高さ	1FL+900	1FL+900
	Dx×Dy	780×780	780×780
	主 筋	16-D19(SD345)	16-D19(SD345)
	HOOP	D13-□@100(SD295)	D13-□@100(SD295)

共通事項：（特記なき限り、下記による）

- 鉄骨柱鋼材材質：角形鋼管＝BCR295
丸型鋼管＝STK400
- ダイヤフラムの厚さは取り付く梁のフランジ板厚の2サイズアップ以上とし、材質はSN490Cとする。
- 柱脚アンカーボルトは、JIS B 1220 構造用転造ねじアンカ-ボルトを用いる。、L-65×65×6アンカーフレームにて施工する。
アンカーボルトの有効定着長さL 25dとし、アンカーフレーム（L-65×65×6）にて据え付けを行う。
- 柱脚根巻コンクリート配筋、スタッドボルト配置は、詳細図より参照する。

鉄骨梁リスト S=1:60

符号	Sg1	Sg2	Sg3	Scg1	Sb1	Sb2
R 階	断面  1.短スパン/2.500以下大梁に 2-16 @125(H=100)とする。	断面 	断面 	断面 	断面 	断面 
	サイズ 両端 ◇390×300×10×16 中央 H-390×300×10×16	両端 ◇390×300×10×16 中央 H-390×300×10×16	X6端 ◇390×300×12×19 中央 H-390×300×10×16 X8端 ◇390×300×10×16	基端 ◇390×300×10×16 先端 H-390×300×10×16	全断面 H-200×100×5.5×8	全断面 H-400×200×8×13
	スタッドボルト 2-16 @200(H=100) 1	2-16 @200(H=100)	2-16 @200(H=100)	2-16 @200(H=100)	1-16 @200(H=100)	1-16 @200(H=100)
	接合部 剛接継手による	剛接継手による	剛接継手による	剛接継手による	GPL-6,HTB.2×2-M20	GPL-6,HTB.2×2-M20
2 階	断面 	断面 	断面 	断面 	断面 	断面 
	サイズ 両端 ◇390×300×10×16 中央 H-390×300×10×16	両端 ◇390×300×10×16 中央 H-390×300×10×16	両端 ◇390×300×10×16 中央 H-390×300×10×16	基端 ◇390×300×10×16 先端 H-390×300×10×16	全断面 H-200×100×5.5×8	全断面 H-400×200×8×13
	スタッドボルト 2-16 @200(H=100)	2-16 @200(H=100)	2-16 @200(H=100)	2-16 @200(H=100)	1-16 @200(H=100)	1-16 @200(H=100)
	接合部 剛接継手による	剛接継手による	剛接継手による	剛接継手による	GPL-6,HTB.2×2-M20	GPL-6,HTB.2×2-M20

共通事項：

- 鉄骨鋼材材質の表記：
無印 SN400A
印 SN400B
印 SN490B

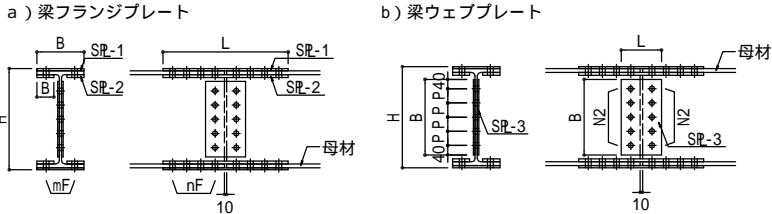
鉄骨梁剛接継手

（１）鉄骨梁継手リスト(S10T または F10T)

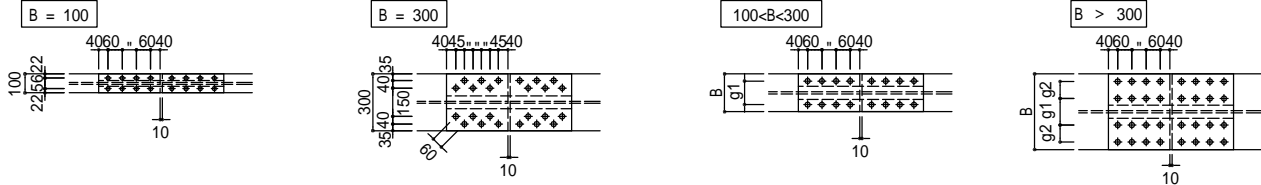
鋼材等級	採用	梁断面サイズ	ボルト径 (D)	フランジ			ウェブ		
				ボルト nF×mF	外添板 SR-1 t×B×L	内添板 SR-2 t×B×L	ボルト nW×mW	ピッチ Pc	添板 SR-3 t×B×L
400級		H-194×150× 6× 9	M16	2×2	9x150x290	9x 60x290	2×1	60	6x140x230
		H-244×175× 7×11	M20	2×2	9x175x290	9x 70x290	2×1	60	9x140x170
		H-294×200×8×12	M20	3×2	9x200x410	9x 80x410	3×1	60	9x200x170
		H-340×250× 9×14	M20	4×2	12x250x530	12x100x530	3×2	60	9x200x290
		H-390×300×10×16	M20	4×2	12x300x440	12x110x440	4×1	60	9x260x170
		H-350×175× 7×11	M20	4×2	12x300x440	12x110x440	5×1	60	9x320x170

（２）高力ボルト接合要領

高力ボルト仕様



c) 梁フランジのボルト配置



B	100	125	150	175	200	250	300	350	400
g1	56	75	90	105	120	150	150	140	140
g2	—	—	—	—	—	—	40	70	90

接合部で接合される相手材の方が弱い時は弱い方で決定する。

添板の材質は母材と同質とする。

2 枚で挟んで接合する場合、板厚に1mm以上の差があればフィラープレートを挿入する。

一般継手のボルトは S10T または F10T を適用する。

ただし、溶融亜鉛めっきの場合は、F8Tを適用し、継手仕様は監督者の指示による。

床版スラブリスト

符 号	厚 さ	位 置	主力筋方向		配力筋方向		備 考
			端 部	中央部	端 部	中央部	
S51	150	上端筋	D10,D13-@200		D10-@200		R 階床スラブ (フラットデッキt=0.8使用)
		下端筋	D10-@200		D10-@200		
S52	150	上端筋	D10,D13-@200		D10-@200		2 階床スラブ (フラットデッキt=0.8使用)
		下端筋	D10-@200		D10-@200		
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					
		上端筋					
		下端筋					

鉄骨その他部材リスト

符 号	部 材		備 考
HB175	H-175×175×7.5×11	(SN400A)	GPL-9 HTB.2×2-M20(P=60)
H21	-150×150×6	(STKR400)	端部接合：詳細図による
T1	L-65×65×6	(SS400)	GPL-6 HTB.2-M20(P=60)
P1	H-175×175×7.5×11		GPL-9 HTB.2×2-M20(P=60)
P21	-150×150×6	(STKR400)	端部接合：詳細図による
-P31	L-65×65×6	(SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60)、外壁工事
-P32	L-75×75×6	(SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60)、外壁工事
P33	L-75×75×9	(SS400)	GPL-9 HTB.2-M20(P=60)、建築工事
H30	L-50×50×6	(SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60)、外壁工事
-H31	L-65×65×6	(SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60)、外壁工事
-H32	L-75×75×6	(SS400)	GPL-6 HTB.2-M16(P=60)、外壁工事

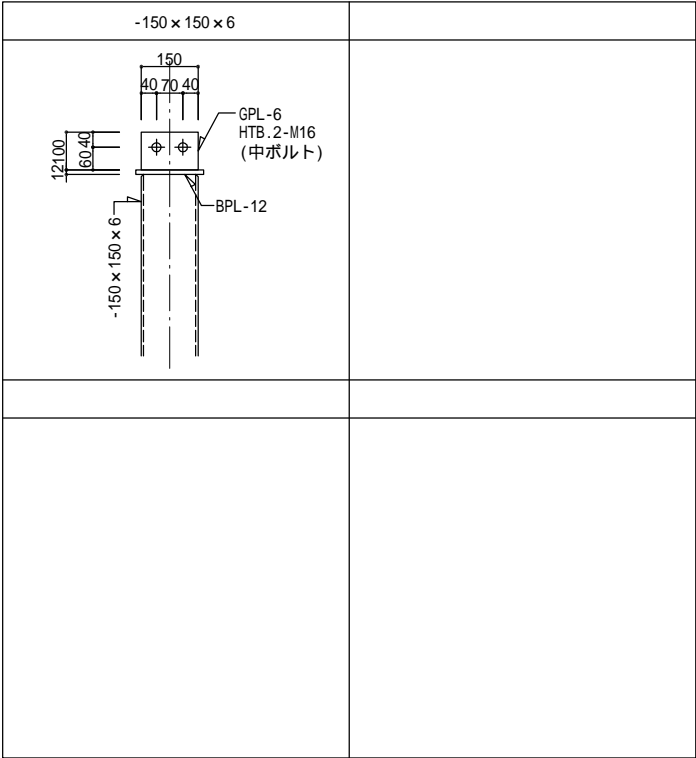
共通事項：（特記なき限り、下記による）

1. 使用鋼材：
- 無 印 SN400A（規格品）
 - ◇ 印 SN400B（規格品）
 - 印 SN490A（規格品）
- . その他の特記は、鉄骨小梁の表記による。

端部接合部

S=1:20

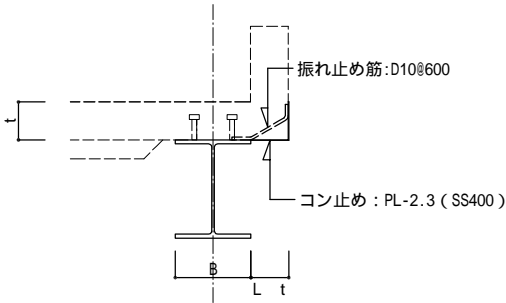
特記：取合いプレート類の材質は、SN400Bとする。



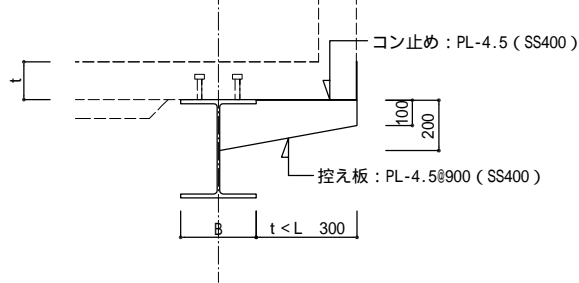
コン止めプレート要領

S=1:30

・L t 場合

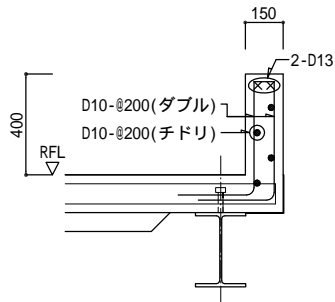


・t < L 300 場合



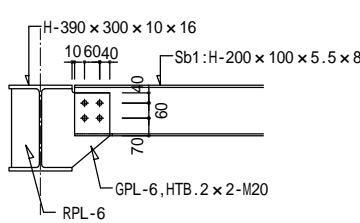
バラベット配筋詳細図

S=1:30



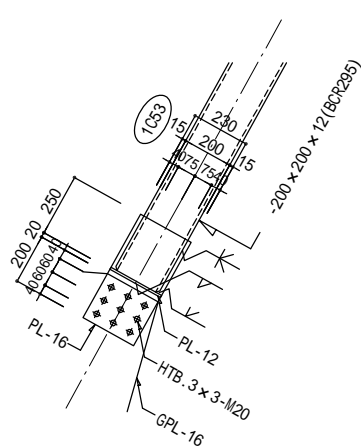
鉄骨小梁Sb1継手要領

S=1:30

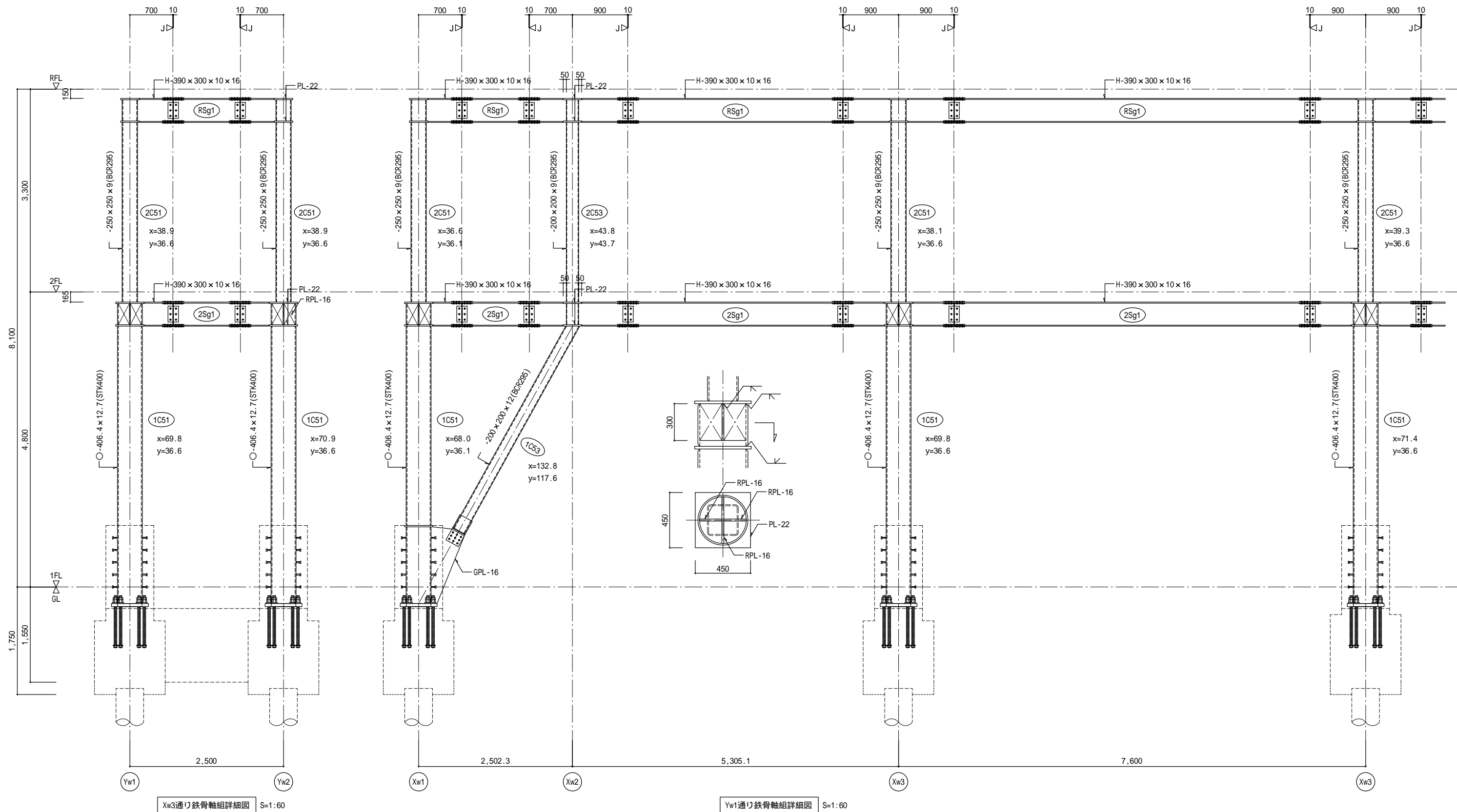


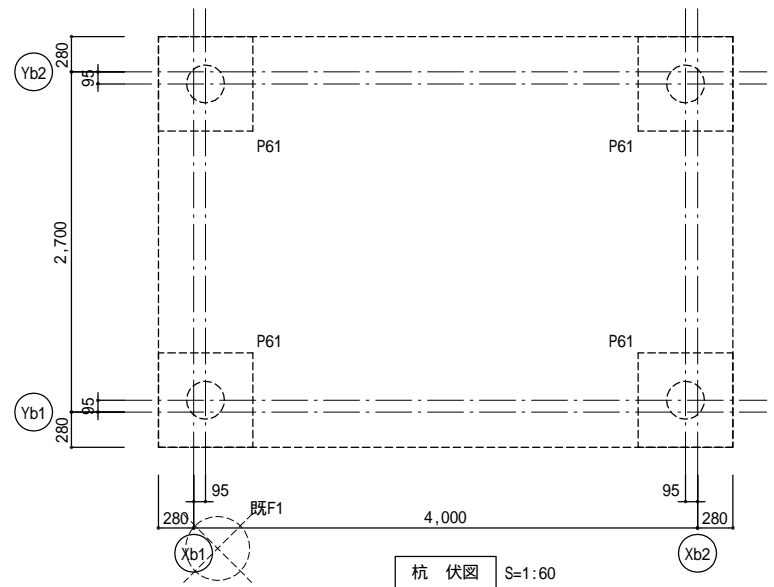
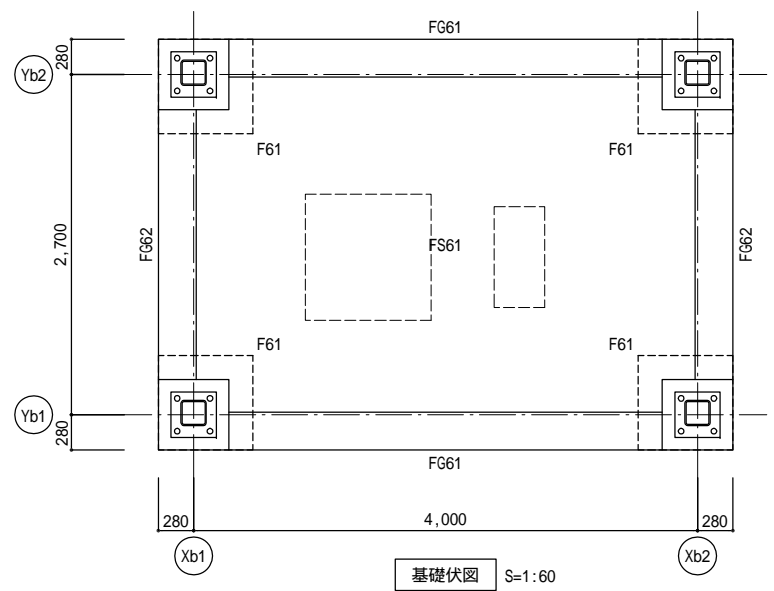
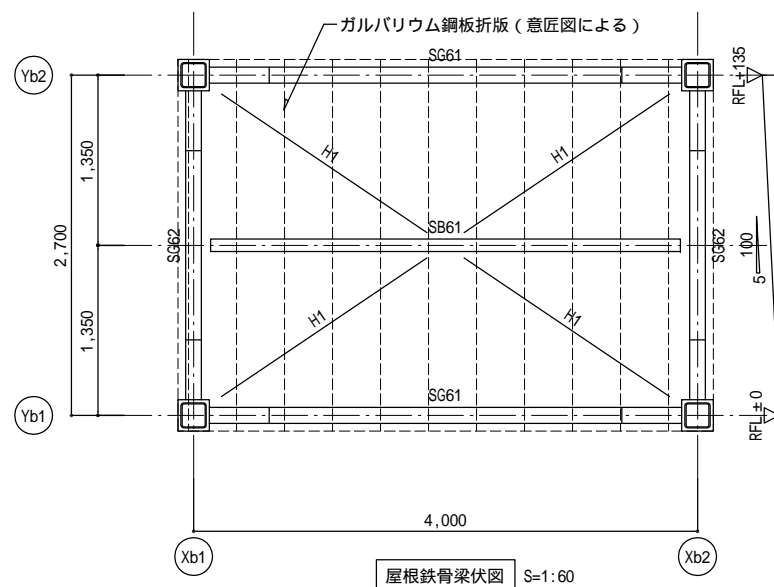
傾斜柱ボルト接合要領

S=1:30

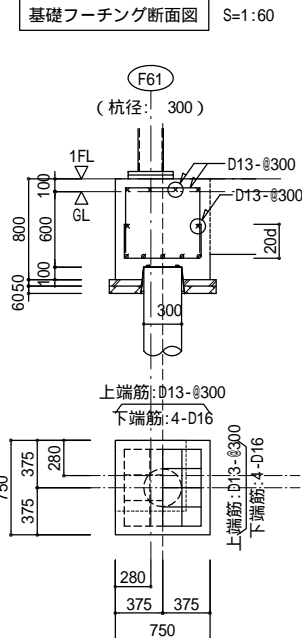


注記：根巻断面帯筋はGPLを貫通して配筋する。




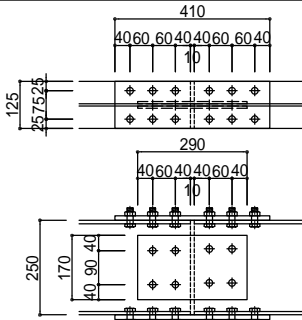
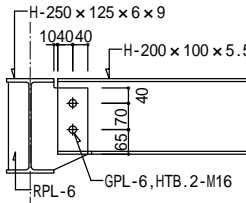


・「~~○~~既F1」は、近接の既存杭(打込み鋼管杭: 508.0×9)を示す。





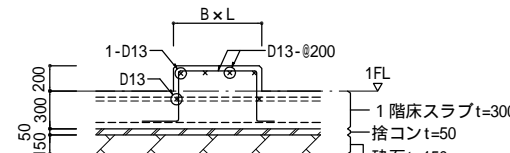


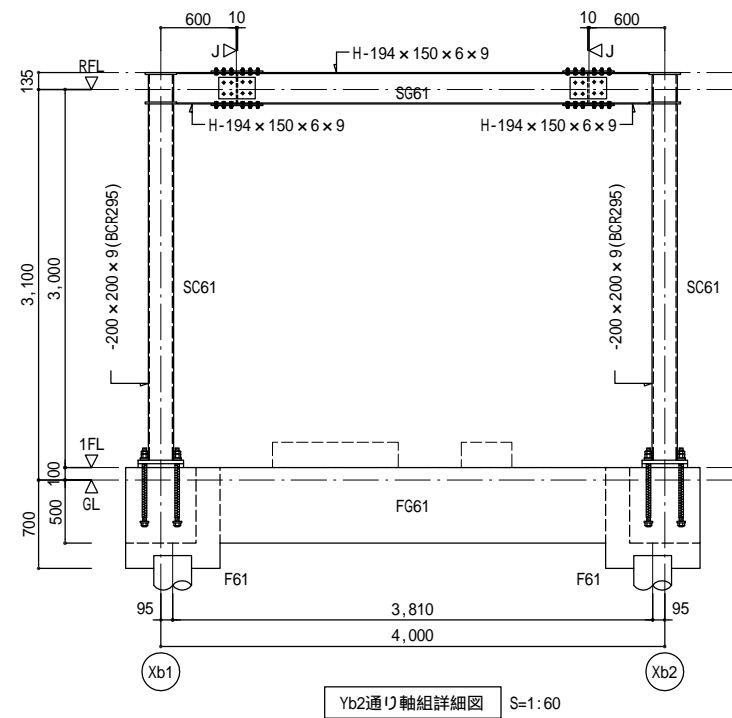
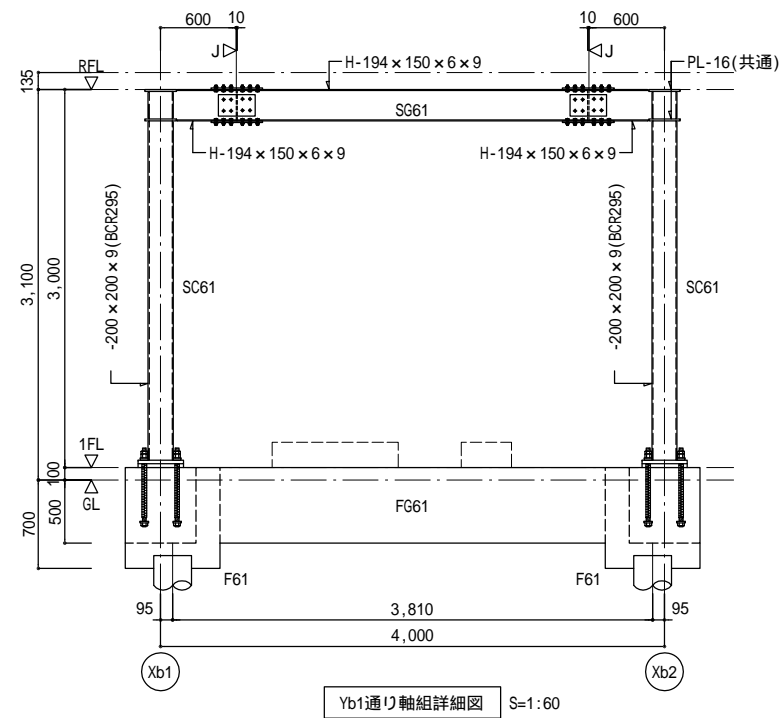
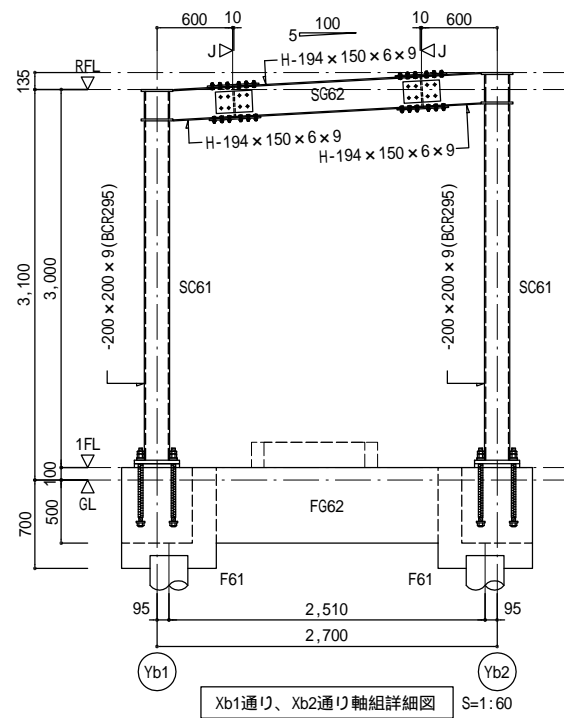
地中大梁・小梁リスト		S=1:60
符号	FG61, FG62	
位置	全断面	
断面		
B×D	300×600	
上端筋	3-D19	
下端筋	3-D19	
St.筋	D13- □ @200	
腹筋	2-D13	
<div>共通事項</div> (特記なき限り、下記による) <ol style="list-style-type: none"> 幅止筋: D10-@1,000 鉄筋材料: D10-D16 = SD295 D19-D25 = SD345 主筋配筋: X方向 (FG61) = 上・上 Y方向 (FG62) = 下・下 		

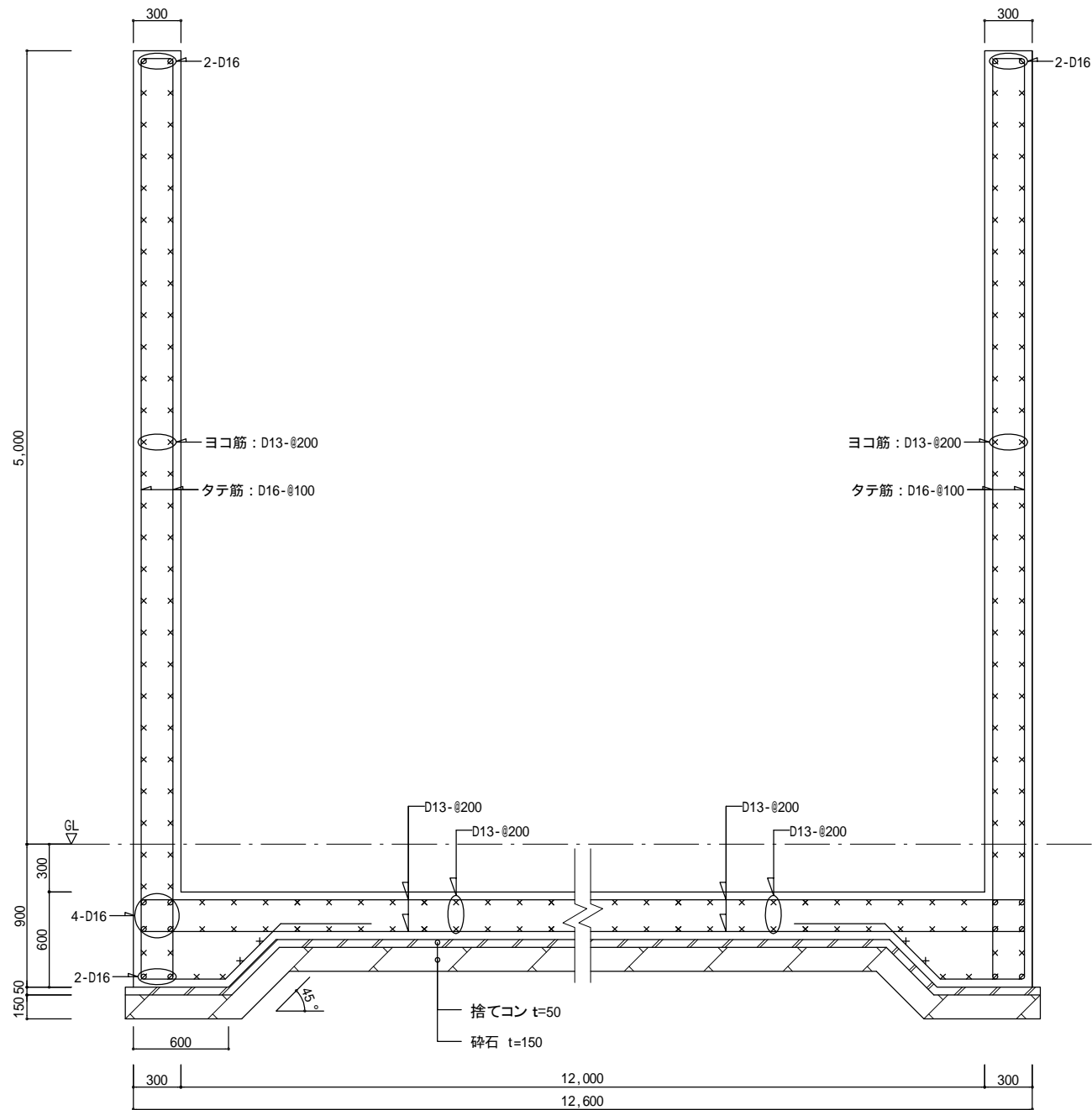
鉄骨柱リスト		S=1:60
符 号		SC61
断 面		-200 × 200 × 9 (BCR295)
柱脚ベースプレート	断 面	
	製品番号	ベースバック 20-09V
	B.P.L.	360 × 360 × 28 (SN490B)
	A.Bolt	4-M30 (BPM-SD490)
柱脚基礎柱	断 面	
	Dx × Dy	560 × 560
	主 筋	12-D16 (SD295)
	HOOP	D13-□@100 (SD295)

符 号	部 材	備 考
SG61 SG62	端 部 :  -250×125×6×9 中 央 : H -250×125×6×9	継手: 下記「剛接合継手」による。
SB61	全断面 : H-200×100×5.5×8	継手: 下記「ピン接合継手」による。
H1	1-M16 (ターンバックル付き)	屋根水平ブレース
鉄骨梁継手詳細図	剛接合継手 (H-250×125×6×9)	ピン接合継手 (H-200×100×5.5×8)
	 <p>フランジ : 3×2-M16, (外) PL-12×125×410 (内) 無し ウェブ : 2×2-M16, PL-6×170×290</p>	 <p>共通事項: 1. 鋼材材質 : 無印 SN400A 印 SN400B 2. 通しダイヤフラムは取り合う全て大梁 フランジ板厚の2サイズかつ柱材板厚の 同サイズ以上とし、材質はSN490Cとする。 内ダイヤフラムの場合はSN490Bとする。</p>

杭リスト										
杭符号	呼び名	杭 種		Fc (N/mm ²)	長さ (m)	全長 (m)	長期 許容支持力 (KN/本)	基礎 埋込深さ H (mm)	セット数 (本)	杭頭接合 方法仕様
P61	300450	上杭	PHC-B種, 300	85	12	24	370	100	4	F.T.Pile構法 標準タイプ
		下杭	FK-A種, 300450	85	12					
特記事項										
1.杭 仕 様 : NEWスーパーFK工法 (大臣認定工法)										
2.杭 継 手 : 無溶接継手 (評定取得工法)										
3.杭頭接合 : F.T.Pile構法 (評定取得工法)										

床版スラブリスト		S=1:60					
符号	厚さ	位置	主力筋方向		配力筋方向		備 考
			端 部	中央部	端 部	中央部	
FS61	300	上端筋	D13-@200		D13-@200		1 階床スラブ 地 業： 砕石150、捨コン50
		下端筋	D13-@200		D13-@200		
機器用基礎配筋要領	<div></div>						
	特記：基礎の表記寸法 B × L は意匠図より参照する。						

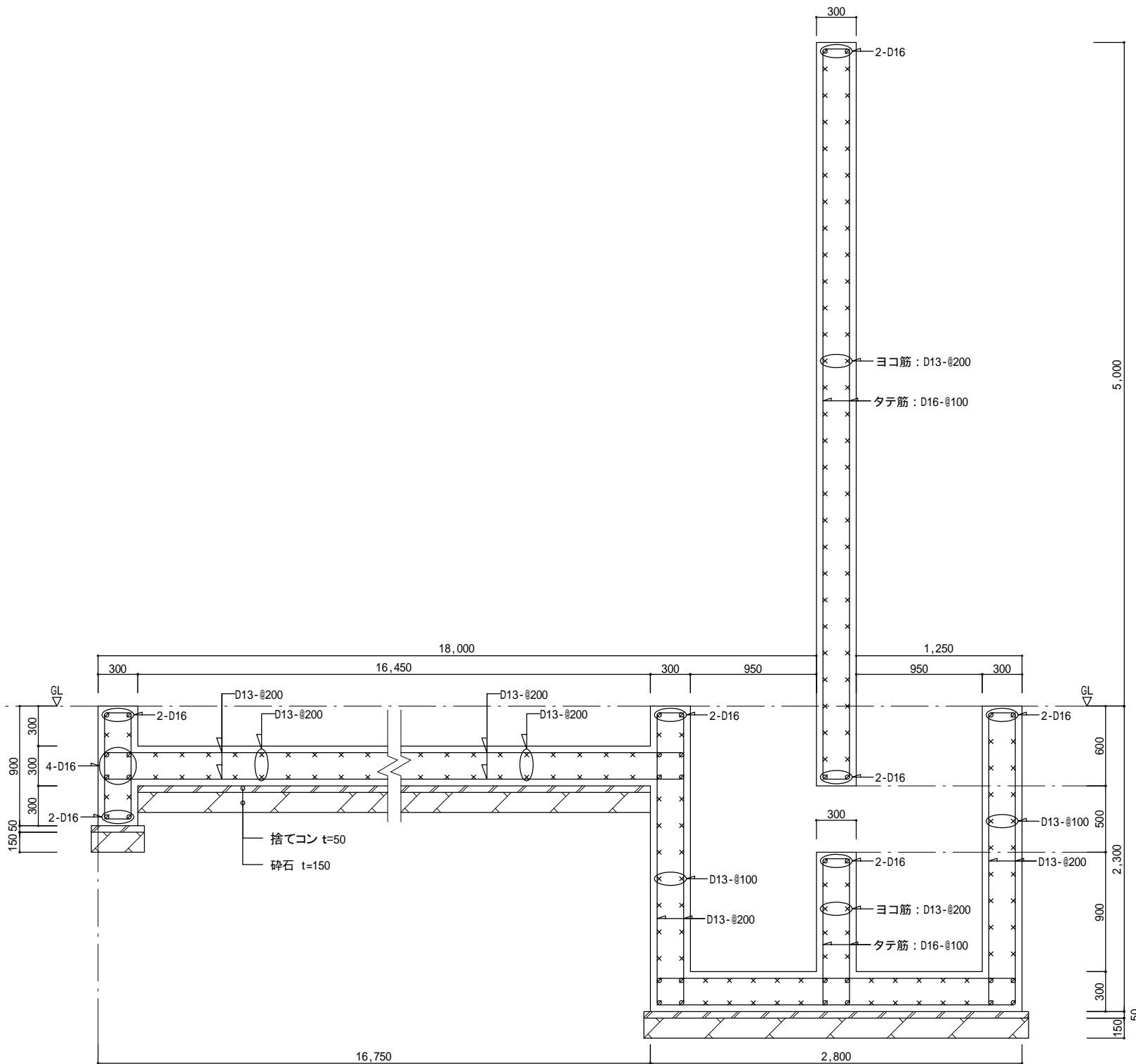




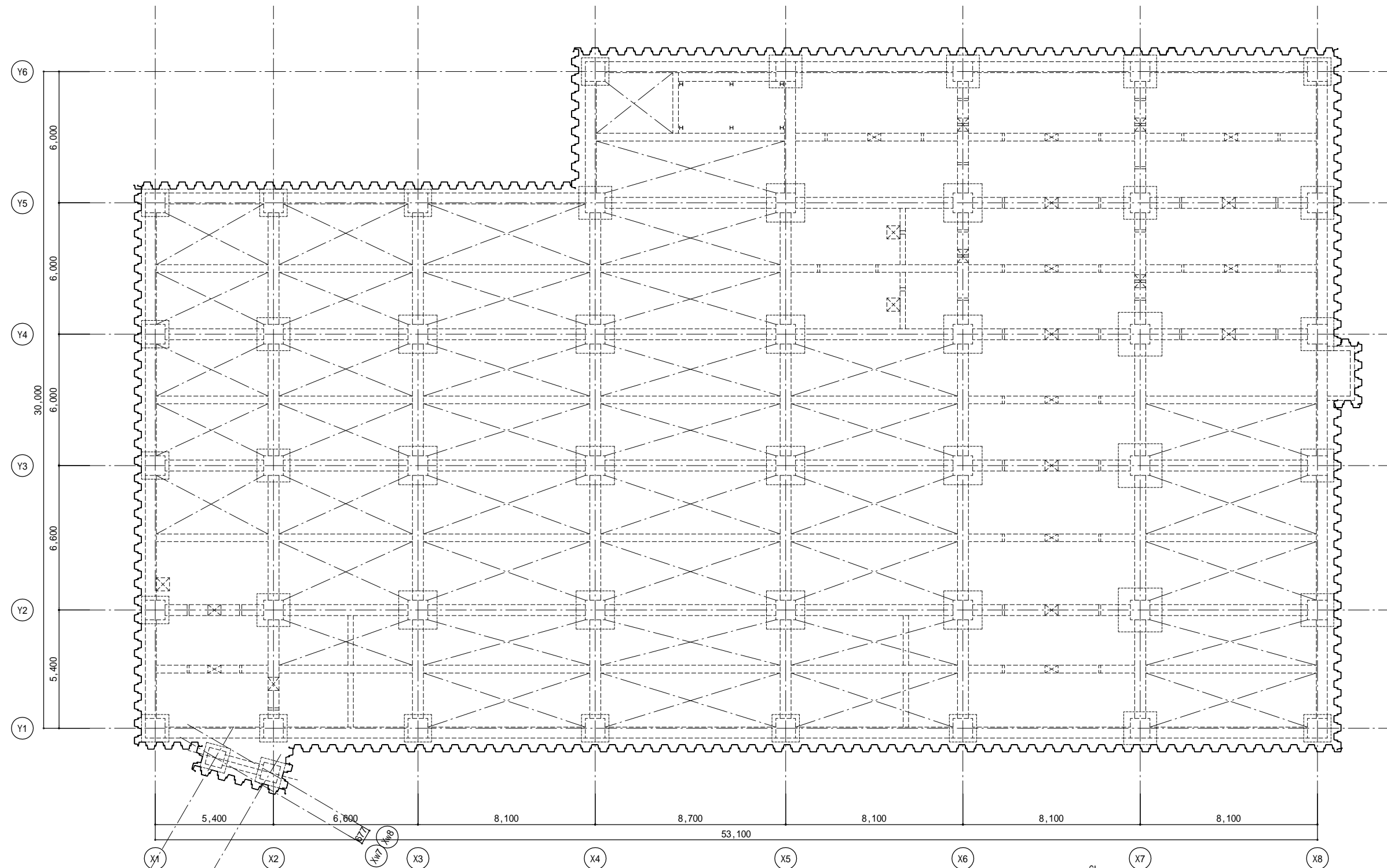
貯雪スペース幅方向断面図 S=1:40

【共通事項】

1. コンクリート : $F_c=24N/mm^2$
2. 鉄筋材料 : D10~D16 = SD295
D19~D25 = SD345



貯雪スペース奥行き方向断面図 S=1:40

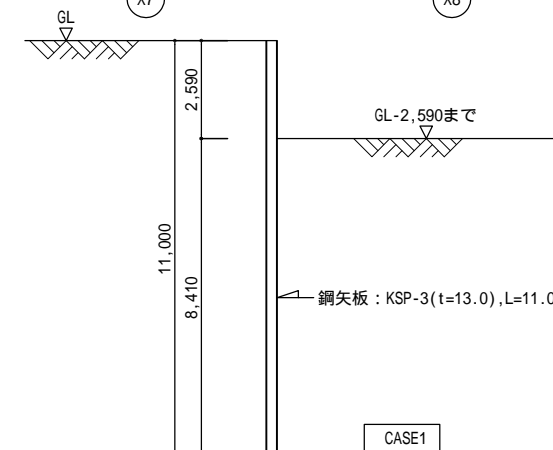


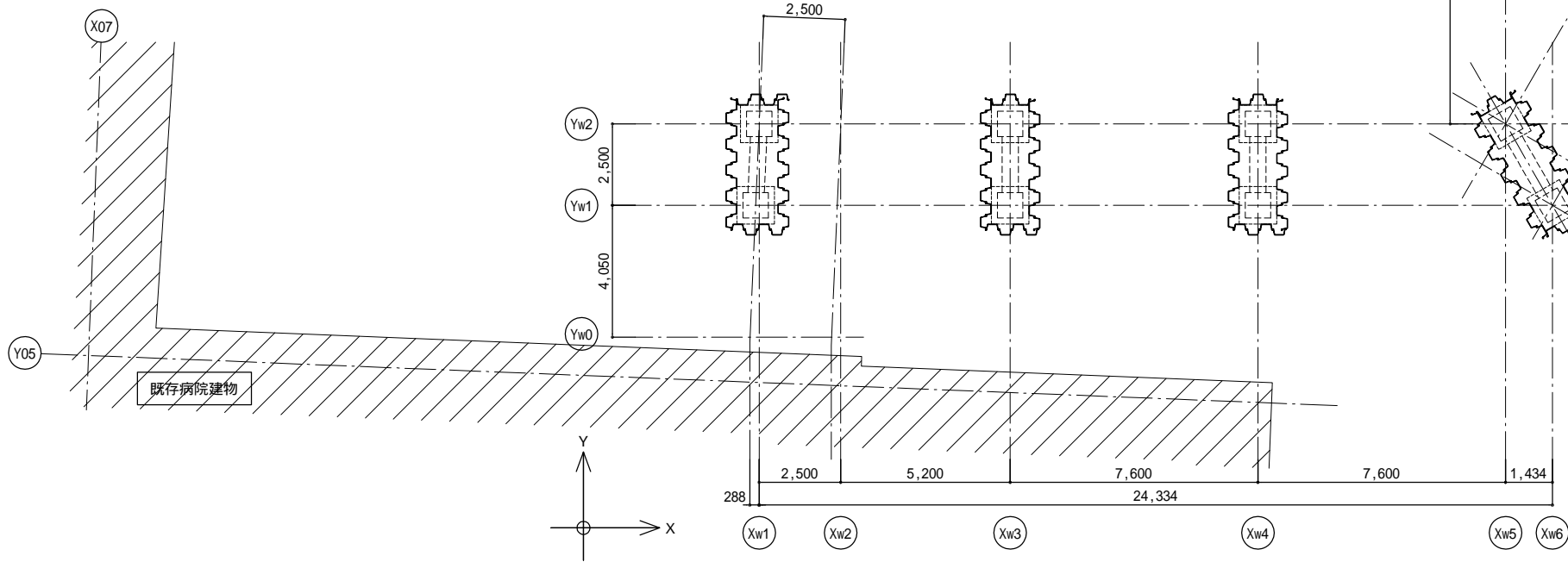
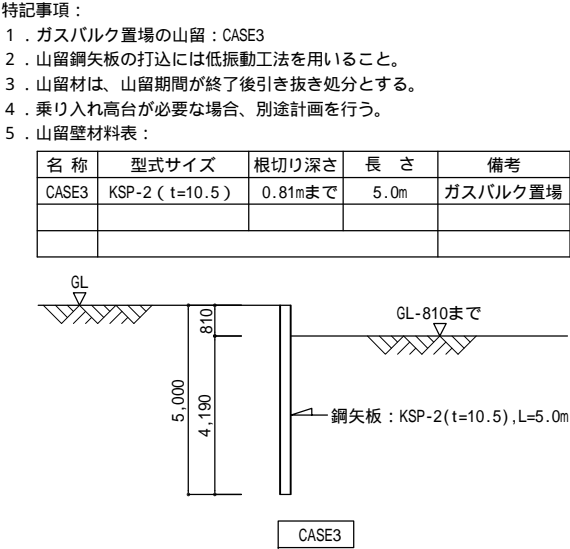
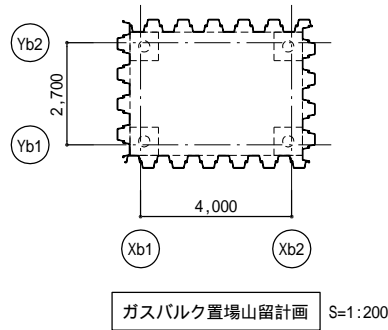
【本体】山留計画 S=1:200

特記事項：

- 1．本体建物山留：CASE1
- 2．山留鋼矢板の打込には低振動工法を用いること。
- 3．山留材は、山留期間が終了後引き抜き処分とする。
- 4．乗り入れ高台が必要な場合、別途計画を行う。
- 5．山留壁材料表：

名 称	型式サイズ	根切り深さ	長 さ	備考
CASE1	KSP-3 (t=13.0)	2.59mまで	11.0m	本体建物





【渡り廊下】山留計画 S=1:200

- 特記事項：
1. 渡り廊下の山留：CASE2
 - ただし、健診施設の本体建物に近接基礎部分は、本体建物の山留計画による。
 2. 山留鋼矢板の打込には低振動工法を用いること。
 3. 山留材は、山留期間が終了後引き抜き処分とする。
 4. 乗り入れ高台が必要な場合、別途計画を行う。
 5. 山留壁材料表：

名 称	型式サイズ	根切り深さ	長 さ	備考
CASE2	KSP-2 (t=10.5)	1.86mまで	6.0m	渡り廊下

